

令和 7 年度

第 2 学年 シラバス



滋賀県立米原高等学校

目次

教 科	科 目	ページ
国 語	論理国語（普通科文型）	1
	論理国語（普通科理型・英語コース・理数科）	4
	古典探究（普通科文型・英語コース）	7
	古典探究（普通科理型・理数科）	10
地歴公民	地理総合	13
	日本史探究（普通科文型）	20
	日本史探究（普通科英語コース）	28
	世界史探究（普通科文型）	36
	世界史探究（普通科英語コース）	41
数 学	数学Ⅱ（普通科文型）	46
	数学Ⅱ（普通科理型）	48
	数学Ⅱ（普通科英語コース）	50
	数学Ⅲ	56
	数学B	59
	数学C	62
理 科	物理基礎	64
	物理	67
	化学	70
	生物	73
	地学基礎（普通科文型・英語コース）	75
	地学基礎（普通科理型）	77
保健体育	体育	79
	保健	83
外 国 語	英語コミュニケーションⅡ	85
	論理・表現Ⅱ	91
	実践コミュニケーションⅡ	94
情 報	情報Ⅰ	96
理 数	理数数学Ⅱ	98
	理数数学特論	105
	理数物理	108
	理数化学	110
	理数生物	115
	理数探究	117

科目名	論理国語		学年	類型・コース	単位数
			2 年	普通科文型	3
学習の 目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。				
使用教材	教科書:『精選 論理国語』(数研出版) 副教材:『プレミアムカラー国語便覧デジタル版』(数研出版) 『字義で覚える常用漢字』(第一学習社)				
評価	評価法	定期考査、小テスト、課題考査、ノート、提出物で評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。	
		b	思考・判断・表現	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1 学期	4	・チェックポイント[1] 〈主張の明確化〉 ＊筆者の主張について読み取る ・「学問の発見」 ・チェックポイント[2] 〈定義と抽象化〉 ＊評論における対比を学ぶ ・「手の変幻」	・主張を明確に伝えるための表現方法を理解する。 ・「人はなぜ学ばなければならないか」という問いに対する筆者の考えを根拠とともに読み取る。 ・文章中の抽象的な表現の内容を踏まえ、筆者の「芸術」についての考え方に対する自分の考えを述べる。 ・逆説的な表現の内容を理解する。	中間考査 発問評価 中間考査 発問評価 小テスト 中間考査 発問評価	中間考査 発問評価 (読む) 中間考査 発問評価 プリント (読む・書く) 中間考査 発問評価	記述点検 記述点検 プリント 記述確認 プリント
	5	＊現代社会に目を向ける ・「『内的成長』社会へ」 ＊具体と抽象について考えてみる ・「『具体』から『抽象』へ」	・日本社会を取り巻く変化について考える。 ・社会を表す言葉を学ぶ。 ・言葉の性質についての筆者の考えを読み取る。 ・筆者の主張を踏まえ、事物を抽象的にとらえることの利点が見える具体的事例を日常生活の中から考える。	小テスト 期末考査 発問評価	プリント (読む) 期末考査 発問評価	記述確認 プリント

	中間考査			小テスト 期末考査 発問評価 小テスト 期末考査 発問評価 小テスト	プリント 期末考査 発問評価 (読む) 期末考査 発問評価 (書く)	記述確認 プリント 記述確認 プリント
	6	・*自然科学と社会の問題を考える ・「未来世代への責任」 ・「科学・技術の歴史の中での社会」	・環境問題について筆者の意見の論理をとらえる。 ・「未来世代への責任」という題で自分の考えを書く。 ・科学・技術の歴史を読み取り、「『道具』としての意味合いを持った科学」の内容を的確にとらえる。 ・科学と社会との関わり方について自分の考えを深める。			
	7	・*段落のまとまりを考える ・「〈近代〉の入口と出口の間」 ・探究の扉「科学の現場・科学と生命」 ・チェックポイント[4] 〈文体と構成〉	・意味段落の内容をつかみ、小見出しを考えながら読む。 ・情報社会における知識の意味を考える。 ・意味段落のまとまりを意識して読み、各段落の内容、および文章全体の構成をとらえる。			
	期末考査					
2 学期	9	・*文章の構成をとらえる ・「弱いつながり」 ・チェックポイント[3] 〈語彙〉 ・*与えられたテーマを引用しながら意見をまとめる ・「消費されるスポーツ」	・筆者が考える「問題の本質」の内容を論拠とともに読み取る。 ・筆者の言う「弱い絆」をつくるにはどうしたらよいか、自分の考えをまとめる。 ・「メディア」と「スポーツ」の関係から活動の総体としての「社会」を導くという文章展開をとらえる。	中間考査 発問評価 小テスト 中間考査 発問評価 小テスト 中間考査 発問評価 小テスト	中間考査 発問評価 (書く) 中間考査 発問評価 (読む) 中間考査 発問評価 (読む)	記述確認 プリント 記述確認 行動確認 記述分析 行動確認
	10	・チェックポイント[5] 〈情報の視覚化〉 ・*具体例に注目して読む ・「偶然とは何か」 ・「野生の『クジラ』と人間の『鯨』」	・事例と筆者の論の関係について考える。 ・現代における「偶然」の意義を整理させる。 ・自然の「普遍的価値」「多元的価値」と、筆者の考える〈環境倫理〉〈環境道徳〉の内容を読み取る。 ・筆者が危惧する現代社会の「食」について具体的な例を挙げて説明する。	発問評価 小テスト 期末考査 発問評価	発問評価 プリント (読む) 期末考査 発問評価 プリント (書く)	行動確認 記述分析 行動確認
	中間考査			期末考査 発問評価 小テスト	期末考査 発問評価 (読む)	記述確認 プリント 行動確認
	11	・*文章中の効果的な表現に注目する ・「胆力について」 ・「日本語は非論理的か」	・筆者の逆説的言説を理解したうえで、異なる事例を考え、論理的に説明する。 ・文章中の比喩表現や強調表現の内容を理解する。			
	12	・探究の扉「日本的論理」	・文章内容を「日本語は非論理的か」の内容と関連づけて考察する。			
	期末考査					

3 学期	1	＊筆者の論を踏まえて自分の意見を持つ ・「安楽への全体主義」 ・「いき」の美学	・現状と筆者が理想とする態度の対立を読み取る。 ・現代的課題を克服するために必要な努力について、自分の考えをまとめさせる。 ・筆者が述べる「二重構造」「いき」の内容を理解したうえで、現代の日本人の美意識について自分の考えを論じる。	学年末 考查 発問評価 学年末 考查 発問評価	学年末 考查 発問評価 (読む) 学年末 考查 発問評価 (書く)	記述分析 プリント 行動分析 記述分析 記述確認 プリント
	2	＊世界を多面的にとらえる ・「越えていく翻訳」 ・研究の扉『「空気」と『世間』・『世間』とは何か』	・筆者の考える「翻訳の理想の形」を読み取らせる。 ・言語の違いからくる原文と訳文の世界観の違いを実感させる。 ・《「空気」と「世間」》と《「世間」とは何か》を読み比べたうえで、「世間」と「社会」という「ダブルスタンダード」を生きている日本人について考察し、意見をまとめることができる。	学年末 考查 発問評価	学年末 考查 発問評価 (読む)	記述確認 プリント
	学年末考查					
	3	＊構成を考えながら自分の意見を書く ・「小論文を書く」	・文章の筆者の意図をとらえ、批評する。 ・文章の組立てや進め方を工夫して書く。 ・自分や他の生徒が書いた文章を評価し、直すべき点を明らかにする。 ・相互評価がもつ機能を認識し、自分の表現を改善する。	小論文 原稿	小論文 原稿 (書く)	小論文 原稿

担当者からのメッセージ(学習方法など)

2年生では、1年生で学んだ論理的な読み方を更に深めていきます。様々なジャンルの文章を読みながら、本文の要旨を捉えることを心掛けましょう。また、複数の情報や資料と本文の関連性を意識することも大切です。日頃から、広い視野で物事を捉え、事象の関連性を考え、異なる視点で物事を捉えなおす練習をしておきましょう。また、漢字・語彙の獲得は普段からの継続した取り組みが必要です。気になる語はすぐに辞書で確認しましょう。

科目名	論理国語		学年	類型・コース	単位数
			2 年	普通科理型、英語コース、理数科	2
学習の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。				
使用教材	教科書:『精選 論理国語』(数研出版) 副教材:『プレミアムカラー国語便覧デジタル版』(数研出版) 『字義で覚える常用漢字』(第一学習社)				
評価	評価法	定期考査、小テスト、課題考査、ノート、提出物で評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。	
		b	思考・判断・表現	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1 学期	4	・チェックポイント[1] 〈主張の明確化〉 *筆者の主張について読み取る ・「学問の発見」 ・チェックポイント[2] 〈定義と抽象化〉 *評論における対比を学ぶ ・「手の変幻」	・主張を明確に伝えるための表現方法を理解する。 ・「人はなぜ学ばなければならないか」という問いに対する筆者の考えを根拠とともに読み取る。 ・文章中の抽象的な表現の内容を踏まえ、筆者の「芸術」についての考え方に対する自分の考えを述べる。 ・逆説的な表現の内容を理解する。	中間考査 発問評価 中間考査 発問評価 小テスト 中間考査 発問評価	中間考査 発問評価 (読む) 中間考査 発問評価 プリント (読む・書く) 中間考査 発問評価	記述点検 記述点検 プリント 記述確認 プリント
	5	*現代社会に目を向ける ・『内的成長』社会へ *具体と抽象について考えてみる ・『具体』から『抽象』へ	・日本社会を取り巻く変化について考える。 ・社会を表す言葉を学ぶ。 ・筆者の主張を踏まえ、事物を抽象的にとらえることの利点がわかる具体的事例を日常生活の中から考える。	小テスト 期末考査	プリント (読む) 期末考査	 記述確認

	中間考査			発問評価	発問評価	プリント
	6	*自然科学と社会の問題を考える ・「未来世代への責任」 ・「科学・技術の歴史の中での社会」	・環境問題について筆者の意見の論理をとらえる。 ・「未来世代への責任」という題で自分の考えを書く。 ・科学・技術の歴史を読み取り、「『道具』としての意味合いを持った科学」の内容を的確にとらえる。 ・科学と社会との関わり方について自分の考えを深める。	小テスト 期末考査 発問評価 小テスト 期末考査 発問評価	プリント 期末考査 発問評価 (読む) 期末考査 発問評価 (書く)	記述確認 プリント 記述確認 プリント
	7	*段落のまとまりを考える ・「〈近代〉の入口と出口の間」 ・探究の扉「科学の不現場・科学と生命」 ・チェックポイント[4] 〈文体と構成〉	・意味段落の内容をつかみ、小見出しを考えながら読む。 ・情報社会における知識の意味を考える。 ・意味段落のまとまりを意識して読み、各段落の内容、および文章全体の構成をとらえる。 ・	小テスト		
	期末考査					
2 学期	9	*文章の構成をとらえる ・「弱いつながり」 ・チェックポイント[3] 〈語彙〉 *与えられたテーマを引用しながら意見をまとめる ・「消費されるスポーツ」	・筆者が考える「問題の本質」の内容を論拠とともに読み取る ・筆者の言う「弱いつながり」をつくるにはどうしたらよいか、自分の考えをまとめる。 ・「メディア」と「スポーツ」の関係から活動の総体としての「社会」を導くという文章展開をとらえる。	中間考査 発問評価 小テスト 中間考査 発問評価 小テスト 中間考査	中間考査 発問評価 (書く) 中間考査 発問評価 (読む) 中間考査	記述確認 プリント 記述確認 行動確認 記述分析
	10	・チェックポイント[5] 〈情報の視覚化〉 *具体例に注目して読む ・「偶然とは何か」 ・「野生の『クジラ』と人間の『鯨』」	・事例と筆者の論の関係について考える。 ・現代における「偶然」の意義を整理させる。 ・自然の「普遍的価値」「多元的価値」と、筆者の考える〈環境倫理〉〈環境道徳〉の内容を読み取る。 ・筆者が危惧する現代社会の「食」について具体的な例を挙げて説明する。	発問評価 小テスト 期末考査 発問評価	発問評価 プリント (読む) 期末考査 発問評価 プリント (書く)	行動確認 記述分析 行動確認
	中間考査					
	11	*文章中の効果的な表現に注目する ・「胆力について」 ・「日本語は非論理的か」	・筆者の逆説的言説を理解したうえで、異なる事例を考え、論理的に説明する。 ・文章中の比喩表現や強調表現の内容を理解する。	期末考査 発問評価 小テスト	期末考査 発問評価 (読む)	記述確認 プリント 行動確認
	12	・探究の扉「日本的論理」	・文章内容を「日本語は非論理的か」の内容と関連づけて考察する。			
	期末考査					

3 学期	1	*筆者の論を踏まえて自分の意見を持つ ・「安楽への全体主義」	・現状と筆者が理想とする態度の対立を読み取る。 - 現代課題を克服するために必要な努力について、自分の考えをまとめさせる。	学年末 考查	学年末 考查 (読む)	記述分析 プリント
	2	*伝統を見つめ直し現代について考える ・「いき」の美学 ・研究の扉『「空気」と「世間」』・『「世間」とは何か』	・筆者が述べる「二重構造」「いき」の内容を理解したうえで、現代の日本人の美意識について自分の考えを論じる。 ・《「空気」と「世間」》と《「世間」とは何か》を読み比べたうえで、「世間」と「社会」という「ダブルスタンダード」を生きる日本人について考察し、意見をまとめることができる。	学年末 考查 発問評価	学年末 考查 発問評価 (書く)	行動分析 記述分析 記述確認 プリント
	学年末考查			学年末 考查 発問評価	学年末 考查 発問評価 (読む) (書く)	小論文 原稿
	3	*構成を考えながら自分の意見を書く ・「小論文を書く」	・文章の筆者の意図をとらえ、批評する。 ・文章の組立てや進め方を工夫して書く。 ・自分や他の生徒が書いた文章を評価し、直すべき点を明らかにする。 ・相互評価がもつ機能を認識し、自分の表現を改善する。	小論文 原稿	小論文 原稿 (書く)	

担当者からのメッセージ(学習方法など)

2年生では、1年生で学んだ論理的な読み方を更に深めていきます。様々なジャンルの文章を読みながら、本文の要旨を捉えることを心掛けましょう。また、複数の情報や資料と本文の関連性を意識することも大切です。日頃から、広い視野で物事を捉え、事象の関連性を考え、異なる視点で物事を捉えなおす練習をしておきましょう。また、漢字・語彙の獲得は普段からの継続した取り組みが必要です。気になる語はすぐに辞書で確認しましょう。

科目名	古典探究		学年	類型・コース	単位数
			2 年	普通科 (文型・英語コース)	3
学習の 目標	＊生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ＊論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ＊言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
使用教材	教科書:『古典探究 古文編』『古典探究 漢文編』(数研出版) 副教材:『古典常識も学べる 新明説総合古典文法』(尚文出版) 『古文単語パレット 345』(浜島書店) 『精選漢文』(尚文出版) 『プレミアムカラー国語便覧デジタル版』(数研出版)				
評価	評価法	定期考査、小テスト、課題考査、ノート、提出物で評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。	
		b	思考・判断・表現	「読むこと」の領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典を通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで古典に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1 学期	4	*日記文学の文体に親しむ 『更級日記』 「東路の道の果て」 「物語」	*敬語の基礎を習得するとともに古典文法、付属語の理解のもとに適切な現代語訳をする。 *作者が『源氏物語』を読むことに没頭していることがわかる表現を抜き出し、そのときの気持ちを考える。 *『源氏物語』に登場する「夕顔」や「浮舟」について調べ、作者が二人を取り上げた理由を考える。	中間考査	中間考査 発問評価	課題 ノート グループ ワーク

	5	＊諸子百家の思想について違いをまとめる 『論語』 『孟子』 『荀子』	＊句法や語彙を正確に理解し、適切な現代語訳ができる。 ＊孔子の思想を受けて儒家の思想がどのように展開したのかを理解する。 ＊儒家の思想について、これまでに習得した語法や句法の知識を駆使し、論理を正確に読み取る。	中間考查	中間考查 発問評価	課題 ノート グループ ワーク
	中間考查			期末考查	期末考查 発問評価	課題 ノート
	6	＊古典文学が伝える普遍的な価値を考える① 『源氏物語』 「光源氏誕生」	＊著名な古典文学作品である『源氏物語』やその作者について、関心を持ち、深く知る。 ＊帝・桐壺更衣・弘徽殿女御の人物像について考える。 ＊敬語の用法について理解を深めるとともに、古典文法、付属語の理解のもとに適切な現代語訳をする。			
	7	＊諸子百家の思想について違いをまとめる 『老子』『莊子』 『韓非子』	＊儒家と道家では、それぞれ人間が生きていくうえでどのようなことに重きを置いているか、考える。 ＊本文から読み取れる君主のあるべき姿を説明する。	期末考查	期末考查 発問評価	課題 ノート グループ ワーク
	期末考查					
2 学期	9	＊古典文学が伝える普遍的な価値を考える② 『源氏物語』 「小柴垣のもと」	＊光源氏は「女子」のどこに興味をひかれているのか、説明する。 ＊和歌中の「若草」「露」「初草」が何をたとえているか、それぞれの歌は何を訴えようとしているか、説明する。	中間考查	中間考查 発問評価	課題 ノート グループ ワーク
	10	＊漢文句形に習熟し、漢文の物語を楽しむ① 『史記』『鴻門之会』	＊語句の意味や句法を理解し、適切に現代語訳する。 ＊登場人物の関係について理解し、その行動の意図を読み取る。	中間考查	中間考查 発問評価	課題 ノート
	中間考查			期末考查	期末考查 発問評価	課題 ノート グループ ワーク
	11	＊歴史的人物の描写に注目する 『大鏡』 「花山天皇の出家」 「南院の競射」	＊二方面に対する敬語、二重敬語、最高敬語について理解し、適切な現代語訳をする。 ＊登場人物の感情の機微を読み取り、理解する。			
	12	＊漢文句形に習熟し、漢文の物語を楽しむ② 『史記』 「四面楚歌」 「項王自刎」	＊語句の意味や句法の理解をさらに深め、正しく現代語訳する。 ＊登場人物の行動とそこから浮かび上がる人物像について考察する。	期末考查	期末考查 発問評価	課題 ノート グループ ワーク
	期末考查					

3 学期	1	＊古典随筆に親しみ、時代や筆者独自の美意識を読み取る 『枕草子』 「大納言殿参り給ひて」 「二月つごもりころに」	＊語句の意味や句法を理解し、正しく現代語訳する。 ＊場面を正確に理解し、登場人物の状況について読み取り、その感情について考える。	学年末 考查	学年末 考查	ノート グループ ワーク
	2	＊歴史的背景をふまえて漢文の読みを深める 『楚辞』 「漁父辞」 『陶淵明集』 「桃花源記」	＊屈原と漁父の問答について、それぞれの考え方をまとめ、その違いについて考える。 ＊漁父の歌った歌謡の意味を考える。 ＊「桃源郷」は現在どのような意味で使われているか調べる。 ＊作品全体の構成を考える。	学年末 考查	学年末 考查	ノート グループ ワーク
	学年末考查					
	3	＊無常観を学びつつ、文章の調子などに気づく 『方丈記』 「ゆく河の流れ」 『平家物語』 「忠度の都落ち」	＊筆者の無常観や人生観を読み取る。 ＊軍記物語というジャンルについて、文学史的な位置づけも含めて知る。 ＊敬語、音便などの理解のもと、関心を持って読解する。また、音読により文章の調子にも関心を向ける。	学年末 考查 発問評価 小テスト	学年末 考查 発問評価 小テスト	課題 ノート 課題 ノート プリント

担当者からのメッセージ(学習方法など)

2年生の古典探究では、これまで以上に予習復習を怠ることなく着実な努力を重ねることが求められます。予習の際には辞書や文法書を使って本文の語順に沿った現代語訳をするようにしてください。古文を自力で読めるようになるには、古典文法・古文常識についての知識、古文単語の習得は必須です。古文単語帳の単語は、多義語についても2年生のうちにマスターしておきましょう。漢文についても同様に句法や用字、漢文の常識語を日々の予習・授業・復習のサイクルで身につけましょう。地道な努力で身につけた知識があってこそ古文で書かれた文章や物語を味わうことができます。ただの知識・技能の習得だけでなく、現代を生きる我々に共通する思いや考え方を見いだすなど意欲的に学習してくれることを期待しています。

科目名	古典探究		学年	類型・コース	単位数
			2 年	普通科(理型) 理数科	2
学習の 目標	＊生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ＊論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ＊言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
使用教材	教科書:『古典探究 古文編』『古典探究 漢文編』(数研出版) 副教材:『古典常識も学べる 新明説総合古典文法』(尚文出版) 『古文単語パレット 345』(浜島書店) 『精選漢文』(尚文出版) 『プレミアムカラー国語便覧デジタル版』(数研出版)				
評価	評価法	定期考査、小テスト、課題考査、ノート、提出物で評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。	
		b	思考・判断・表現	「読むこと」の領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典を通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで古典に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1 学期	4	*日記文学の文体に親しむ 『更級日記』 「東路の道の果て」 「物語」	*敬語の基礎を習得するとともに古典文法、付属語の理解のもとに適切な現代語訳をする。 *作者が『源氏物語』を読むことに没頭していることがわかる表現を抜き出し、そのときの気持ちを考える。 *『源氏物語』に登場する「夕顔」や「浮舟」について調べ、作者が二人を取り上げた理由を考える。	中間考査	中間考査 発問評価	課題 ノート グループ ワーク

	5	* 諸子百家の思想について違いをまとめる 『論語』 『孟子』 『荀子』	* 句法や語彙を正確に理解し、適切な現代語訳ができる。 * 孔子の思想を受けて儒家の思想がどのように展開したのかを理解する。 * 儒家の思想について、これまでに習得した語法や句法の知識を駆使し、論理を正確に読み取る。	中間考查	中間考查 発問評価	課題 ノート グループ ワーク
	中間考查			期末考查	期末考查 発問評価	課題 ノート
	6	* 古典文学が伝える普遍的な価値を考える① 『源氏物語』 「光源氏誕生」	* 著名な古典文学作品である『源氏物語』やその作者について、関心を持ち、深く知る。 * 帝・桐壺更衣・弘徽殿女御の人物像について考える。 * 敬語の用法について理解を深めるとともに、古典文法、付属語の理解のもとに適切な現代語訳をする。			
	7	* 諸子百家の思想について違いをまとめる 『老子』『莊子』 『韓非子』	* 儒家と道家では、それぞれ人間が生きていくうえでどのようなことに重きを置いているか、考える。 * 本文から読み取れる君主のあるべき姿を説明する。	期末考查	期末考查 発問評価	課題 ノート グループ ワーク
	期末考查					
2 学期	9	* 古典文学が伝える普遍的な価値を考える② 『源氏物語』 「小柴垣のもと」	* 光源氏は「女子」のどこに興味をひかれているのか、説明する。 * 和歌中の「若草」「露」「初草」が何をたとえているか、それぞれの歌は何を訴えようとしているか、説明する。	中間考查	中間考查 発問評価	課題 ノート グループ ワーク
	10	* 漢文句形に習熟し、漢文の物語を楽しむ① 物語を楽しむ 『史記』『鴻門之会』	* 語句の意味や句法を理解し、適切に現代語訳する。 * 登場人物の関係について理解し、その行動の意図を読み取る。	中間考查	中間考查 発問評価	課題 ノート
	中間考查			期末考查	期末考查 発問評価	課題 ノート グループ ワーク
	11	* 歴史的人物の描写に注目する 『大鏡』 「花山天皇の出家」 「南院の競射」	* 二方面に対する敬語、二重敬語、最高敬語について理解し、適切な現代語訳をする。 * 登場人物の感情の機微を読み取り、理解する。			
	12	* 漢文句形に習熟し、漢文の物語を楽しむ② 『史記』 「四面楚歌」 「項王自刎」	* 語句の意味や句法の理解をさらに深め、正しく現代語訳する。 * 登場人物の行動とそこから浮かび上がる人物像について考察する。	期末考查	期末考查 発問評価	課題 ノート グループ ワーク
	期末考查					

3 学期	1	＊古典随筆に親しみ、時代や筆者独自の美意識を読み取る 『枕草子』 「大納言殿参り給ひて」 「二月つごもりに」	＊語句の意味や句法を理解し、正しく現代語訳する。 ＊場面を正確に理解し、登場人物の状況について読み取り、その感情について考える。	学年末 考查	学年末 考查 発問評価	ノート グループ ワーク
	2	＊歴史的背景をふまえて漢文の読みを深める 『楚辞』 「漁父辞」 『陶淵明集』 「桃花源記」	＊屈原と漁父の問答について、それぞれの考え方をまとめ、その違いについて考える。 ＊漁父の歌った歌謡の意味を考える。 ＊「桃源郷」は現在どのような意味で使われているか調べる。 ＊作品全体の構成を考える。	学年末 考查	学年末 考查 発問評価	ノート グループ ワーク
	学年末考查					
	3	＊無常観を学びつつ、文章の調子などに気づく 『方丈記』 「ゆく河の流れ」 『平家物語』 「忠度の都落ち」	＊筆者の無常観や人生観を読み取る。 ＊軍記物語というジャンルについて、文学史的な位置づけも含めて知る。 ＊敬語、音便などの理解のもと、関心を持って読解する。また、音読により文章の調子にも関心を向ける。	学年末 考查 発問評価 小テスト	学年末 考查 発問評価 小テスト	課題 ノート 課題 ノート プリント

担当者からのメッセージ(学習方法など)

2年生の古典探究では、これまで以上に予習復習を怠ることなく着実な努力を重ねることが求められます。予習の際には辞書や文法書を使って本文の語順に沿った現代語訳をするようにしてください。古文を自力で読めるようになるには、古典文法・古文常識についての知識、古文単語の習得は必須です。古文単語帳の単語は、多義語についても2年生のうちにマスターしておきましょう。漢文についても同様に句法や用字、漢文の常識語を日々の予習・授業・復習のサイクルで身につけましょう。地道な努力で身につけた知識があってこそ古文で書かれた文章や物語を味わうことができます。ただの知識・技能の習得だけでなく、現代を生きる我々に共通する思いや考え方を見いだすなど意欲的に学習してくれることを期待しています。

科目名	地理総合		学年	類型・コース	単位数
			2 年	普通科、理数科	2
学習の目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
使用教材	教科書：『地理総合 世界に学び地域へつなぐ』（二宮書店）『詳解現代地図 最新版』（二宮書店） 副教材：『新詳地理資料 COMPLETE2025』（帝国書院） 『ニューコンパス 地理の整理と演習 2025』（東京法令出版株式会社）				
評価	評価法	定期考査、ノート(授業プリント・ワークシートを含む)、振り返りシート			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	知識：地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解する。 技能：地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	
		b	思考・判断・表現	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1学期	4	第1章 地図とGISの活用 第1項 球面上の世界	・地球上の位置情報の基礎として、球体としての地球、緯度・経度の基本的なしくみ、地球上での位置の示し方を理解する。 ・経度の違いから時差の概念を捉え、日常生活における時差計算の技能を身につけ、球面として成り立つ世界認識をもつ。	定期考査	定期考査	ノート 振り返り シート
		第2項 日本の位置と領域	・図法によって異なる世界地図の特色を捉え、スケール、視点、図法などを変化させながら、世界における日本の位置を理解する。 ・グローバルな立場から日本の領域を理解するために、国境や国家の領域の世界的な基準を捉えながら、日本が抱える周辺諸国間との領有権の問題や海洋資源の利用について考える。			
	5	第3項 国内や国家間の結びつき	・グローバル化が進む世界において、国家間の協調や不均衡を理解するために、世界の実態を捉えるための道具としての統計地図やグラフのつくり方を理解する。 ・交通・通信、貿易・物流、観光の視点から、人やものの、情報、資本・サービスの移動のようすについて、統計地図やグラフなどの資料から読み取る技能を身につける。 ・グローバルな視点から持続可能な社会の形成のために、資料を根拠として示しながら課題解決のための方策を多面的・多角的に考える。			
		第4項 暮らしのなかの地図とGIS	・身近な地図を集め、それらの地図の特徴を捉え、地図情報の有用性を理解する。 ・地図情報を活用する方法として、紙地図と電子地図としてのGISがあることを理解し、地理院地図や地形図を通して認識する。 ・GISが日常生活にも利用されている実例を捉え、大量の地理情報を処理できるGISの特徴や利用方法、そのしくみについて理解する。 ・GISで作成した地図を重ね合わせ、地域の特徴を分析する方法と技能を身につける。			
		中間考査				
	6	第2章 地理的環境の特色	・世界の大地形の広がりがプレートテクトニクスにもとづくプレート境界と関連し、変動帯に位置			

		第1項 地形と生活文化	する場所では山岳地域や高原を形成し、地震あるいは場所によって火山を伴うことを理解する。 ・河川、海岸などの外的営力による地形の形成とその広がり、およびそれらの地形と対応した人々の生活と地形を取り巻く環境の変化について、写真や地形図などの資料を通して考える。			
		第2項 気候と生活文化	・世界的な視野から大気や海流が循環するしくみを捉え、地球上ではそれらの影響を反映した気候の地域性が生まれていることを理解する。 ・降水量と気温の特徴をふまえながら世界の気候をケッペンの気候区分から捉え、植生や農業などの人々の生活文化に多様な影響を与えていることを理解する。 ・熱帯、乾燥帯、温帯、亜寒帯、寒帯の各気候は人々の生活文化とどのような関わりをもつのか、どのような生活の工夫があるのか、写真や雨温図などの資料から考える。			
	7	第3項 産業と生活文化	・世界の生活文化が各地域の環境に基づいて発達する産業を基盤に成り立つ現状を捉え、世界スケールにおける第1次産業、第2次産業、第3次産業の地域的な特徴をグローバル化の観点で理解する。 ・産業の発達と生活文化がどのようにかわるのか、産業はどのように変化してきているのか、主題図などの資料を通じて理解を深める。			
		第4項 宗教・言語と生活文化	・世界でみられる生活文化の多様性について、宗教、言語の分布や人々との関わりを主題図や写真などの資料を通じて理解するとともに分布を示す要因について理解する。 ・世界の少数民族、移民、難民の問題を捉えながら、マイノリティなどをふまえた多様な人々に配慮し、自他の文化を尊重する社会の実現を考える。			
期末考查						
2 学期	9	第3章 世界各地の生活文化 第1項 経済発展と生活文化の変化～東アジア	・社会経済システムの変化に焦点を当て、東アジアの中国と韓国を例に両国の特徴を主題図やグラフなどの資料を通じて捉える。 ・特に世界や日本、中国、韓国の3か国とのつながりから両国の経済発展の発達過程について理解し、	定期考查	定期考查	ノート 振り返り シート

		第2項 宗教の多様性と生活文化～ASEAN 諸国 第3項 水の恵みと生活文化～南アジア	経済発展の結果として起きている様々な問題について生活文化と対応させながら考える。 ・多民族社会と地域統合に焦点を当て、様々な言語や宗教をもつ東南アジア諸国の人々の生活文化にはどのような特色がみられるのか、主題図や写真などの資料をもとに理解する。 ・特に仏教, イスラム教, キリスト教の各文化圏における生活文化の多様性や多言語・多民族社会の様子, また豊かな資源を背景に経済発展を遂げる ASEAN 諸国の現状と課題について考える。 ・水資源に焦点を当て、地形, 気候などの自然環境を捉えながら、水資源と宗教, 農業, 文化や産業の成立の関わりを主題図やグラフなどの資料を通じて理解する。 ・経済成長を背景とした水資源の課題を周辺国とのつながりから考える。			
10	第4項 イスラム社会の多様性と生活文化～イスラム圏 第5項 多様な気候と生活文化～アフリカ 第6項 経済統合による生活文化の変化～EU と周辺諸国	・イスラムに焦点を当て、気候条件, 宗派の違い, 聖地メッカからの距離, エネルギー資源の有無などを基盤とした経済水準の違いについて理解する。 ・ムスリムの生活文化に差異をもたらしている要因を主題図や写真などの資料をもとに考える。 ・社会問題の例として、パレスチナやエルサレムの問題, 少数民族の問題を民族・言語の分布から理解する。 ・自然環境と生活文化の対応とその多様さに焦点を当て、モノカルチャー経済の構造は残りながらも、多様性に富む自然環境や食文化をもち、資源開発などを背景とした近年の経済成長について主題図や写真などの資料を通じて理解する。 ・経済成長や開発などを背景としたアフリカの課題を自然環境と生活文化の関わりから考える。 ・産業の発達と地域統合に焦点を当て、ヨーロッパを例に多様性と一体化をもつ産業の特徴やその歴史的背景を捉え、気候, 言語・宗教の分布などを関連させながら主題図やグラフなどの資料をもとに理解する。 ・地域統合の長所とともにイギリスの EU 離脱や				

		加盟各国の移民排斥の動きの強まりなどの課題を整理する。 ・地域間格差が生じている現状を捉え、これからのヨーロッパのよりよい社会を目指して課題について考える。			
	中間考査				
11	第7項 寒冷な気候と生活文化～ロシア 第8項 グローバル化による生活文化の変化～アメリカ・カナダ 第9項 土地の開発による生活文化の形成～ラテンアメリカ	・寒冷な自然環境に焦点を当て、ロシアを例に主題図やグラフなどの資料をもとに気候に制約を受ける農業など、自然環境と人々の生活との対応を理解する。 ・豊富な鉱物資源を背景にしたヨーロッパ諸国や日本など東アジアとの結びつきや近年の開発による自然環境への影響を考える。 ・社会経済システムのグローバル化に焦点を当て、主題図や写真などの資料を通じて、民族構成から多様な社会と歴史的背景を理解する。 ・企業的農業の発達とアメリカ合衆国の外食産業や ICT 産業などの多国籍企業が世界の経済や生活文化に影響を与えている現状を捉える。 ・アメリカ合衆国の貿易の問題についてグローバルな視点で考える。 ・開発に焦点を当て、ラテンアメリカで様々な人びとが生活している理由やプランテーションをはじめ農業や鉱業などの産業の多様性がみられる理由について、主題図やグラフなどの資料をもとに多様な自然環境や植民地時代の開発の影響、そして近年の社会経済システムの変化から捉える。 ・鉱工業が発展していく中で生じている貧富の差の現状を捉え、その解決に向けた取り組みを考える。			
12	第10項 植民と移民による生活文化の形成～オセアニア 第4章 地球課題と国際協力 第1項 地球環境	・開発に焦点を当て、オーストラリアとニュージーランドの自然環境の違いを比較し、主題図や写真などの資料から植民の歴史とそこに展開する産業を捉え、両国の生活文化の違いを理解する。 ・オーストラリアとニュージーランドの生活文化の歴史的背景や現状と将来について、周辺国とのつながりや多文化社会と関連づけて考える。 ・持続可能な地球社会を考えるうえで、地球規模で起きている環境問題は、一国だけで対応できるものではないこと、多面的・多角的に考えてい			

		問題	くことが必要であること、自らとかかわる問題であることを SDGs をふまえて認識する。 ・深刻な地球環境問題を生じている大気汚染, 森林減少, 砂漠化, 気候変動について事例をあげて捉え, それぞれの影響と将来の予測から解決の取り組みについて考える。 ・地球規模で起こる資源の問題について主題図などの資料をもとに考え, 偏在して分布することで保有国と非保有国との間に格差があることを認識する。 ・エネルギー資源の変化を捉えながら資源の大量消費によって枯渇の恐れがあることを認識し, これらの解決のための取り組みを SDGs と関連づけて考える。			
		期末考査				
3 学期	1	第3項 人口・食料問題	・人口が急増している世界の現状を捉えるとともに, 人口ピラミッドや相関図などの資料から人口問題の構造と地域差を捉え, 人口問題の背景や問題点を整理する。 ・持続可能な社会をつくるために, 飢餓とその要因である人口問題, 食料問題について, 主題図やグラフなどの資料を集め, グローバル, ローカルのそれぞれ異なる視点から根拠をもとに SDGs と関連づけ対応策を構想する。	定期考査	定期考査	ノート 振り返り シート
		第4項 居住・都市問題	・世界では都市に人口が集まる現象がみられることを主題図やグラフから読み取り, 人口が集まる都市内部の構造を景観をふまえ理解する。 ・途上国の大都市を中心に人口集中に伴う問題が生じていることを捉え, 問題の要因を理解しながら, 都市の問題の改善を目指した都市計画を取り上げ, SDGs と関連づけ都市問題の解決策を考える。			
		第5章 生活圏の諸課題	・日本列島の地形と気候の特徴を主題図, グラフ, 写真などの資料をもとに, 多様性や自然の恩恵があることを認識しながら, 自然災害を与える要素があることを理解する。			
		第1項 日本の自然災害と防災	・日本各地では毎年のように様々な自然災害が起きていることを理解するため, 風水害, 火山, 地震・津波, 都市型の災害の具体的な事例について, 新旧の地形図, ハザードマップ, 気象情報, 電			

	2		子地図などを利用する技能とともに捉える。 ・自然災害はどのような自然環境と関係しているのか、それに対する備えはどうすれば良いのか考え、居住地域での防災・減災意識の向上につなげる。			
	学年末考査					
	3	第2項 生活圏の諸課題と地域調査	・日本が抱える地域的な課題について、身近な地域を例に取り上げ、人口の少子高齢化、過疎化について景観観察や聞き取りを通じた調査の技能を身につける。 ・現地調査と統計資料によって得られた結果を主題図などにまとめ、他地域と比較して考察する技能を身につける。 ・調査結果をもとに、地域の活性化に向けたまちづくりのプランを発表する。			

担当者からのメッセージ(学習方法など)

地理の分野では、地図やグラフ、統計などの読み取りを通じて、世界各地の特色や課題を把握していきます。また、「なぜそのような特色や課題が現れてくるのか」ということについて考察を深めることで、地理的認識や論理的思考力を育成します。最後には、地域社会や国際社会の課題について、自分なりに考えて社会に参画する力を身に付けていきましょう。

科目名	日本史探究		学年	類型・コース	単位数
			2 年	普通科文型	4
学習の目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。				
使用教材	教科書:『詳説日本史』(山川出版社) 副教材:『図説日本史通覧』(帝国書院) 『日本史 重要語句 Check List2025』(啓隆社)				
評価	評価法	中間考査 期末考査 ノート・ファイル等の提出物 小テスト			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	
		b	思考・判断・表現	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1学期	4	第1章 日本文化のあけぼの 第2章 古墳とヤマト政権	①人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。 ②打製石器・磨製石器・縄文土器の発掘、竪穴住居の状況など考古学の成果によって教科書の叙述が成り立っていることに気づく。 ＊歴史資料と原子・古代の展望 ①地域の首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容からとらえる。 ②ヤマト政権による国家の形成過程について、東アジア世界との関係を踏まえて考察する。 ③古墳時代後期から終末期の変容と、ヤマト政権の政治制度を理解する。 ④ヤマト政権の権力争いや大陸文化の摂取に着目して、飛鳥時代を考察する。 ⑤飛鳥文化に世界の諸地域の文化の影響がみられることを理解する。	定期考 査	定期考 査	ノート・ファイル等の提出物
	5	第3章 律令国家の形成	①律令国家が成立するまでの政治過程について考察する。 ②律令にもとづく国内統治体制について理解する。 ③律令体制の完成期としての奈良時代を、律令体制の状況を多角的・多面的にとらえて考察する。 ④平城京における政治動向について、土地政策も含めて考察する。 ⑤律令国家の成立期に当たる白鳳文化の形成過程について考察する。 ⑥天平文化における政治性と国際性、国家仏教の展開などに着目して、古代国家の展開を理解する。 ⑦平安前期を中心とした古代国家の推移について、東北経営や政治改革、地方統治の変容を踏まえて、律令体制の変質を考察する。 ⑧東アジアとの関係を踏まえて、唐風文化である弘仁・貞観文化を理解する。			
			中間考査			
	6	第4章 貴族政治の展開	①藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察する。 ②日本と東アジアとの関係において、民間の貿易や交流が中心となったことをとらえる。 ③大陸文化の消化と末法思想を前提とした新しい貴族			

			文化として、国風文化が展開されたことを理解する。 ④摂関政治の在り方と文化の展開に、どのような関係があるかを考察する。 ⑤律令制にもとづく地方統治体制の崩れへの対応が、公領支配の変質、荘園の拡大をもたらした経過を考察する。 ⑥地方の反乱やその鎮圧など、武士の成長過程について、源氏などを例にとって考察する。			
	7	第5章 院政と武士の躍進 第6章 武家政権の成立	①院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。 ②外戚関係や人材登用など、後三条天皇が摂関家に遠慮せず改革を進めた背景を考察する。 ③政治の動向、国際関係・経済・文化への対応を踏まえて、平氏政権の特性について考察する。 ④古代から中世への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。 *歴史資料と中世の展望 ①鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。 ②鎌倉幕府の成立時期をめぐる諸説に関して、それぞれの根拠を明確にして考察する。 ③承久の乱にともなう公武関係の変化に着目して、将軍独裁体制から執権政治の確立に至る過程を理解する。 ④武士の生活と地方支配を通じて、土地に対する実質的な支配権を地頭が掌握するに至った過程を考察する。 ⑤モンゴル襲来による政治・経済・文化への影響が、幕府の衰退につながっていくことを理解する。 ⑥非御家人に対する権限拡大など、幕府勢力が西国に浸透したことの意義を考察する。 ⑦庶民や武士の活動が活発化し、鎌倉仏教が成立するなど、文化の新しい気運が生まれたことを理解する。 ⑧伝統的な公家文化の世界で、有職故実・古典研究などの学問が進展した背景を考察する。			
		期末考查				
2 学期	9	第7章 武家社会の成長	①南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえて考察する。 ②琉球・蝦夷ヶ島を含む東アジアとの交流が中世日本にもたらした影響について理解する。 ③庶民の活動が社会秩序の変革の原動力として成長していったことを踏まえて、幕府の動揺や下剋上の風潮を	定期 考 査	定期 考 査	ノート・ ファイル 等の提出物

		考察する。 ④諸産業の発達による庶民の台頭を踏まえて、中世社会の多様な展開を幅広く理解する。 ⑤武家政権の支配の進展や東アジア世界との交流に着目して、武家文化と公家文化および、大陸文化と伝統文化の関わりについて理解する。 ⑥庶民文化の萌芽や、応仁の乱を契機とした文化の地方伝播、戦国大名の保護による文化の地方普及を理解する。 ⑦応仁の乱以降、地方権力として登場した戦国大名や各地に展開した都市について、諸地域の地理的条件と関連づけて考察する。			
10	第 8 章 近世の幕開け	①大航海時代と呼ばれる世界史的背景を踏まえて、ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察する。 ②織田信長の統一事業、豊臣秀吉の天下統一、秀吉の朝鮮侵略と続く織豊政権の特色と意義、その後の時代への影響について理解する。 ③新興の大名や都市の豪商の精神を反映した桃山文化について、町衆の生活にも着目し、時代的背景を踏まえて考察する。 ④中世から近世への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。			
中間考査					
11	第 9 章 幕藩体制の成立 と展開	* 歴史資料と近世の展望 ①江戸幕府の成立による幕藩体制の確立過程を理解する。 ②江戸幕府の鎖国政策について、単なる対外貿易の遮断ではないことを理解し、鎖国後の貿易関係の在り方も含めてその影響と歴史的意義について考察する。 ③幕藩体制の確立期の経済・社会を、兵農分離や村落・都市支配などの観点から、多面的・多角的に考察する。 ④被支配身分の特質や、周縁部分に生きる人々の社会的役割について理解する。 ⑤17 世紀後半から 18 世紀前半までの江戸幕府の安定期について、その平和と秩序の確立の視点で考察する。 ⑥諸藩における政治の安定化や刷新について、その特色を理解する。 ⑦幕藩体制の安定期の農業・商工業などの発展について、諸産業相互の関係やその社会的役割を踏まえて考察する。 ⑧全国市場の確立や都市の発達で商品流通が拡大し、各			

		地で風土に応じた特産物が生まれたことを理解する。 ⑨経済の発展と関連して町人文化が形成されたことについて、町人の社会的台頭や幕藩体制の安定と関連させて理解する。 ⑩儒学の特色を理解し、その発達が他の学問に与えた影響を考察する。			
12	第10章 幕藩体制の動揺 第11章 近世から近代へ	①農村や都市の変容により幕藩体制が動揺する中、幕府や諸藩がおこなった諸改革の意義とその影響を考察する。 ②幕府や藩の支配に対しておこなわれた百姓一揆や、都市の打ちこわしの実態について理解する。 ③江戸中期に確立した洋学や国学、新たなかたちで展開する文学・芸能・美術について、社会の変容にともなう幕藩体制の動揺と関連づけて考察する。 ④幕府や藩による武士の教育に加え、民間でも私塾や寺子屋が開かれた背景について理解する。 ⑤欧米諸国のアジア進出による国際情勢の変化やそれに対する幕政の対処を踏まえて幕府が衰退していく過程を理解する。 ⑥近代化の基盤の形成について、産業経済面や軍事面などに着目して、雄藩の浮上という地方からの視点から考察する。 ⑦化政文化について、学問・思想・教育・文学・美術・生活文化の新たな展開に着目し、江戸と地方の文化的交流にも留意して考察する。 ⑧都市の民衆を中心とする芸能などが盛んになったことを理解する。 ①国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して、日本の開国を社会・経済面での変化と関わらせて考察する。 ②江戸幕府の威信低下と雄藩の台頭について、政治情勢の変化と列強の動向を関連させて理解する。 ③幕末の動乱における天皇を中心とする統一国家構想の芽生えから幕府の滅亡、旧幕勢力の一掃に至るまでの経過を理解する。 ④近世から近代への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。			
期末考査					

3 学期	1	第12章 近代国家の成立 第13章 近代国家の展開	*歴史資料と近代の展望 ①明治新政府の制度改革や富国強兵・殖産興業政策に着目して、政治的変革と国家的統一過程を理解する。 ②欧米文化・思想の導入と近代化政策に対する士族反乱・農民一揆の発生と、言論闘争への転換を理解する。 ③明治初期の対外政策について、欧米への対応とアジアに対する外交政策の違いについて考察する。 ④政府の強力な中央集権体制への志向のもとで、自由民権運動の始まりから立憲国家の成立に至る間、近代国家の基盤が形成されていく過程を考察する。 ⑤大日本帝国憲法の性格について具体的・多角的に理解する。 ①東アジアをめぐる国際環境が変容する中、国家的課題であった不平等条約の改正交渉が進展した過程や、朝鮮問題から日清戦争に至る経緯について理解する。 ②開戦に至る国際関係や、日露戦争の経過、戦後の日本の国際的地位の変化と植民地支配の推進について、諸外国の動向と関連づけて考察する。 ③第一次世界大戦前後の政治の動向および対外政策の推移について、政党政治の発展や日本の中国進出の状況を踏まえて理解する。 ④第一次世界大戦が日本の社会経済や政治に及ぼした影響について、欧米・アジア経済との関係や政党内閣の成立などと関連させて考察する。 ⑤ワシントン体制に至る国際的協調体制の進展など国際環境の推移を、日本の立場に着目して理解する。 ⑥民主主義的風潮による社会運動の動向を理解するとともに、普選運動など政党政治の発展から二大政党による政党内閣制成立に至るまでの意義について考察する。	定期考 査	定期考 査	ノート・ ファイル 等の提出物
	2	第14章 近代の産業と生活	①日清・日露戦争前後にかけて資本主義国家の基礎が確立された過程を、産業革命や近代産業の発展に着目して理解する。 ②近代産業の発展にともなう社会問題(労働問題・公害問題)の発生と政府の対応について考察する。 ③伝統的な文化のうえに欧米文化を摂取するなど二元性をもって成立した近代文化の特色について、政治・経済・外交などの視点をもって考察する。 ④義務教育の普及・定着とともに、国家主義的教育が浸透していくことを理解する。 ⑤労働者や都市中間層の拡大による大衆社会の基盤の成立に着目し、都市化や市民生活の変化を踏まえて、大			

		衆文化の特色について考察する。 ⑥大衆文化の前提となる教育の普及・発展、マスメディアの発達について理解する。 ①戦後恐慌から昭和恐慌に至る国内経済の動揺について、国内・国外の経済状況と対策に着目して理解する。 ②社会主義運動の高揚と国家主義の台頭による軍部の政治的進出を踏まえて、協調外交が挫折していく過程を考察する。 ③日本の対外政策の推移について、世界情勢や軍部の政治的進出に着目して、政党内閣の崩壊や国際的孤立の過程について理解する。 ④恐慌から脱出し、国家主義が高揚する中で、五・一五事件から二・二六事件にかけて、軍部の影響力が増大していく過程を考察する。 ⑤日中戦争の勃発から太平洋戦争の突入に至る過程について、国民生活の変化や諸統制に着目して全体主義的な国家体制の進展を考察する。 ⑥第二次世界大戦について、国家間の相違や総力戦の特色を踏まえ、この戦争が空前の惨禍をもたらした点に着目して、平和で民主的な国際社会の実現に努める重要性を認識する。			
		学年末考查			
3	第 16 章 占領下の日本 第 17 章 高度成長の時代	①戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策および戦後の民主化政策とそれにともなう諸改革について、その経過と内容を理解する。 ②戦後政治の動きを踏まえて、集大成となる日本国憲法制定の意義を考察する。 ③東アジア情勢の変化を踏まえ、連合国による占領が終結して日本が独立した意義を考える。 ④連合国による日本占領の終結と、その後の日米関係の継続について、様々な国の立場から考察する。 ①独立後の日本国内政治について、衆議院を保守・革新の二大勢力が占める 55 年体制の成立から安定した保守政権となるまでの経過を理解する。 ②冷戦構造の中で日本が国際社会に復帰したことについて、日本の国際連合への加盟、アメリカ・中華人民共和国・大韓民国との関係に着目して、独立回復後の日本の動きを考察する。 ③朝鮮特需による経済復興とその後の高度経済成長について、経済の国際化と国内の技術革新などの側面に着目して考察する。			

		第18章 激動する世界と 日本	④消費革命による社会の変貌と、経済成長がもたらした ひずみである社会問題について理解する。 ①ドル＝ショックや石油危機を踏まえて、主要先進国首 脳会議が開かれた意義を理解する。 ②高度成長が終焉し、保守政権が動揺する中、2度にわ たる石油危機を乗り越え、経済大国としての道を歩み始 めた日本の状況を多面的・多角的に考察する。 ③冷戦体制の終結とそれに関わる国内の状況について、 日本の政治・外交・経済・生活文化面を踏まえて多面的・ 多角的にとらえる。 ④科学技術・産業の発達によって派生する環境問題やエ ネルギー問題などの日本の課題とそれに対する日本の 役割を認識する。 ＊現代の日本の課題の探究			
--	--	--------------------------------	--	--	--	--

担当者からのメッセージ(学習方法など)

歴史探究の授業は、ただ知識をインプットするだけではなく、歴史について、調べ、まとめ、考察し、さらによりよい社会の実現を視野に課題を探究することなどの主体的な活動を通じて、自分で根拠を確認した情報に基づいて自ら考える力を養うことが求められています。一方的に聞くだけではなく、主体的に考えながら授業を受けることができるようにしてください。

科目名	日本史探究		学年	類型・コース	単位数
			2 年	普通科英語コース	3
学習の目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。				
使用教材	教科書:『詳説日本史』(山川出版社) 副教材:『図説日本史通覧』(帝国書院) 『日本史 重要語句 Check List2025』(啓隆社)				
評価	評価法	中間考査 期末考査 ノート・ファイル等の提出物 小テスト			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	
		b	思考・判断・表現	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1学期	4	第1章日本文化のあけぼの 第2章古墳とヤマト政権	①人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。 ②打製石器・磨製石器・縄文土器の発掘、竪穴住居の状況など考古学の成果によって教科書の叙述が成り立っていることに気づく。 ③地域の首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容からとらえる。 ④ヤマト政権による国家の形成過程について、東アジア世界との関係を踏まえて考察する。 ⑤古墳時代後期から終末期の変容と、ヤマト政権の政治制度を理解する。 ⑥ヤマト政権の権力争いや大陸文化の摂取に着目して、飛鳥時代を考察する。 ⑦飛鳥文化に世界の諸地域の文化の影響がみられることを理解する。	定期 考 査	定期 考 査	ノート・ファイル等の提出物
	5	第3章律令国家の形成	①律令国家が成立するまでの政治過程について考察する。 ②律令にもとづく国内統治体制について理解する。 ③律令体制の完成期としての奈良時代を、律令体制の状況を多角的・多面的にとらえて考察する。 ④平城京における政治動向について、土地政策も含めて考察する。 ⑤律令国家の成立期に当たる白鳳文化の形成過程について考察する。 ⑥天平文化における政治性と国際性、国家仏教の展開などに着目して、古代国家の展開を理解する。 ⑦平安前期を中心とした古代国家の推移について、東北経営や政治改革、地方統治の変容を踏まえて、律令体制の変質を考察する。 ⑧東アジアとの関係を踏まえて、唐風文化である弘仁・貞観文化を理解する。			
			中間考査			
	6	第4章貴族政治の展開	①藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察する。 ②日本と東アジアとの関係において、民間の貿易や交流が中心となったことをとらえる。 ③大陸文化の消化と末法思想を前提とした新しい貴族文化として、国風文化が展開されたことを理解する。 ④摂関政治の在り方と文化の展開に、どのような関係が			

			あるかを考察する。 ⑤律令制にもとづく地方統治体制の崩れへの対応が、公領支配の変質、荘園の拡大をもたらした経過を考察する。 ⑥地方の反乱やその鎮圧など、武士の成長過程について、源氏などを例にとって考察する。			
	7	第5章 院政と武士の躍進 第6章 武家政権の成立	①院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。 ②外戚関係や人材登用など、後三条天皇が摂関家に遠慮せず改革を進めた背景を考察する。 ③政治の動向、国際関係・経済・文化への対応を踏まえて、平氏政権の特性について考察する。 ④古代から中世への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。 ①鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。 ②鎌倉幕府の成立時期をめぐる諸説に関して、それぞれの根拠を明確にして考察する。 ③承久の乱にともなう公武関係の変化に着目して、將軍独裁体制から執権政治の確立に至る過程を理解する。 ④武士の生活と地方支配を通じて、土地に対する実質的な支配権を地頭が掌握するに至った過程を考察する。 ⑤モンゴル襲来による政治・経済・文化への影響が、幕府の衰退につながっていくことを理解する。 ⑥非御家人に対する権限拡大など、幕府勢力が西国に浸透したことの意義を考察する。 ⑦庶民や武士の活動が活発化し、鎌倉仏教が成立するなど、文化の新しい気運が生まれたことを理解する。 ⑧伝統的な公家文化の世界で、有職故実・古典研究などの学問が進展した背景を考察する。			
		期末考查				
2 学期	9	第7章 武家社会の成長	①南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえて考察する。 ②琉球・蝦夷ヶ島を含む東アジアとの交流が中世日本にもたらした影響について理解する。 ③庶民の活動が社会秩序の変革の原動力として成長していったことを踏まえて、幕府の動揺や下剋上の風潮を考察する。 ④諸産業の発達による庶民の台頭を踏まえて、中世社会の多様な展開を幅広く理解する。 ⑤武家政権の支配の進展や東アジア世界との交流に着	定期 考 査	定期 考 査	ノート・ ファイル 等の提出物

		目して、武家文化と公家文化および、大陸文化と伝統文化の関わりについて理解する。 ⑥庶民文化の萌芽や、応仁の乱を契機とした文化の地方伝播、戦国大名の保護による文化の地方普及を理解する。 ⑦応仁の乱以降、地方権力として登場した戦国大名や各地に展開した都市について、諸地域の地理的条件と関連づけて考察する。			
10	第 8 章 近世の幕開け	①大航海時代と呼ばれる世界史的背景を踏まえて、ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察する。 ②織田信長の統一事業、豊臣秀吉の天下統一、秀吉の朝鮮侵略と続く織豊政権の特色と意義、その後の時代への影響について理解する。 ③新興の大名や都市の豪商の精神を反映した桃山文化について、町衆の生活にも着目し、時代的背景を踏まえて考察する。 ④中世から近世への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。			
中間考査					
11	第 9 章 幕藩体制の成立と展開	①江戸幕府の成立による幕藩体制の確立過程を理解する。 ②江戸幕府の鎖国政策について、単なる対外貿易の遮断ではないことを理解し、鎖国後の貿易関係の在り方も含めてその影響と歴史的意義について考察する。 ③幕藩体制の確立期の経済・社会を、兵農分離や村落・都市支配などの観点から、多面的・多角的に考察する。 ④被支配身分の特質や、周縁部分に生きる人々の社会的役割について理解する。 ⑤17 世紀後半から 18 世紀前半までの江戸幕府の安定期について、その平和と秩序の確立の視点で考察する。 ⑥諸藩における政治の安定化や刷新について、その特色を理解する。 ⑦幕藩体制の安定期の農業・商工業などの発展について、諸産業相互の関係やその社会的役割を踏まえて考察する。 ⑧全国市場の確立や都市の発達で商品流通が拡大し、各地で風土に応じた特産物が生まれたことを理解する。 ⑨経済の発展と関連して町人文化が形成されたことについて、町人の社会的台頭や幕藩体制の安定と関連させて理解する。 ⑩儒学の特色を理解し、その発達が他の学問に与えた影			

			響を考察する。			
12	第 10 章 幕藩体制の動揺		①農村や都市の変容により幕藩体制が動揺する中、幕府や諸藩がおこなった諸改革の意義とその影響を考察する。 ②幕府や藩の支配に対しておこなわれた百姓一揆や、都市の打ちこわしの実態について理解する。 ③江戸中期に確立した洋学や国学、新たなかたちで展開する文学・芸能・美術について、社会の変容にともなう幕藩体制の動揺と関連づけて考察する。 ④幕府や藩による武士の教育に加え、民間でも私塾や寺子屋が開かれた背景について理解する。 ⑤欧米諸国のアジア進出による国際情勢の変化やそれに対する幕政の対処を踏まえて幕府が衰退していく過程を理解する。 ⑥近代化の基盤の形成について、産業経済面や軍事面などに着目して、雄藩の浮上という地方からの視点から考察する。 ⑦化政文化について、学問・思想・教育・文学・美術・生活文化の新たな展開に着目し、江戸と地方の文化的交流にも留意して考察する。 ⑧都市の民衆を中心とする芸能などが盛んになったことを理解する。			
	第 11 章 近世から近代へ		①国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して、日本の開国を社会・経済面での変化と関わらせて考察する。 ②江戸幕府の威信低下と雄藩の台頭について、政治情勢の変化と列強の動向を関連させて理解する。 ③幕末の動乱における天皇を中心とする統一国家構想の芽生えから幕府の滅亡、旧幕勢力の一掃に至るまでの経過を理解する。 ④近世から近代への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。			
			期末考查			

3 学期	1	第12章 近代国家の成立 第13章 近代国家の展開	①明治新政府の制度改革や富国強兵・殖産興業政策に着目して、政治的変革と国家的統一過程を理解する。 ②欧米文化・思想の導入と近代化政策に対する士族反乱・農民一揆の発生と、言論闘争への転換を理解する。 ③明治初期の対外政策について、欧米への対応とアジアに対する外交政策の違いについて考察する。 ④政府の強力な中央集権体制への志向のもとで、自由民権運動の始まりから立憲国家の成立に至る間、近代国家の基盤が形成されていく過程を考察する。 ⑤大日本帝国憲法の性格について具体的・多角的に理解する。 ①東アジアをめぐる国際環境が変容する中、国家的課題であった不平等条約の改正交渉が進展した過程や、朝鮮問題から日清戦争に至る経緯について理解する。 ②開戦に至る国際関係や、日露戦争の経過、戦後の日本の国際的地位の変化と植民地支配の推進について、諸外国の動向と関連づけて考察する。 ③第一次世界大戦前後の政治の動向および対外政策の推移について、政党政治の発展や日本の中国進出の状況を踏まえて理解する。 ④第一次世界大戦が日本の社会経済や政治に及ぼした影響について、欧米・アジア経済との関係や政党内閣の成立などと関連させて考察する。 ⑤ワシントン体制に至る国際的協調体制の進展など国際環境の推移を、日本の立場に着目して理解する。 ⑥民主主義的風潮による社会運動の動向を理解するとともに、普選運動など政党政治の発展から二大政党による政党内閣制成立に至るまでの意義について考察する。	定期考 査	定期考 査	ノート・ ファイル 等の提出物
	2	第14章 近代の産業と生活	①日清・日露戦争前後にかけて資本主義国家の基礎が確立された過程を、産業革命や近代産業の発展に着目して理解する。 ②近代産業の発展にともなう社会問題(労働問題・公害問題)の発生と政府の対応について考察する。 ③伝統的な文化のうえに欧米文化を摂取するなど二元性をもって成立した近代文化の特色について、政治・経済・外交などの視点をもって考察する。 ④義務教育の普及・定着とともに、国家主義的教育が浸透していくことを理解する。 ⑤労働者や都市中間層の拡大による大衆社会の基盤の成立に着目し、都市化や市民生活の変化を踏まえて、大衆文化の特色について考察する。 ⑥大衆文化の前提となる教育の普及・発展、マスメディア			

	第 15 章 恐慌と第二次世界大戦	の発達について理解する。 ①戦後恐慌から昭和恐慌に至る国内経済の動揺について、国内・国外の経済状況と対策に着目して理解する。 ②社会主義運動の高揚と国家主義の台頭による軍部の政治的進出を踏まえて、協調外交が挫折していく過程を考察する。 ③日本の対外政策の推移について、世界情勢や軍部の政治的進出に着目して、政党内閣の崩壊や国際的孤立の過程について理解する。 ④恐慌から脱出し、国家主義が高揚する中で、五・一五事件から二・二六事件にかけて、軍部の影響力が増大していく過程を考察する。 ⑤日中戦争の勃発から太平洋戦争の突入に至る過程について、国民生活の変化や諸統制に着目して全体主義的な国家体制の進展を考察する。 ⑥第二次世界大戦について、国家間の相違や総力戦の特色を踏まえ、この戦争が空前の惨禍をもたらした点に着目して、平和で民主的な国際社会の実現に努める重要性を認識する。		
学年末考查				
3	第 16 章 占領下の日本 第 17 章 高度成長の時代	①戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策および戦後の民主化政策とそれにともなう諸改革について、その経過と内容を理解する。 ②戦後政治の動きを踏まえて、集大成となる日本国憲法制定の意義を考察する。 ③東アジア情勢の変化を踏まえ、連合国による占領が終結して日本が独立した意義を考える。 ④連合国による日本占領の終結と、その後の日米関係の継続について、様々な国の立場から考察する。 ①独立後の日本国内政治について、衆議院を保守・革新の二大勢力が占める 55 年体制の成立から安定した保守政権となるまでの経過を理解する。 ②冷戦構造の中で日本が国際社会に復帰したことについて、日本の国際連合への加盟、アメリカ・中華人民共和国・大韓民国との関係に着目して、独立回復後の日本の動きを考察する。 ③朝鮮特需による経済復興とその後の高度経済成長について、経済の国際化と国内の技術革新などの側面に着目して考察する。 ④消費革命による社会の変貌と、経済成長がもたらしたひずみである社会問題について理解する。		

		第18章 激動する世界と 日本	①ドル＝ショックや石油危機を踏まえて、主要先進国首脳会議が開かれた意義を理解する。 ②高度成長が終焉し、保守政権が動揺する中、2度にわたる石油危機を乗り越え、経済大国としての道を歩み始めた日本の状況を多面的・多角的に考察する。 ③冷戦体制の終結とそれに関わる国内の状況について、日本の政治・外交・経済・生活文化面を踏まえて多面的・多角的にとらえる。 ④科学技術・産業の発達によって派生する環境問題やエネルギー問題などの日本の課題とそれに対する日本の役割を認識する。 *現代の日本の課題の探究			
--	--	--------------------------------	--	--	--	--

担当者からのメッセージ(学習方法など)

歴史探究の授業は、ただ知識をインプットするだけではなく、歴史について、調べ、まとめ、考察し、さらによりよい社会の実現を視野に課題を探究することなどの主体的な活動を通じて、自分で根拠を確認した情報に基づいて自ら考える力を養うことが求められています。一方的に聞くだけではなく、主体的に考えながら授業を受けることができるようにしてください。

科目名	世界史探究		学年	類型・コース	単位数
			2 年	普通科文型	4
学習の目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、諸地域の歴史的特質の形成や諸地域の交流・再編、諸地域の結合・変容という大きな枠組みをもとに、世界の歴史を大きく捉える。				
使用教材	教科書:『新詳 世界史探究』(帝国書院) 副教材:『新詳 世界史探究演習ノート』(帝国書院)『世界史重要語句CheckList』(啓隆社) 『グローバルワイド 最新世界史図表』(第一学習社)				
評価	評価法	定期考査、小テスト、ノート(授業プリント・ワークシート等)、ワークブック、振り返りシート			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	①世界の歴史の大きな枠組みと展開に関する諸事情について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解している。 ②諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能が身についている。	
		b	思考・判断・表現	①世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察できている。 ②歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力が身についている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度が身についている。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, C の 3 段階)及び評定(1～5の 5 段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c

1 学期	4	1部1章 地球環境からみる人類の歴史 2章 日常生活からみる世界の歴史 2部1章 東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質	①人類が、地球の環境に適応しながら文化や文明を生みだしていったことを理解している。 ②地球環境の変化と生物や人類の歴史の関連について考察し、自分の言葉で表現している。 ①私たちの日常世界が、歴史と深く関係していることを理解している。 ③身近な環境と歴史の関係を主体的に追究しようとしている。 ①東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質を理解している。 ②東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質について考察し、自分の言葉で表現している。 ③東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質を主体的に追究しようとしている。	定期 考 査 小 テ ス ト	定期 考 査 振 り 返 り シ ー ト	ノート 振 り 返 り シ ー ト ワ ー ク ブ ック
	5	2章 南アジアと東南アジアの歴史的特質	①南アジアと東南アジアの歴史的特質を理解している。 ②南アジアと東南アジアの歴史的特質について考察し、両者の共通点や相違点を挙げながら自分の言葉で表現している。 ③東南アジアの歴史的特質を主体的に追究しようとしている。			
	中間考査					
	6	3章 西アジアと地中海周辺の歴史的変質節 ユーラシアの変動と東アジア	①西アジアと地中海周辺の歴史的特質を理解している。 ②西アジアと地中海地域周辺の歴史的な特質について考察し、自分の言葉で表現している。 ③西アジアと地中海地域周辺の歴史的特質を主体的に追究しようとしている。			
	7	3部 1章 ユーラシア大交流圏の成立	①イスラームとモンゴルによって形成された陸と海のネットワークを理解している。 ②イスラームとモンゴルによるネットワークの広がりやユーラシアや諸地域をどのように変えたのかについて考察し、自分の言葉で表現している。 ③ユーラシア大陸をつなぐネットワークについての理解を主体的に追究しようとしている。			
期末考査				定期 考 査 小 テ ス ト	定期 考 査 振 り 返 り シ ー ト	ノート 振 り 返 り シ ー ト
2 学期	9	2章 アジア諸地域の成熟とヨーロッパの進出	①14～17世紀にかけてアジア諸地域間の交易が拡大したことを理解している。 ②交易の拡大による諸地域の変化のうち、最も大きな変化について根拠を示しながら自分なり			

		3章 主権国家体制の成立と交易の拡大	に評価し、表現している。 ③アジア諸地域間の交流について主体的に追究しようとしている。 ①17～18 世紀のヨーロッパの社会構造の変化を理解している。 ②17～18 世紀のヨーロッパの社会構造の変化に大きな影響を与えたものは何かについて考察し、自分の言葉で表現している。 ③17～18 世紀のヨーロッパの社会構造の変化を主体的に追究しようとしている。			ワークブック
10	4部 1章 環大西洋革命～工業文明と国民国家の誕生	①大西洋を取り巻く地域で起こった革命が、各地の社会構造に与えた影響を理解している。 ②大西洋を取り巻く地域で起こった革命が、各地の社会構造に与えた影響について考察し、自分の言葉で表現している。 ③大西洋を取り巻く地域で起こった革命が、各地の社会構造に与えた影響を主体的に追究しようとしている。				
中間考査						
11	2章 イギリスの覇権と欧米の国民国家建設 3章 世界の一体化の進展とアジアの変容	①イギリスの覇権が欧米諸国に与えた影響を理解している。 ②国民国家形成の前後で、欧米諸国に生じた変化について考察し、自分の言葉で表現している。 ③イギリスの覇権が欧米諸国に与えた影響を主体的に追究しようとしている。 ①「西洋の衝撃」がアジア諸地域に与えた影響を理解している。 ②「西洋の衝撃」によるアジアの変化で、最も重大だということについて、根拠を示しながら自分なりに評価し、表現している。 ③「西洋の衝撃」がアジア諸地域に与えた影響を主体的に追究しようとしている。				
12	4章 世界の一体化の完成とその影響	①帝国主義が世界各地に与えた変化について、理解している。 ②帝国主義が世界各地に与えた変化について、欧米およびアジア・アフリカ・オセアニアの各地域ごとに考察し、表現している。 ③帝国主義が各地に与えた変化について、主体的に追究しようとしている。				
期末考査						

3 学期	1	5章 世界大戦の時代 6章 戦後の国際秩序と冷戦	①二度の世界大戦が起こった理由を理解している。 ②第一次世界大戦の反省を踏まえた平和への取り組みは成功せず、第二次世界大戦が起こった理由について考察し、表現している。 ③二度の世界大戦が起こった理由を主体的に追究しようとしている。 ①第二次世界大戦と冷戦構造の関係について理解している。 ②冷戦構造が形成されるなかで、アメリカ・ソ連・ヨーロッパ・第三勢力諸国の動きが冷戦構造に与えた影響について考察し、自分の言葉で表現している。 ③冷戦構造が世界にもたらした影響を主体的に追究しようとしている。	定期 考 査 小 テ ス ト	定期 考 査 振 り 返 り シ ー ト	ノート 振 り 返 り シ ー ト ワ ー ク ブ ック
	2	5部 1章 冷戦の展開と平和の模索 2章 グローバル化する国際経済とその課題	①冷戦期から現在まで世界各地で発生した紛争を理解している。 ③冷戦期から現在までの紛争の原因と解決方法について、共通点や相違点に着目しながら考察し、課題解決の方法を主体的に追究しようとしている。 ①冷戦終結後に、グローバル化が進んだ状況を理解している。 ②冷戦終結以降のグローバル化がもたらした功績と課題、その課題が生じた理由について考察し、表現している。			
	学年末考査					
	3	3章 情報と科学技術によって結びつく世界 4章 地球世界の課題の探究	①科学技術の高度化と知識基盤社会の進展について理解している。 ③科学技術の高度化と知識基盤社会の進展は、私たちの生活にどのような影響や課題を与えているのか、歴史的経緯を踏まえて考察し、今後の科学と世界のあり方について主体的に追究しようとしている。 ②これまでの学習を踏まえて、主題を設定し、動機についても示しながら、よりよい社会実現のための仮説を表現している。 ③地球世界の課題について、歴史的な経緯を踏まえながら考察し、解決に向けて主体的に追究しようとしている。			

担当者からのメッセージ(学習方法など)
「世界史探究」では、古代から現代まで世界の歴史の流れを、日本の歴史と関連付けながら学んでいきます。『歴史総合』から引き続き、「なぜ？」という疑問を大切に授業に臨んでください。小テストなどで重要事項を覚えた上で、歴史の流れを説明する力を身につけ、現代社会の課題についても自分自身の力で考えていきましょう。

科目名		世界史探究		学年	類型・コース	単位数		
				2 年	普通科英語コース	3		
学習の目標		社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、諸地域の歴史的特質の形成や諸地域の交流・再編、諸地域の結合・変容という大きな枠組みをもとに、世界の歴史を大きく捉える。						
使用教材		教科書:『新詳 世界史探究』(帝国書院) 副教材:『新詳 世界史探究演習ノート』(帝国書院)『世界史重要語句CheckList』(啓隆社) 『グローバルワイド 最新世界史図表』(第一学習社)						
評価		評価法	定期考査、小テスト、ノート(授業プリント・ワークシート等)、振り返りシート、ワークブック					
		評価観点の趣旨	a	知識・技能	①世界の歴史の大きな枠組みと展開に関する諸事情について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解している。 ②諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能が身についている。			
			b	思考・判断・表現	①世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察できている。 ②歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力が身についている。			
			c	主体的に学習に取り組む態度	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度が身についている。			
		上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。						
期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)			評価方法		
						a	b	c

1 学期	4	1 部 世界史へのまなざし 1 章 地球環境からみる人類の歴史 2 章 日常生活からみる世界の歴史 2 部 1 章 東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質	①人類が、地球の環境に適応しながら文化や文明を生みだしていったことを理解している。 ①私たちの日常世界が、歴史と深く関係していることを理解している。 ③身近な環境と歴史の関係を主体的に追究しようとしている。 ①東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質を理解している。 ②東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質について考察し、自分の言葉で表現している。 ③東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質を主体的に追究しようとしている。	定期考 査 小テスト	定期考 査 振り返り シート	ノート 振り返り シート ワークブ ック
	5	2 章 南アジアと東南アジアの歴史的特質	①南アジアと東南アジアの歴史的特質を理解している。 ②南アジアと東南アジアの歴史的特質について考察し、両者の共通点や相違点を挙げながら自分の言葉で表現している。 ③東南アジアの歴史的特質を主体的に追究しようとしている。			
	中間考査					
	6	3 章 西アジアと地中海周辺の歴史的特質 節 ユーラシアの変動と東アジア	①西アジアと地中海周辺の歴史的特質を理解している。 ②西アジアと地中海地域周辺の歴史的な特質について考察し、自分の言葉で表現している。 ③西アジアと地中海地域周辺の歴史的特質を主体的に追究しようとしている。			
	7	3 部 1 章 ユーラシア大交流圏の成立	①イスラームとモンゴルによって形成された陸と海のネットワークを理解している。 ②イスラームとモンゴルによるネットワークの広がりやユーラシアや諸地域をどのように変えたのかについて考察し、自分の言葉で表現している。 ③ユーラシア大陸をつなぐネットワークについての理解を主体的に追究しようとしている。			
期末考査				定期考 査 小テスト	定期考 査 振り返り シート	ノート 振り返り シート
2 学期	9	2 章 アジア諸地域の成熟とヨーロッパの進出	①14～17 世紀にかけてアジア諸地域間の交易が拡大したことを理解している。 ②交易の拡大による諸地域の変化のうち、最も大きな変化について根拠を示しながら自分なり			

		に評価し、表現している。 ③アジア諸地域間の交流について主体的に追究しようとしている。			ワークブック
10	3章 主権国家体制の成立と交易の拡大	①17～18 世紀のヨーロッパの社会構造の変化を理解している。 ②17～18 世紀のヨーロッパの社会構造の変化に大きな影響を与えたものは何かについて考察し、自分の言葉で表現している。 ③17～18 世紀のヨーロッパの社会構造の変化を主体的に追究しようとしている。			
中間考查					
11	4部 1章 環大西洋革命～工業文明と国民国家の誕生 2章 イギリスの覇権と欧米の国民国家建設	①大西洋を取り巻く地域で起こった革命が、各地の社会構造に与えた影響を理解している。 ②大西洋を取り巻く地域で起こった革命が、各地の社会構造に与えた影響について考察し、自分の言葉で表現している。 ③大西洋を取り巻く地域で起こった革命が、各地の社会構造に与えた影響を主体的に追究しようとしている。 ①イギリスの覇権が欧米諸国に与えた影響を理解している。 ②国民国家形成の前後で、欧米諸国に生じた変化について考察し、自分の言葉で表現している。 ③イギリスの覇権が欧米諸国に与えた影響を主体的に追究しようとしている。			
12	3章 世界の一体化の進展とアジアの変容	①「西洋の衝撃」がアジア諸地域に与えた影響を理解している。 ②「西洋の衝撃」によるアジアの変化で、最も重大だということについて、根拠を示しながら自分なりに評価し、表現している。 ③「西洋の衝撃」がアジア諸地域に与えた影響を主体的に追究しようとしている。			
期末考查					

3 学期	1	4章 世界の一体化の完成とその影響 5章 世界大戦の時代	①帝国主義が世界各地に与えた変化について、理解している。 ②帝国主義が世界各地に与えた変化について、欧米およびアジア・アフリカ・オセアニアの各地域ごとに考察し、表現している。 ③帝国主義が各地に与えた変化について、主体的に追究しようとしている。 ①二度の世界大戦が起こった理由を理解している。 ②第一次世界大戦の反省を踏まえた平和への取り組みは成功せず、第二次世界大戦が起こった理由について考察し、表現している。 ③二度の世界大戦が起こった理由を主体的に追究しようとしている。	定期考 査 小テスト	定期考 査 振り返り シート	ノート 振り返り シート ワークブ ック
	2	6章 戦後の国際秩序と冷戦 5部 1章 冷戦の展開と平和の模索	①第二次世界大戦と冷戦構造の関係について理解している。 ②冷戦構造が形成されるなかで、アメリカ・ソ連・ヨーロッパ・第三勢力諸国の動きが冷戦構造に与えた影響について考察し、自分の言葉で表現している。 ③冷戦構造が世界にもたらした影響を主体的に追究しようとしている。 ①冷戦期から現在まで世界各地で発生した紛争を理解している。 ③冷戦期から現在までの紛争の原因と解決方法について、共通点や相違点に着目しながら考察し、課題解決の方法を主体的に追究しようとしている。			
	学年末考查					
	3	2章 グローバル経済の光と影 3章 情報と科学技術によって結びつく世界 4章 地球世界の課題の探究	①冷戦終結後に、グローバル化が進んだ状況を理解している。 ②冷戦終結以降のグローバル化がもたらした功績と課題、その課題が生じた理由について考察し、表現している。 ①科学技術の高度化と知識基盤社会の進展について理解している。 ③科学技術の高度化と知識基盤社会の進展は、私たちの生活にどのような影響や課題を与えているのか、主体的に追究しようとしている。 ②これまでの学習を踏まえて、主題を設定し、動機についても示しながら、よりよい社会実現のた			

			めの仮説を表現している。 ③地球世界の課題について、歴史的な経緯を踏まえながら考察し、解決に向けて主体的に追究しようとしている。			
--	--	--	--	--	--	--

担当者からのメッセージ(学習方法など)

「世界史探究」では、古代から現代まで世界の歴史の流れを、日本の歴史と関連付けながら学んでいきます。『歴史総合』から引き続き、「なぜ？」という疑問を大切に授業に臨んでください。小テストなどで重要事項を覚えた上で、歴史の流れを説明する力を身につけ、現代社会の課題についても自分自身の力で考えていきましょう。

科目名	数学Ⅱ		学年	類型・コース	単位数
			2 年	普通科文型	3
学習の 目標	図形と方程式, 指数関数・対数関数, 三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察する能力を培い, 数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを活用する態度を育てる。				
使用教材	教科書:『新編 数学Ⅱ』(数研出版) 副教材:『新課程 チャート式 基礎からの 数学Ⅱ + B + C』(数研出版) 『新課程 4プロセス数学Ⅱ + B + C』(数研出版)				
評価	評価法	定期考査、小テスト、課題考査、ノート、プリント、課題(宿題)で評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに, 事象を数学化した り, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるよ うにする。	
		b	思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関 係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡 潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	
		c	主体的に学習に 取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度, 粘り強く柔軟 に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度, 問題解決の 過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとする 態度や創造性の基礎を養う。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, C の 3 段階)及び評定(1～5の 5 段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1 学期	4	第 3 章 図形と方程式 第1節 点と直線	座標や式を用いて、直線や円の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	中間考査	中間考査	ノート
		小テスト		課題	プリント	
				ノート		
	5	第 2 節 円 第 3 節 軌跡と領域				
	中間考査					
	6	第 4 章 三角関数 第 1 節 三角関数	角の概念を一般角まで拡張して、三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について多面的に考察できるようにする。	期末考査 テスト	期末考査 課題 ノート	ノート プリント
	7	第 2 節 加法定理	加法定理を理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。			

	期末考査					
2 学期	9	第 5 章	指数関数について理解し, それらを事象の考察に活用できるようにする。	課題考査 中間考査	課題考査 中間考査	ノート
	10	指数関数と対数関数 第1節 指数関数 課題学習		小テスト	課題 ノート	プリント
		課題学習2 火災現場から一番近い消防署 課題学習3 周期関数の性質		期末考査	期末考査	ノート プリント
	中間考査			小テスト	課題 ノート	
	11	第 2 節 対数関数	対数関数について理解し, それらを事象の考察に活用できるようにする。			
	12	第 6 章 微分法と積分法 第 1 節 微分係数と導関数	微分係数や導関数の意味について理解し, それらの有用性を認識するとともに, 事象の考察に活用できるようにする。			
期末考査						
3 学期	1	第 2 節 関数の値の変化	導関数の理解を深めるとともに, 導関数の有用性を認識できるようにする。	課題考査 学年末考査	課題考査 学年末考査	ノート
	2	第 3 節 積分法 課題学習	積分の考えについて理解し, それらの有用性を認識するとともに, 事象の考察に活用できるようにする。 課題学習4 平均律音階 課題学習5 箱の体積の最大値	小テスト	課題 ノート	プリント
		学年末考査				
	3	まとめ	1年間のまとめ			

担当者からのメッセージ(学習方法など)

授業用ノート、4プロセス用ノートは分けてください。

毎日の復習が大切です。宿題と授業で習った範囲の4プロセスの問題を解きましょう。

科目名	数学Ⅱ		学年	類型・コース	単位数
			2 年	普通科理型	3
学習の目標	図形と方程式, 指数関数・対数関数, 三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察する能力を培い, 数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを活用する態度を育てる。				
使用教材	教科書:『新編 数学Ⅱ』(数研出版) 副教材:『新課程 チャート式 基礎からの 数学Ⅱ + B + C』(数研出版) 『新課程 4プロセス数学Ⅱ + B + C』(数研出版)				
評価	評価法	定期考査、小テスト、課題考査、ノート、プリント、課題(宿題)で評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに, 事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	
		b	思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度, 粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度, 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1 学期	4	第 3 章	座標や式を用いて、直線や円の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	中間考査	中間考査	ノート
	5	図形と方程式 第1節 点と直線		小テスト	課題 ノート	プリント
		第 2 節 円 第 3 節 軌跡と領域				
	中間考査					
	6	第 4 章 三角関数 第 1 節 三角関数 第 2 節 加法定理	角の概念を一般角まで拡張して、三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について多面的に考察できるようにする。 加法定理を理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	期末考査 テスト	期末考査 課題 ノート	ノート プリント

	7	第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数 課題学習	指数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 課題学習2 火災現場から一番近い消防署 課題学習3 周期関数の性質			
	期末考査					
2 学期	9	第2節 対数関数	対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	課題考査 中間考査	課題考査 中間考査	ノート
	10	第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数	微分係数や導関数の意味について理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	小テスト	課題 ノート	プリント
	中間考査					
	11	第2節 関数の値の変化	導関数の理解を深めるとともに、導関数の有用性を認識できるようにする。	期末考査 小テスト	期末考査 課題 ノート	ノート プリント
	12	第3節 積分法 課題学習	積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 課題学習4 平均律音階 課題学習5 箱の体積の最大値			
	期末考査					
3 学期	1			課題考査	課題考査	
	2					
	3					

担当者からのメッセージ(学習方法など)

授業用ノート、4プロセス用ノートは分けてください。

毎日の復習が大切です。宿題と授業で習った範囲の4プロセスの問題を解きましょう。

科目名	数学Ⅱ		学年	類型・コース	単位数
			2 年	普通科英語コース	4
学習の目標	いろいろな式, 図形と方程式, 指数関数・対数関数, 三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察する能力を培い, 数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを活用する態度を育てる。				
使用教材	教科書:『新編 数学Ⅱ』(数研出版) 副教材:『新課程 チャート式 基礎からの 数学Ⅱ + B + C』(数研出版) 『新課程 4プロセス数学Ⅱ + B + C』(数研出版)				
評価	評価法	定期考査、小テスト、課題考査、ノート、プリント、課題(宿題)で評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに, 事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	
		b	思考・判断・表現	数の範囲や式の性質に着目し, 等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力, 座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し, 方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり, 図形の性質を論理的に考察したりする力, 関数関係に着目し, 事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力, 関数の局所的な変化に着目し, 事象を数学的に考察したり, 問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度, 粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度, 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1学期	4	第1章 式と証明 第1節 式と計算	3次式の展開と因数分解 *多項式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにする。 二項定理 *二項定理を利用して、展開式やその項の係数を求めることができる。 *二項定理を3項の場合に適用することで、展開式の係数を求めることができる。 多項式の割り算 *多項式の割り算の計算方法を理解している。 *多項式の割り算の結果を等式で表して考えることができる。 分数式とその計算 *分数式の約分、四則計算ができる。 *分数式の計算の結果を、既約分数式または多項式の形にして表現することができる。 恒等式 *恒等式となるように、係数を決定することができる。 *恒等式における文字の役割の違いを認識できる。	中間考査 小テスト	中間考査 課題 ノート	ノート プリント
	5	第2節 等式・不等式の証明 第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解	等式の証明 *数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。 不等式の証明 *実数の大小関係の基本性質に基づいて、自明な不等式を証明することができる。 複素数とその計算 *方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くことができるようにする。 *負の数の平方根を含む式の計算を、 i を用いて処理することができる。 2次方程式の解 *2次方程式の解の公式を利用して、2次方程式を解くことができる。 *判別式を利用して、2次方程式の解の種類を判別することができる。 解と係数の関係 *解と係数の関係を使って、対称式の値や2次方程式の係数を求めることができる。			
		中間考査				

	6	第2節 高次方程式	剰余の定理と因数定理 *剰余の定理や因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。 *剰余の定理を利用して, 多項式を1次式や2次式で割ったときの余りを求めることができる。 高次方程式 *因数分解や因数定理を利用して, 高次方程式を解くことができる。 *高次方程式の虚数解から, 方程式の係数を決定することができる。 *高次方程式が虚数解 $a+bi$ を解にもてば, $a-bi$ を解にもつことを利用できる。	期末考查 小テスト	期末考查 課題 ノート	ノート プリント
	7	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線	直線上の点 *数直線上において, 2点間の距離, 線分の内分点, 外分点の座標が求められる。 平面上の点 *座標平面上において, 2点間の距離が求められる。 直線の方程式 *x 軸に垂直な直線は $y=mx+n$ の形に表せないことを理解している。 *直線が x, y の1次方程式で表されることを理解している。 2直線の関係 *2直線の平行・垂直条件を理解していて, それを利用できる。 *図形 $F(x,y)=0$ が点 (s,t) を通ることを $F(s,t)=0$ として処理できる。 *点と直線の距離の公式を理解していて, それを利用することができる。 課題学習 課題学習1 パスカルの三角形の性質			
			期末考查			
2 学期	9	第2節 円	円の方程式 *与えられた条件を満たす円の方程式の求め方を理解している。 *x, y の2次方程式を変形して, その方程式が表す図形を調べることができる。 *3点を通る円の方程式を求めることができる。 円と直線 *円と直線の共有点の座標を求めることができる。 *円と直線の位置関係を, 適切な方法で判定できる。 *円の接線の公式を理解していてそれを利用できる。	課題考查 中間考查 小テスト	課題考查 中間考查 課題 ノート	ノート プリント

		第 3 節 軌跡と領域	2 つの円 * 2 つの円の位置関係を, 中心間の距離と半径の関係から調べることができる。 * 2 つの円の位置関係と, 中心間の距離と半径から, 円の方程式を求めることができる。 * $kF(x,y)+G(x,y)=0$ の形を利用して, 円の方程式を求めることができる。 軌跡と方程式 * 点が満たす条件から得られた方程式を, 図形として考察することができる。 * 軌跡の定義を理解し, 与えられた条件を満たす点の軌跡を求めることができる。 * 媒介変数処理が必要な軌跡の求め方を理解している。 * 軌跡を求めるには, 逆についても調べる必要があることを理解している。 不等式の表す領域 * 不等式の表す領域を図示することができる。 * 連立不等式の表す領域を図示することができる。 * 領域を利用する 1 次式の最大値・最小値の求め方を理解している。			
10	第 4 章 三角関数 第 1 節 三角関数	角の拡張 * 一般角を表す動径を図示したり, 動径の表す角を $\alpha + 360^\circ \times n$ と表したりすることができる。 * 角度の表し方に度数法と弧度法があることを理解している。また, 弧度法の定義を理解し, 度数法と弧度法の換算をすることができる。 * 扇形の弧の長さや面積の公式を理解している。 三角関数 * 弧度法で表された角の三角関数の値を, 三角関数の定義によって求めることができる。 * 単位円周上の点の座標を, 三角関数を用いて表すことができる。 * 三角関数の相互関係を理解し, それらを利用して様々な値を求めたり式変形をしたりすることができる。 三角関数のグラフ * いろいろな三角関数のグラフのかき方と周期の求め方を理解している。 三角関数の性質 * 三角関数の性質とグラフの特徴を相互に理解している。				

		* $\theta + 2n\pi$ や $-\theta$ などの公式を理解し, それらを用いて三角関数の値を求めることができる。 三角関数を含む方程式, 不等式 * 三角関数を含む 2 次方程式の解き方を理解している。			
	中間考査				
11	第 2 節 加法定理	加法定理 * 加法定理を利用して, 種々の三角関数の値を求めることができる。 * 正接の加法定理を利用して, 2 直線のなす角を考えることができる。 加法定理の応用 * 2 倍角, 半角の公式などを利用して, 三角関数の値を求めたり, 等式を証明したりすることができる。 * 2 倍角の公式を利用して, 三角関数を含むやや複雑な方程式・不等式を解くことができる。 * 三角関数の合成について理解している。 * x の関数 $y = a\sin x + b\cos x$ の式を適切に変形することで, 関数の最大値・最小値を求めることができる。 * 合成後の変数のとる値の範囲に注意して, $a\sin x + b\cos x = k$ の形の方程式を解くことができる。	期末考査 小テスト	期末考査 課題 ノート	ノート プリント
12	第 5 章 指数関数と対数関数 第 1 節 指数関数	指数の拡張 * 指数が整数の場合の累乗の定義を理解し, 累乗の計算や, 指数法則を利用した計算をすることができる。 * 累乗根の定義を理解し, 累乗根の計算ができる。 * 指数が有理数の場合の累乗の定義を理解し, 累乗の計算や, 指数法則を利用した計算をすることができる。 また, 累乗根を含む計算では, 分数指数を利用して計算することができる。 * 指数法則が成り立つように, 指数の範囲を正の整数から実数にまで拡張していることを理解している。 指数関数 * 累乗根をグラフによって考察することができる。 * 指数関数のグラフの概形, 特徴を理解している。 * 底と 1 の大小に注意して, 指数関数を含む不等式を解くことができる。			
	課題学習	課題学習 2 火災現場から一番近い消防署 課題学習 3 周期関数の性質			
	期末考査				

3 学期	1	第2節 対数関数	対数とその性質 * 指数と対数とを相互に書き換えることができる。 * 対数の定義を理解し、対数の値を求めることができる。 * 対数の性質に基づいた種々の対数の値の計算ができる。 * 底の変換公式を等式として利用できる。 対数関数 * 対数関数のグラフの概形、特徴を理解している。 * 底と 1 の大小に注意して、対数関数を含む不等式を解くことができる。 * 対数の性質を用いる際に、真数が正であることに着目できる。 常用対数 * 正の数を $a \times [10]^n$ の形に表現して、対数の値を求めることができる。 * 常用対数の定義を理解し、それに基づいて種々の値を求めることができる。 * 常用対数を利用して、桁数の問題や小数首位問題などを解くことができる。	課題考查 学年末考 査 小テスト	課題考查 学年末考 査 課題 ノート	ノート プリント
		第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数	微分係数 * 極限値を計算して微分係数を求めるとき、分母の h は 0 でないことを理解している。 * 平均変化率、微分係数の定義を理解し、それらを求めることができる。 導関数とその計算 * 定義に基づいて導関数を求める方法を理解している。 * 導関数の性質を利用して、種々の導関数の計算ができる。 * 導関数を利用して微分係数が求められることを理解している。 接線の方程式 * 接点の x 座標が与えられたとき、接線の方程式を求めることができる。 * 接線の方程式の公式を利用して、接線の方程式を求めることができる。 * 曲線外の点から曲線に引いた接線の方程式の求め方を理解している。			

2	第2節 関数の値の変化	関数の増減と極大・極小 *導関数を利用して、関数の増減を調べることができる。 *導関数を利用して、関数の極値を求めたり、グラフをかいたりすることができる。 *関数の極値が与えられたとき、関数を決定することができる。 関数の増減・グラフの応用 *導関数を利用して、関数の最大値・最小値を求めることができる。 *最大・最小の応用問題では、変数のとり方、定義域に注意して解くことができる。 *導関数を利用して、方程式の実数解の個数問題、不等式の証明問題を解くことができる。			
	第3節 積分法	不定積分 *不定積分の計算では、積分定数を書き漏らさずに示すことができる。 *不定積分の定義や性質を理解し、それを利用する不定積分の計算方法を理解している。 *与えられた条件を満たす関数を、不定積分を利用して求めることができる。 定積分 *定積分の定義や性質を理解し、それを利用する定積分の計算方法を理解している。 *上端が変数 x である定積分で表された関数を微分して処理することができる。 定積分と面積 *直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分で表して求めることができる。			
	課題学習	課題学習4 平均律音階 課題学習5 箱の体積の最大値			
	学年末考査				
3		数学Ⅱの復習			

担当者からのメッセージ(学習方法など)

授業用ノート、4プロセス用ノートは分けてください。

毎日の復習が大切です。宿題と授業で習った範囲の4プロセスの問題を解きましょう。

科目名	数学Ⅲ		学年	類型・コース	単位数
			2 年	普通科理型	1
学習の目標	数学における基本的な概念や原理・法則の理解を深め、事象を数学的に考察し処理する能力を高め、数学的活動を通して創造性の基礎を培うとともに、数学的な見方や考え方の良さを認識し、それらを積極的に活用する態度を育てる。				
使用教材	教科書:『新編 数学Ⅲ』(数研出版) 副教材:『新課程 チャート式 基礎からの 数学Ⅲ+C』(数研出版) 『新課程 4プロセス数学Ⅲ+C』(数研出版)				
評価	評価法	定期考査、小テスト、ノート、プリント、課題(宿題)で評価する。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したリ、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	
		b	思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1 学期	4					
	5					
	中間考査					
	6					
	7					
	期末考査					
2 学期	9					
	10					
	中間考査					
	11					
	12					
	期末考査					

3 学期	1	第1章 関数	・分数関数の定義を理解し、グラフをかくことができる。 ・分数関数のグラフと直線について、共有点の座標の意味を考え、その求め方を考察しようとする。 ・無理関数の定義を理解し、グラフをかくことができる。 ・無理不等式の解を、グラフと直線の上下関係に読み替えることができる。 ・逆関数、合成関数の考え方に興味・関心を示し、具体的な問題に取り組もうとする。 ・2つの関数を続けて作用させた関数を、合成関数という1つの関数として考察することができる。 ・逆関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	小テスト	課題	ノート
	2	第2章 極限 第1節 数列の極限 第2節 関数の極限 課題学習	・数列の極限値の定義を理解している。 ・収束する数列の極限値の性質を理解し、それを用いて、数列の極限が求められる。 ・無限等比数列の収束・発散を利用して、様々な数列の極限を求めることができる。 ・無限等比数列の収束条件を理解し、それを利用できる。 ・漸化式で表された数列の一般項を求め、数列の極限を求めることができる。 ・無限等比級数の収束、発散を、公比の値で調べられる。 ・関数の極限の表記および記号について理解している。 ・不定形の関数の式を、不定形を解消するように工夫して変形しようとする。 ・関数の極限が、正・負の無限大に発散する場合を調べられる。 ・「はさみうちの原理」を用いて極限を求める方法に、興味・関心をもつ。 ・定義に基づいて、様々な関数の連続性、不連続性を判定することができる。 課題学習1 平方根の近似値	プレ学年 末考查	プレ学年 末考查	プリント
	学年末考查			学年末考 査	学年末考 査	
	3	まとめ	1年間のまとめ			

担当者からのメッセージ(学習方法など)

授業用ノート、4プロセス用ノートは分けてください。

毎日の復習が大切です。宿題と授業で習った範囲の問題集の問題を解きましょう。

科目名	数学 B		学年	類型・コース	単位数
			2 年	普通科	2
学習の目標	数列, 統計的な推測について理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 数学と社会生活の関わりについて認識を深め, 事象を数学的に考察する能力を培い, 数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを活用する態度を育てる。				
使用教材	教科書:『新編 数学B』(数研出版) 副教材:『新課程 チャート式 基礎からの 数学Ⅱ + B + C』(数研出版) 『新課程 4プロセス数学Ⅱ + B + C』(数研出版)				
評価	評価法	定期考査、小テスト、課題考査、ノート、プリント、課題(宿題)で評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	数列, 統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに, 数学と社会生活の関わりについて認識を深め, 事象を数理化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	
		b	思考・判断・表現	離散的な変化の規則性に着目し, 事象を数学的に表現し考察する力, 確率分布や標本分布の性質に着目し, 母集団の傾向を推測し判断したり, 標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力, 日常の事象や社会の事象を数理化し, 問題を解決したり, 解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度, 粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度, 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1 学期	4	第1章 数列 第1節 等差数列と等比数列	数列と一般項 * 数列の定義, 表記について理解している。 * 数の並び方からその規則性を推定して, 数列の一般項を考察できる。 等差数列 * 等差数列の公差, 一般項などを理解している。 * 等差数列の和の公式を適切に利用して, 数列の和が求められる。	中間考査 小テスト	中間考査 課題 ノート	ノート プリント
	5		等比数列 * 等比数列の公比, 一般項などを理解している。 * 等比数列の項を書き並べて, 隣接する項の関係が考察できる。 等比数列の和を工夫して求める方法について考察できる。			
		中間考査				ノート
	6	第2節 いろいろな数列	和の記号Σ * 記号Σの意味と性質を理解し, 数列の和が求められる。 * 数列の和を記号Σで表して, 和の計算を簡単に行うことができる。	期末考査	期末考査	プリント

			階差数列 * 階差数列を利用して、もとの数列の一般項が求められる。 * 数列の和 S_n と第 n 項 a_n の関係を理解し、数列の一般項が求められる。	小テスト	課題 ノート	
	7		いろいろな数列の和 * 和の求め方の工夫をして、数列の和が求められる。 * 群数列を理解し、ある特定の群に属する数の和が求められる。 漸化式と漸化式 * 初項と漸化式から一般項が求められる。 * 数学的帰納法を利用して、いろいろな事柄を積極的に証明しようとする。			
	期末考查					
2 学期	9			課題考查	課題考查	
	10					
	中間考查					
	11					
	12					
	期末考查					
3 学期	1	第2章統計的な推測 第1節確率分布	確率変数と確率分布 * 確率変数や確率分布について、用語の意味を理解している。 * 確率変数や確率分布について、用語の意味を理解している。 確率変数の期待値と分散 * 確率変数の期待値、分散、標準偏差を求めることができる。 * 確率変数の期待値 $E(X)$ や分散 $V(X)$ などの計算式を理解して活用できる。 * 確率変数の期待値、分散、標準偏差などを用いて確率分布の特徴を考察することができる。 確率変数の和と積 * 確率変数の和の期待値を、公式を利用して求めることができる。 二項分布 * 反復試行の結果を、二項分布を用いて表すことができる。 * 二項分布に従う確率変数の期待値や分散を求めることができる。 正規分布 * 確率密度関数や分布曲線の定義を理解し、連続型確率変数について、確率を求めることができる * 正規分布に従う確率変数 X を標準正規分布に従う確率変数 Z に変換できる。 * 標準正規分布表を用いて、正規分布に関する確率の計算ができる。	学年末考 査 小テスト	学年末考 査 課題 ノート	ノート プリント
	2	第2節統計的な推測	母集団と標本 * 復元抽出と非復元抽出について理解している。 標本平均の分布 * 標本平均が確率変数であることを理解している。 * 母平均と母標準偏差から標本平均の期待値と標準偏差を求めることができる。			

		第3章 数学と社会 生活	推定 * 母平均と母標準偏差の考え方や標本平均の期待値と標準偏差の考え方がわかる。 仮説検定 * 推定に関わる用語・記号を適切に活用することができる。 数学を活用した問題解決 * 日常生活における問題や社会問題を数学的に考察するときの手順を理解している。			
	学年末考査					
	3		社会の中にある数学 * 選挙における議席の割り振り方を理解し、与えられた手順通りに割り振ることができる。 変化をとらえる * 移動平均を用いると長期的な変化の傾向が調べやすくなることを理解している。 * 散布図について理解し、傾向を読み取ることができる。			

担当者からのメッセージ(学習方法など)

数学Bは1学期と3学期に授業を行います。授業用ノート、4プロセス用ノートは分けてください。毎日の復習が大切です。宿題と4プロセスの授業で習った問題を解きましょう。

科目名	数学 C		学年	類型・コース	単位数
			2 年	普通科	1
学習の 目標	ベクトルについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。				
使用教材	教科書:『新編 数学 C』(数研出版) 副教材:『新課程 チャート式 基礎からの 数学Ⅱ + B + C』(数研出版) 『新課程 4プロセス数学Ⅱ + B + C』(数研出版)				
評価	評価法	定期考査、小テスト、課題考査、ノート、プリント、課題(宿題)で評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	ベクトルについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数式化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	
		b	思考・判断・表現	大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, C の 3 段階)及び評定(1～5の 5 段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1 学期	4					
	5					
	中間考査					
	6					
	7					
	期末考査					

2 学期	9	第1章 平面上のベクトル	ベクトルの演算 *ベクトルの成分表示の仕組みを理解し, 具体的なベクトルを成分表示できる。また, そのベクトルの大きさを求めることができる。 ベクトルの成分 *ベクトルの垂直条件を活用して, 与えられたベクトルに垂直なベクトルを求めることができる。 ベクトルの内積 *ベクトルの内積の定義を理解し, 内積を求めることができる。 位置ベクトル *点の位置を, 基準となる点と 1 つのベクトルを用いて表すことができることを理解している。 *位置ベクトルを活用して, 図形の性質が考察できる。 ベクトルの図形への応用 *線分の内分点・外分点を位置ベクトルで表す公式を, 実際の図形に適用できる。 図形のベクトルによる表示 *直線のベクトル方程式について, 媒介変数を用いて表すことができる。	中間 小テスト	中間 課題	ノート プリント
	10				ノート	
	中間 中間 中間					
	11	第2章 空間のベクトル	空間の点 *空間における点の表し方を理解し, 座標平面や座標軸, 原点に関して対称な点の座標を求めることができる 空間のベクトル *空間図形の中で, 等しいベクトルや逆ベクトルを探すことができる。 ベクトルの成分 *ベクトルの成分表示について, 平面上のベクトルの拡張になっていることを理解し, ベクトルが等しくなるように成分を定めたり, 成分表示されたベクトルの大きさを求めたりすることができる。 ベクトルの内積 *空間のベクトルの内積や, 成分表示された 2 つのベクトルのなす角を求めることができる。 ベクトルの図形への応用 *位置ベクトルの定義や内分点などの位置ベクトルが平面上のベクトルの場合と同じであることを理解している。 座標空間における図形 *座標平面に平行な平面や, 座標軸に垂直な平面の方程式が求められるようになる *いろいろな球面の方程式が求められる。	期末 小テスト	期末 課題	ノート プリント
	12				ノート	
	期末 期末 期末					
3 学期	1			課題 課題 課題 課題	課題 課題 課題 課題	
	2					
	学年末 学年末 学年末					
	3					

担当者からのメッセージ(学習方法など)

数学Cは2学期に授業を行います。授業用ノート、4プロセス用ノートは分けてください。毎日の復習が大切です。宿題と4プロセスの授業で習った問題を解きましょう。

科目名	物理基礎		学年	類型・コース	単位数
			2年	普通科理型	2
学習の目標	物理的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しを持って観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を身につける。				
使用教材	教科書：『物理基礎』（数研出版） 副教材：『新課程版セミナー物理基礎』（第一学習社）				
評価	評価法	定期考査、実験レポート、問題集への取り組み、発表の内容などで評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができています。	
		b	思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して、課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、粘り強く学習に取り組んでいる。自ら学習を調整しようとしている。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1学期	4	物理量の測定と扱い方 速度	* 物理量の表し方について理解する * 等速直線運動の式、および $x-t$ 図、$v-t$ 図を理解する * 物体の運動を表すには向きが必要であることと、速さと速度、移動距離と変位の違いを理解する平均の速度と瞬間の速度の違いを理解している * 直線上の合成速度、相対速度の意味と求め方を理解している * 速度の意味・表し方、またこれらはグラフ上でどのように示されるかを正しく理解し、説明することができる	レポート	レポート	授業態度 発表内容 実習態度 (通年) レポート
	5	加速度 落体の運動 力とそれはたらき 力のつりあい	* 加速度の定義や正負の意味を正しく理解している * 等加速度直線運動を表す3つの式がどのようにして得られたかを理解し、その式やグラフを正しく運用・説明することができる * 自由落下や鉛直投射において、与えられた時刻における高さや速度を与える式の運用ができる * 自由落下や鉛直投射はいずれも等加速度直線運動の一種であることを理解している。水平投射は鉛直方向に自由落下、水平方向には等速直線運動していることを理解している * 落下運動する物体のようすについて説明することができる * 重力、垂直抗力、摩擦力、糸が引く力、弾性力について理解できている * 作用・反作用の2力と、つりあいの2力を区別して考え、説明することができる * 3つの力がはたらいてつりあうときの力の関係を理解できている。			
	中間考査			中間考査	中間考査	

	6	運動の法則 摩擦を受ける運動 液体や気体から受ける力 仕事	* 物体が力を受けるとき(あるいは受けないとき)、運動状態はどのようになるか、逆に物体の運動状態からどのような力がはたらいているかを指摘できる * さまざまな運動をしている物体について、運動方程式を立てて考えることができる * 注目する物体に摩擦力はどの向きに現れるか、また最大摩擦力の大きさは2物体間の面の状態を表す静止摩擦係数μと、垂直抗力Nとの積で表されることを理解している。 * 圧力を求める式を理解している。水圧を求める式を理解し、水中にある物体が静止しているとき、物体にはたらく力のつりあいの式を立てることができる * 水中にある物体にはどのような浮力がはたらくかを理解している。 * 仕事、仕事率を計算して求めることができる * 物体に対して力がはたらいていても、仕事は0のときもあり、それがどのようなときであるかを理解している * 仕事の原理を理解している			問題集取組
	7	運動エネルギー 位置エネルギー 力学的エネルギーの保存	* 運動エネルギーを計算して求めることができる * 運動エネルギーの変化量は、物体がされた仕事量に等しいことを理解している * 重力による位置エネルギーを計算することができる。弾性力による位置エネルギーを計算することができる * 物体が基準点まで移動するときに保存力がする仕事が位置エネルギーであることを理解している * さまざまな物体の運動について、力学的エネルギー保存則を用いることができる * 物体に保存力以外の力がはたらくとき、その仕事の量だけ物体の力学的エネルギーが変化することを理解している * 力学的エネルギー保存則が成り立つための条件が整っているかどうかを判断できる * 力学的エネルギー保存則を、実験で定量的に検証し、実験結果と理論とを比較して考察・説明できる	レポート	レポート	レポート
	期末考査			期末考査	期末考査	問題集取組
2学期	9	熱と物質の状態 熱と仕事 波と媒質の運動 波の伝わり方 音の性質 発音体の振動と共振・共鳴	* 温度、熱運動、熱量、比熱、熱容量などを正しく理解し、説明することができる * 熱量の保存について理解し、熱量保存の式を立てることができる。 * 物質が、固体→液体、液体→気体になる際の熱のやりとりについて理解している * 仕事と熱の関係や熱力学第一法則について理解している * 熱機関と、熱機関の熱効率について理解している * 仕事によって温度が上昇することを、実験によって確認できる * 波の発生原理や基本事項を理解し説明することができる * 縦波と横波の違いを理解している * 縦波を横波の形で表現できる * 波の伝わるようすをグラフで表現することができる * 定在波の生じるしくみを理解している * ウェーブマシンの実験・観察を通して、波の重ね合わせの原理や自由端・固定端での波の反射について理解している * 日常生活での体験を通して、音の波としての性質を理解している * 音の特徴づける3つの要素について説明できる * うなりとはどのような現象であるかを説明できる。 * 弦や気柱の振動と音の高さの関係について理解している			

			* 気柱共鳴装置を用い, 気柱の共鳴音からおんさの振動数を求めることができ, 理解できている	レポート	レポート	レポート
	10	エネルギーの移り 変わり エネルギー資源と 発電	* エネルギーにはどのような種類があるか, また, 身近な さまざまな事象でどのようなエネルギー変換がさな されているかを理解している * エネルギー資源にはどのようなものがあるか把握し, それらの長所と短所を理解している * 再生可能エネルギーについて, 枯渇性エネルギーとの 違いを考え, 説明できる * 火力, 原子力, 水力, 風力の発電の共通点について説 明できる			
	中間考查					
	11					
	12					
3 学期	1					
	2					
	3					

担当者からのメッセージ(学習方法など)

自らの手で計算を行うことがなにより重要です。これを基礎として、現象を数式に落とし込み、式から現象を想像する能力が体得されます。そして、図を書く習慣を身につけて下さい。図を書くことで、与えられて状況を整理する能力が身につきます。図も式も、まずは手を動かして自分の手で書いてみてください。

科目名	物理		学年	類型・コース	単位数
			2年	普通科理型	2
学習の目標	物理的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しを持って観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を身につける。				
使用教材	教科書:『物理』(数研出版) 副教材:『リードα物理』(数研出版)				
評価	評価法	定期考査、実験レポート、問題集への取り組み、発表の内容などで評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができています。	
		b	思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して、課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、粘り強く学習に取り組んでいる。自ら学習を調整しようとしている。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1 学期	4					
	5					
	中間考査					
	6					
	7					
	期末考査					
2 学期	9					授業態度 発表内容 実習態度 (通年)
	10					
	中間考査					
	11	平面運動の速度・ 加速度 落体の運動 剛体にはたらく力 のつりあい 剛体にはたらく力 の合力と重心	* 平面上の合成速度, 相対速度の意味と求め方を理解している * 加速度は速度の時間変化を表すものであり, ベクトル量であること, またその求め方を理解できている * 動く観測者から見た場合の, 観測者と同じ平面上を動く物体の運動のようすを説明できる * 水平投射は鉛直方向には自由落下, 水平方向には等速直線運動をしていることを理解し, 適切に式を運用できる * 斜方投射は鉛直方向には鉛直投げ上げ, 水平方向には等速直線運動をしていることを理解し, 適切に式を運用できる * 力のモーメントについて理解している * 剛体のつりあいでは, 並進運動をしない条件と回転運			

3 学期			動しない条件が必要なことを理解している * 力のモーメントの式を理解し、うでの長さが異なるときにはたらく力の大きさについて考察できる * 剛体にはたらく複数の力の合力を求めることができる * 偶力のモーメントを求めることができる * 剛体の転倒する条件を理解している * 直方体をどのように置いたときに転倒しやすいかを調べることができる * 剛体の転倒する条件を理解し、重心の位置と転倒のしやすさの関係を説明できる	レポート	レポート	レポート
	12	運動量と力積 運動量保存則 反発係数	* 運動量と力積について、求め方を理解している * 運動量の変化は、その間に物体が受けた力積に等しいことを理解している * 運動量の変化と力積の関係の式から、物体が受ける力積と平均の力の大きさについて説明することができる * 運動量保存則が成り立つ条件を説明することができる * 反発係数の式を用いて、衝突する物体の運動を調べることができる * 運動量保存則と反発係数の式から物体の速さを求めることができる			
	期末考査			期末考査	期末考査	問題集取組
	1	等速円運動 慣性力 単振動	* 等速円運動をしている物体の回転の速度、角速度、周期、回転数の諸量の定義が理解できている * 一定の半径で等速円運動する物体の速さと物体にはたらく向心力の大きさの間の関係を説明できる * 慣性力とその他の力の違いについて理解し、説明できる * 単振動の変位、速度、加速度の式、運動方程式を理解している * ばね振り子や単振り子の周期の式を用いて、周期と質量や周期と糸の長さの間の関係について説明できる * 糸の長さや小球の質量、振幅を変えていったときのばね振り子の周期を測定し、周期がどのように変化するか考えることができる	レポート	レポート	レポート
	2	万有引力 気体の法則 気体分子の運動	* ケプラーの法則を理解している * 万有引力の式を理解している * 万有引力の位置エネルギーの式を用いて、力学的エネルギー保存則の式を立てることができる * 気体の圧力、体積、絶対温度の間の関係について理解している * ボイル・シャルルの法則を用いて、状態変化後の気体の圧力、体積、絶対温度を求めることができる * 理想気体の状態方程式を用いることができる * 気体が熱運動して壁などの面に力を及ぼすことから圧力の大きさを表す式を導くことができる * 平均運動エネルギーと絶対温度の関係を説明できる * 単原子分子理想気体の内部エネルギーについて理解できている			
	学年末考査			学年末考査	学年末考査	問題集取組
	3	気体の状態変化	* 気体の状態変化の、「定積変化」、「定圧変化」、「等温変化」、「断熱変化」を、それぞれ p-V図や式で表すことができる * 気体の状態変化と気体がされた仕事について説明できる * 定積モル比熱と定圧モル比熱の違いを正しく理解し、2つの間に成り立つ関係について説明できる * 熱機関のモデルとして、サイクルの状態変化を理解し、熱効率を求めることができる			

担当者からのメッセージ(学習方法など)
自らの手で計算を行うことがなにより重要です。これを基礎として、現象を数式に落とし込み、式から現象を想像する能力が体得されます。そして、図を書く習慣を身につけて下さい。図を書くことで、与えられて状況を整理する能力が身につきます。図も式も、まずは手を動かして自分の手で書いてみてください。

科目名	化学		学年	類型・コース	単位数
			2 年	普通科理型	3
学習の目標	化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しを持って観察、実験を行うことなどを通して、化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を身に付ける。				
使用教材	教科書:『化学基礎』『化学』(数研出版) 副教材:『2025新課程版 セミナー化学』(第一学習社)				
評価	評価法	定期考査、小テスト、実験レポート、発表、ワークシート、振り返りの記述等で評価します			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	化学の基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、化学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けている。	
		b	思考・判断・表現	化学的な事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど科学的に探究している。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	化学的な事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり、振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1 学期	4	第 2 編 第2章 第3章 1 電池 2 電気分解	* 酸と塩基の復習 * 酸化還元反応 化合物中の原子の酸化数の数え方を学び、酸化還元を酸化数の変化から判定できるようにする。 金属のイオン化傾向とともに電池の仕組みについて学習し、ダニエル電池や鉛蓄電池、燃料電池などの電池の具体的な構造と正極および負極において起こる反応について理解する。 * 外部から加えた電気エネルギーによって電気分解が起こることを、水溶液の電気分解を題材としながら、酸化還元反応と関連付けて理解する。	中間 考査	中間 考査	レポ ート
	5	* 【実験】電解質水溶液の電気分解 * 電気分解の工業的利用、金属の精錬				
	中間考査					
	6	第 1 編 第 1 章 固体の構造 1 結晶とアモルファス 2 金属結晶 3 イオン結晶 4 分子間力と分子結晶	* 結晶の特徴と単位格子、配位数について理解する。 また、アモルファス(非晶質)においては通常の結晶との違いを理解し、アモルファスの構造をもつ物質について学ぶ。 * 金属結晶の構造について学び、それぞれの結晶格子の構造から、原子半径や充填率、密度を計算する方法を理解する。 * 【実習】金属の単位格子模型を作ろう * イオン結晶の構造について学び、結晶格子の種類や陽イオンと陰イオンの配列、イオン半径の比について理解する。 * ファンデルワールス力や水素結合などの分子間力について復習し、分子間力によってできる分子結晶の性質や具体的な物質についての理解を深める。 * 気体分子の熱運動に運動エネルギーや温度が関係			

		第 2 章 1 粒子の熱運動	＊ することを理解し、それらを関連付けながら物質の三態変化について復習する。 ＊ 【実習】シミュレーションソフトを用いて分子の熱運動について復習する ＊ 状態変化に伴う熱の出入りとその名称について理解する。また、物質を構成する粒子間にはたらく力の大小と融点や沸点の関係についても理解する。 ＊ 大気圧と気液平衡の概念を理解する。また、蒸気圧や蒸気圧と沸騰の関係性、物質の状態図についても理解する。			
	7	第 3 章 1 気体の体積	＊ 理想気体の体積や圧力、絶対温度の関係についてボイルの法則、シャルルの法則、ボイル・シャルルの法則が成りたつことを理解し、これらの関係が式で表せることも理解する。 ＊ ボイル・シャルルの法則から理想気体の状態方程式が導かれることを理解する。また、理想気体の状態方程式を利用することで、気体の分子量を求めることができることも理解する。 ＊ 【実験】状態方程式を用いた分子量測定	期末考查	期末考查	レポート
		2 気体の状態方程式				
		期末考查				
2 学期	9	3 混合気体の圧力	＊ 混合気体について、理想気体の状態方程式から導かれる分圧の法則について理解する。また、分圧と物質量や体積、モル分率の関係について理解し、モル分率を用いた平均分子量の考え方や水上置換で捕集した気体の分圧についても理解する。			
		4 実在気体	＊ 気体と理想気体との違いについて理解し、その違いを踏まえ、実在気体を理想気体とみなして扱える条件についても理解する。			
		第 4 章 1 溶解とそのしくみ	＊ イオン結晶や分子からなる物質の溶解について、溶質および溶媒の極性の有無などと関連付けながら、そのしくみや溶解性の違いを理解する。 ＊ 【実験】分子の極性と溶解 ＊ 飽和溶液において成りたっている溶解平衡について理解する。さらに溶解平衡と関連付けながら固体の溶解度や再結晶について復習するとともに、新たに水和水をもつ物質の溶解量についても理解する。また、気体の溶解度と温度・圧力の関係について理解をし、ヘンリーの法則についても理解する。さらに溶液の濃度の表し方について、質量パーセント濃度とモル濃度について復習するとともに、新たに質量モル濃度についても理解する。			
		2 溶解度				
	10	3 希薄溶液の性質	＊ 希薄溶液では溶質の数にのみ依存して成りたつ共通の性質(蒸気圧降下、沸点上昇、凝固点降下、浸透圧)があることを理解し、それぞれの現象についても理解する。また、凝固点降下や浸透圧を利用することで分子量の測定ができることなども理解する。 ＊ 【実験】凝固点降下を利用した分子量測定	中間考查	中間考查	レポート
		中間考查				
	10	4 コロイド溶液	＊ コロイドとその分類について理解をし、コロイド溶液に特徴的な性質(チンダル現象、ブラウン運動、透析、電気泳動)を現象を交えて理解する。また、親水コロイドや疎水コロイド、保護コロイドに特徴的な現象についても理解する。 ＊ 【実験】水酸化鉄(Ⅲ)のコロイド溶液を作る			
		第 2 編物質の変化 1 化学反応と熱	＊ 化学反応に伴って放出・吸収する熱量をエンタルピー変化で表すことと、反応エンタルピーの種類とそれぞれの定義について理解する。また、実験により			

		2 ヘスの法則	* 反応エンタルピーを測定できることも理解する。ヘスの法則を用いることで実験で測定が困難な反応エンタルピーを求めることができることを理解する。また生成エンタルピーや結合エネルギーなどについて、ヘスの法則を利用して反応エンタルピーを算出する方法について理解する。 * 【実験】ヘスの法則			
	11	3 化学反応と光 第3章 1 化学反応の速さ 2 反応条件と反応速度 3 化学反応のしくみ	* 化学反応の前後における物質のもつ化学エネルギーの差が光の発生や吸収となって現れることを、光合成や光触媒などの身近な具体例を交えながら理解する。 * 反応速度の表し方とその求め方を理解する。 * 速度定数を用いた反応速度式の表し方と実験データからの速度定数の求め方を理解する。また、反応速度に影響を与える要因については「濃度・温度・触媒の有無」があることを理解する。触媒の利用例についても理解する。 * 化学反応のしくみについて、反応速度に影響を与える要因などと反応の活性化エネルギーなどを関連付けながら理解する。	期末考査	期末考査	レポート
		期末考査				
	12	第4章 1 可逆反応と化学平衡 2 平衡状態の変化	* 可逆反応と平衡状態について理解し、平衡状態では濃度を用いて平衡定数が記述できること(化学平衡の法則)を理解する。さらに、固体が含まれる反応や液体どうしの反応、気体のみが反応する場合の平衡定数の記述の仕方について理解する。 * 平衡の移動に関するルシャトリエの原理を理解し、濃度・圧力・温度を変化させることによって平衡がどのように移動するか理解する。また触媒と反応速度、平衡移動の関係を理解し、これらの考え方を利用した工業的製法についても理解する。			
3 学期	1	3 電解質水溶液の化学平衡	* 【実験】ルシャトリエの原理 * 電解質水溶液においても電離平衡が成り立つことを理解し、弱酸や弱塩基における濃度、電離度、電離定数、水のイオン積、pH の関係を理解する。また、これらの考え方を基盤とし、弱酸・弱塩基の遊離、塩の加水分解、緩衝液、難溶性塩の水溶液中の平衡についても理解する。			
	2	第3編 1 非金属元素 2 金属元素	* 【実習】各非金属元素の関連化合物についてジグソー学習を行い、動画を作成し、その性質について理解する。 * 【実験】硫酸の性質 * 【実習】各金属元素の関連化合物についてジグソー学習を行い、動画を作成し、その性質について理解する。	学年末考査	学年末考査	
		学年末考査				
	3	金属イオンの分離・確認	* それぞれの金属イオンの反応性の違いに基づいて、複数の金属イオンを含む混合溶液から金属イオンを分離する方法を理解する。			

担当者からのメッセージ(学習方法など)

1 つ目は基礎知識を定着させること。化学は化学基礎を土台として、より深く学んでいく教科です。そのため、化学基礎の基本的な知識なしでは習得は非常に難しいです。復習を心がけてください。問題集セミナーに取り組むことは最良の復習につながります。

2 つ目は実験レポートです。レポートの難易度も量も1年生のころよりも格段に上がります。必要ならばインターネットや書籍を参考にして徹底的に「思考・記述」する練習をしましょう。

科目名	生物	学年	類型・コース	単位数
		2 年	普通科理型	2
学習の目標	生物に関する種々の現象や生物の構造等を学ぶ中で、生物学に関する知識を身につけると共に、科学的・論理的な思考力を養う。その結果、生物学を探究するために必要な資質・能力を育成する。			
使用教材	教科書:『生物』(数研出版) 副教材:『新課程二訂版スクエア最新図説生物』(第一学習社) 『リードα生物』(数研出版)			
評価	評価法	定期考査、実験レポート、授業ノートなどで評価します。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができています。
		b	思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して、課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けています。
		c	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、粘り強く学習に取り組んでいる。自ら学習を調整しようとしている。
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。			

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1 学期	4	第 1 章 生物の進化 1. 生命の起源と生物の進化 2. 遺伝子の変化と多様性	* 生命の起源として、無機物から有機物が生じ、有機物の集まりから「細胞」が生じたと考えられていることを理解する。生物が代謝を通じて地球の環境を変化させてきたこと、地球の環境の影響を受けて生物が進化してきたことを理解する。 * 生物の形質の変化は、遺伝子の変化によって生じることを理解する。突然変異によって、遺伝的な多様性が生じることを理解する。	中間 考査	レポート 中間 考査	授業態度 実習態度 (通年)
	5	3. 遺伝子の組み合わせの変化	* 減数分裂の過程では、染色体の乗換えによって遺伝子の組換えが起こることを理解する。有性生殖においては、親から子へと遺伝子が受け継がれる過程で、遺伝子の組み合わせが変化することを理解する。			レポート
	中間考査					問題集課題 授業ノート
	6	4. 進化のしくみ 5. 生物の系統と進化	* 遺伝的浮動と自然選択によって遺伝子頻度が変化することを理解する。隔離によって種分化が生じやすくなることを理解する。 * DNA の塩基配列やタンパク質のアミノ酸配列から、生物の系統を推定できることを理解する。生物が、系統に基づいて 3 つのドメインに分類されることを理解する。			
	7	6. 人類の系統と進化	* 人類が、霊長類のうちの類人猿から進化したことを理解する。人類の特徴として、直立二足歩行をすることが重要であることを理解する。			
	期末考査			期末考査	期末考査	問題集課題 授業ノート

2 学期	9	第 2 章 細胞と分子 1. 生体物質と細胞 2. タンパク質の構造と性質	* 細胞を構成する代表的な物質とその特徴について理解する。生物の基本単位である細胞の構造とその機能について理解する。 * 細胞の生命活動を担うタンパク質の構造について理解する。タンパク質の構造と機能との密接な関係について理解する。	中間 考 査	中間 考 査	問題集課題 授業ノート			
	10	3. 化学反応にかかわるタンパク質 4. 膜輸送や情報伝達にかかわるタンパク質	* 酵素の基本的な性質と、酵素がはたらく反応条件について理解する。酵素反応を調節するしくみについて理解する。 * 生体膜を介した物質輸送と、それにかかわるタンパク質のはたらきについて理解する。情報伝達にかかわる受容体タンパク質のはたらきについて理解する。						
	中間 考 査								
	11	第 3 章 代謝 1. 代謝とエネルギー 2. 呼吸と発酵	* 生体内で起こる化学反応の一部は酸化還元反応であり、反応に際して大きなエネルギーの出入りを伴うことを理解する。 * 呼吸では、有機物が酸化されるのに伴う一連の酸化還元反応によってエネルギーが取り出され、ATP が合成されることを理解する。発酵では、酸素を用いずに有機物が分解され、ATP が合成されることを理解する。 * 細胞内ではたらく酵素による酸化還元反応実習 * アルコール発酵実習				レポ ー ト	レポ ー ト	レポ ー ト
	12	3. 光合成	* 光合成では、光エネルギーを用いて ATP と電子の運搬体が合成され、これらを用いて二酸化炭素が還元されて有機物が生じることを理解する。 * 植物の光合成色素の分離実習				レポ ー ト	レポ ー ト	レポ ー ト
	期 末 考 査						期 末 考 査	期 末 考 査	問題集課題 授業ノート
3 学期	1	第 4 章 遺伝情報の発現と発生 1. DNA の構造と複製	* DNA について、2 本のヌクレオチド鎖の方向性をふまえた詳しい構造を理解する。DNA が正確に複製される詳しいしくみを理解する。	学 年 末 考 査	学 年 末 考 査	問題集課題 授業ノート			
	2	2. 遺伝情報の発現 3. 遺伝子の発現調節 4. 発生と遺伝子発現	* DNA の遺伝情報を写し取って、RNA が合成されるしくみを理解する。転写された RNA から、タンパク質が合成されるしくみを理解する。 * 遺伝子の発現が、環境の変化などに応じて変化することを理解する。原核生物と真核生物において、それぞれの遺伝子発現が調節されるしくみを理解する。 * 発生の過程で、遺伝子の発現調節によって細胞が分化するしくみを理解する。細胞の分化を引き起こす遺伝子の発現調節は、細胞内の物質のはたらきや、他の細胞からのはたらきかけによって起こることを理解する。						
	学 年 末 考 査								
	3	5. 遺伝子を扱う技術	* 遺伝子を扱うさまざまな技術が、私たちの生活に与える影響を理解する。						

担当者からのメッセージ(学習方法など)

日々の授業においては、その日の内容を理解できるよう、授業中および家庭で教科書を読もう。図説や問題集を利用しながら、復習をしましょう。考查前には、再度問題集を解き、授業中に行った問題演習の確認をしましょう。実験や実習においては、目的を理解し、取り組み、「考察」を大切にしたいレポートを作成し、必ず提出しましょう。

科目名	地学基礎		学年	類型・コース	単位数
			2 年	普通科文型 英語コース	2
学習の 目標	自然界における様々な事象の因果関係を正しく理解しつつ、地球と宇宙の全体像、およびその歴史を把握する。その結果、自然や、その人間との関わりについて幅広く考察する能力をつける。				
使用教材	教科書：数研出版「高等学校 地学基礎」 副教材：浜島書店「ニューステージ地学図表」、第一学習社「セミナー地学基礎」				
評価	評価法	各定期考査の成績、小テストの成績、実験・実習レポートなどを総合して評価する。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	知識の習得や知識の概念的な理解, 実験操作の基本的な技術の習得ができていますか。	
		b	思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしているか。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, C の 3 段階)及び評定(1～5の 5 段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1 学期	4	第1編 活動する地球 第1章 地球の構造 1. 地球の形と大きさ 2. 地球の構造	* 地球の形と大きさの測定のしかた、地球内部の層構造を理解する。 * 地球の形と大きさは、測定方法の歴史を踏まえて学ぶ。 * 地球内部は構成物質の違いから、地殻・マントル・核に分けられること、および変形のしやすさによる違いから、リソスフェア・アセノスフェアに分けられることを理解する。	中間考査	中間考査	授業態度 実習態度 (通年)
	5	第2章 プレートの運動 1. プレートテクトニクスと地殻変動 2. プレート運動のしかた	* 地球の表面は、十数枚のプレートでおおわれており、それぞれが別の方向に動いているため、その境界で様々な地殻変動が起こることを理解する。 * プレート境界では、断層や褶曲などの地質構造が形成されたり、変成作用が生じたりすること学ぶ。 * プレート運動の原動力について理解する。			問題集課題
	中間考査					
	6	第3章 地震 1. 地震 2. 地震の分布 3. 地震災害 第4章 火山 1. 火山活動	* 地震発生のしくみを、プレート運動と関連付けて学ぶ。 * 地震波の性質や、プレート境界と地震の分布の関係について理解する。 * 震源決定自習 * 日本付近で発生する地震について理解を深めるとともに、地震によってどのような災害が発生し、どのような対応が必要かを理解する。 * 火山噴火のしくみ、多様な噴火活動と火山地形、マグマが発生するしくみを学ぶ。 * 火山活動はプレート運動と関連があり、火山の分布はプレート境界に多いことを理解する。			レポート
	7	2. 火成岩 3. 火山がもたらす恵みと災害	* 火成岩の特徴や分類について学ぶ。 * 火成岩観察実習 * 日本における活火山を知り、火山災害への対応だけでなく、			レポート

2 学期			火山の恩恵についても理解する。	期末考查	期末考查	問題集課題
			期末考查			
	9	第2章 古生物の変遷と地球環境 1. 化石と地質時代の区分 2. 古生物の変遷	* 堆積作用・侵食作用で形成される陸上と海底の地形や、堆積岩の形成過程を学ぶ。 * 土砂災害の種類について学ぶ。 * 地層の重なり方や変形のしかた、堆積構造を観察によって、地層の本来の層序や堆積環境がわかることを理解する。 * 地球環境と古生物は互いに影響を及ぼしあって変遷し、現在の姿があることを理解する。 * 地球環境や古生物について調べる方法や地質時代の区分のしかたを理解し、時間の長さを感覚的にとらえる。 * 人類の進化について学ぶ。	中間考查	中間考查	レポート
	10	第3編 大気と海洋 第1章 地球の熱収支 1. 大気の構造 2. 地球全体の熱収支	* 地球の大気が、気温の変化から4つの層に分けられていることを理解する。特に、対流圏で様々な気象現象のほとんどが起きていることを学ぶ。 * 太陽放射エネルギーと地球のエネルギー収支について理解する。 * 地球の自然環境は、地球のエネルギー収支のつりあいの上に成り立っていることを学ぶ。			
			中間考查			
	11	第2章 大気と海水の運動 1. 大気の大循環 2. 海水の運動	* 大気や海水の大循環は、緯度方向の熱収支の不均衡を是正するためのものであることを理解する。 * 長い時間をかけてめぐる海洋の鉛直方向の循環を学ぶ。 * 海洋の層構造再現実習			レポート
	12	3. 日本の天気と気象災害 第4編 地球の環境 第1章 地球の環境と日本の自然環境 1. 気候の自然変動	* 日本の各季節の天気の特徴を理解し、気象災害について学び、防災に役立てる。 * 地球を構成する大気、海洋、固体地球、生物の間には絶えず相互作用があることを踏まえ、気候の自然変動や人間活動による環境変化を、全地球的な空間スケール、および長期的な時間スケールでとらえて理解し、考える力を身につける。			
			期末考查	期末考查	期末考查	問題集課題
3 学期	1	2. 人間活動による環境変化 3. 日本の自然環境 第5編 太陽系と宇宙 第1章 太陽系と太陽 1. 太陽系の天体	* 環境保全を図りながら、持続可能な開発をする必要があることも学ぶ。 * 日本は、特徴的な地形や気候によって、豊かな自然環境が育まれていることを理解する。一方で、多発する自然災害に対応する必要があることも学ぶ。 * 太陽系を構成する天体について理解を深める。 * スペクトル観察実習	学年末考查	学年末考查	レポート
	2	2. 太陽 3. 太陽系の誕生と現在の地球	* 惑星の特徴、太陽の表面のようすやエネルギー源、太陽の活動について学ぶ。 * 太陽および太陽系の形成過程を学び、地球に生命が誕生した要因を理解する。			
			学年末考查			
	3	第2章 宇宙の誕生 1. 宇宙の誕生	* 銀河系の構造を理解し、その中の太陽系の位置を学ぶ。 * ビッグバンで始まった宇宙の誕生と変遷を学ぶ。			問題集課題

担当者からのメッセージ(学習方法など)

地学は日々の中で共に生きる学問ですから、教科書を大切にすることもさることながら、日常の中で学びをアウトプットすることを欠かさないようにしましょう。考查前には問題集を解いて、知識を体系的に捉え直します。実験や実習においてはその目的を理解して取り組み、因果関係を丁寧に表現したレポートの作成を行います。

科目名	地学基礎		学年	類型・コース	単位数
			2 年	普通科理型	2
学習の 目標	自然界における様々な事象の因果関係を正しく理解しつつ、地球と宇宙の全体像、およびその歴史を把握する。その結果、自然や、その人間との関わりについて幅広く考察する能力をつける。				
使用教材	教科書：数研出版「高等学校 地学基礎」 副教材：浜島書店「ニューステージ地学図表」、第一学習社「セミナー地学基礎」				
評価	評価法	各定期考査の成績、小テストの成績、実験・実習レポートなどを総合して評価する。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	知識の習得や知識の概念的な理解, 実験操作の基本的な技術の習得ができているか。	
		b	思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしているか。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, C の 3 段階)及び評定(1～5の 5 段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法			
				a	b	c	
1 学期	4	第1編 活動する地球 第1章 地球の構造 1. 地球の形と大きさ 2. 地球の構造	- 地球の形と大きさの測定のしかた, 地球内部の層構造を理解する。 - 地球の形と大きさは, 測定方法の歴史を踏まえて学ぶ。 - 地球内部は構成物質の違いから, 地殻・マントル・核に分けられること, および変形のしやすさによる違いから, リソスフェア・アセノスフェアに分けられることを理解する。	中間 考查	中間 考查	授業態度 実習態度 (通年)	
	5	第2章 プレートの運動 1. プレートテクトニクスと地殻変動 2. プレート運動のしかた	- 地球の表面は, 十数枚のプレートでおおわれており, それぞれが別の方向に動いているため, その境界で様々な地殻変動が起こることを理解する。 - プレート境界では, 断層や褶曲などの地質構造が形成されたり, 変成作用が生じたりすること学ぶ。 - プレート運動の原動力について理解する。				問題集 課題
	中間 考查					レポート	
	6	第3章 地震 1. 地震 2. 地震の分布 3. 地震災害 第4章 火山 1. 火山活動	- 地震発生のしくみを, プレート運動と関連付けて学ぶ。 - 地震波の性質や, プレート境界と地震の分布の関係について理解する。 - 震源決定自習 - 日本付近で発生する地震について理解を深めるとともに, 地震によってどのような災害が発生し, どのような対応が必要かを理解する。 - 火山噴火のしくみ, 多様な噴火活動と火山地形, マグマが発生するしくみを学ぶ。 - 火山活動はプレート運動と関連があり, 火山の分布はプレート境界に多いことを理解する。				
	7	2. 火成岩 3. 火山がもたらす恵みと災害	- 火成岩の特徴や分類について学ぶ。 - 火成岩観察実習 - 日本における活火山を知り, 火山災害への対応だけでなく,				レポート

			火山の恩恵についても理解する。	期末考查	期末考查	問題集課題
			期末考查			
2 学期	9	第2章 古生物の変遷と地球環境 1. 化石と地質時代の区分 2. 古生物の変遷	* 堆積作用・侵食作用で形成される陸上と海底の地形や、堆積岩の形成過程を学ぶ。 * 土砂災害の種類について学ぶ。 * 地層の重なり方や変形のしかた、堆積構造を観察によって、地層の本来の層序や堆積環境がわかることを理解する。 * 地球環境と古生物は互いに影響を及ぼしあって変遷し、現在の姿があることを理解する。 * 地球環境や古生物について調べる方法や地質時代の区分のしかたを理解し、時間の長さを感じ覚的にとらえる。 * 人類の進化について学ぶ。	中間考查	中間考查	レポート
	10	第3編 大気と海洋 第1章 地球の熱収支 1. 大気の構造 2. 地球全体の熱収支	* 地球の大気が、気温の変化から4つの層に分けられていることを理解する。特に、対流圏で様々な気象現象のほとんどが起きていることを学ぶ。 * 太陽放射エネルギーと地球のエネルギー収支について理解する。 * 地球の自然環境は、地球のエネルギー収支のつりあいの上に成り立っていることを学ぶ。			
			中間考查			
	11	第2章 大気と海水の運動 1. 大気の大循環 2. 海水の運動	* 大気や海水の大循環は、緯度方向の熱収支の不均衡を是正するためのものであることを理解する。 * 長い時間をかけてめぐる海洋の鉛直方向の循環を学ぶ。 * 海洋の層構造再現実習			
	12	3. 日本の天気と気象災害 第4編 地球の環境 第1章 地球の環境と日本の自然環境 1. 気候の自然変動	* 日本の各季節の天気の特徴を理解し、気象災害について学び、防災に役立てる。 * 地球を構成する大気、海洋、固体地球、生物の間には絶えず相互作用があることを踏まえ、気候の自然変動や人間活動による環境変化を、全地球的な空間スケール、および長期的な時間スケールでとらえて理解し、考える力を身につける。			
			期末考查	期末考查	期末考查	問題集課題
3 学期	1	2. 人間活動による環境変化 3. 日本の自然環境 第5編 太陽系と宇宙 第1章 太陽系と太陽 1. 太陽系の天体	* 環境保全を図りながら、持続可能な開発をする必要があることも学ぶ。 * 日本は、特徴的な地形や気候によって、豊かな自然環境が育まれていることを理解する。一方で、多発する自然災害に対応する必要があることも学ぶ。 * 太陽系を構成する天体について理解を深める。 * スペクトル観察実習	学年末考查	学年末考查	レポート
	2	2. 太陽 3. 太陽系の誕生と現在の地球	* 惑星の特徴、太陽の表面のようすやエネルギー源、太陽の活動について学ぶ。 * 太陽および太陽系の形成過程を学び、地球に生命が誕生した要因を理解する。			
			学年末考查			
	3	第2章 宇宙の誕生 1. 宇宙の誕生	* 銀河系の構造を理解し、その中の太陽系の位置を学ぶ。 * ビッグバンで始まった宇宙の誕生と変遷を学ぶ。			

担当者からのメッセージ(学習方法など)

地学は日々の中で共に生きる学問ですから、教科書を大切にすることもさることながら、日常の中で学びをアウトプットすることを欠かさないようにしましょう。考查前には問題集を解いて、知識を体系的に捉え直します。実験や実習においてはその目的を理解して取り組み、因果関係を丁寧に表現したレポートの作成を行います。

科目名	体育	学年	類型・コース	単位数
		2年	普通科、理数科	2
学習の目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と課題を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質や能力を育成する。			
使用教材	教科書:『新高等保健体育』(大修館書店) 副教材:『ステップアップ高校スポーツ 2024』(大修館書店)			
評価	評価法	各種目における技能、学習カード、及び観察(授業内での仲間との連携やその種目に対する主体性)で評価します。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解しているとともに、それらの技能を身に付けている。
		b	思考・判断・表現	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し、判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。
		c	主体的に学習に取り組む態度	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。			

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1学期	4	体づくり運動 (体ほぐしの運動)	* 軽快な運動を行い、心と体は互いに影響し、変化することや心身の状態に気付き、仲間と自主的に関わることができる。 * 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。	学習カード (知識) 行動観察 (運動)	行動観察 (仲間との連携)	行動観察
	5	選択競技① (器械運動(マット)・器械運動(跳び箱)・器械運動(鉄棒)・陸上競技(ハードル走))	【器械運動】 * 回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うことができる(マット運動)。 * 切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うことができる(跳び箱運動)。 * 支持系や懸垂系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うことができる(鉄棒運動)。 * 技などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。 * 器械運動に自主的に取り組むとともに、互いに良い演技を讃え、助け合い、教え合いをしようすることができる。 【陸上競技】 * スピードを維持した走りからハードルを低く越すこと	【器械運動・陸上競技】 学習カード(知識) その種目の演技・動き(技能)	【器械運動・陸上競技】 行動観察 (仲間との連携)	【器械運動・陸上競技】 行動観察

			ができる。(ハードル走)。 *動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。 *陸上競技に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようすることができる。			
		中間考査実施予定なし				
	6	選択競技①	上記選択競技①同様。	上記選択競技①同様		
	7	体育理論① 「運動やスポーツの技能と体力およびスポーツによる障害」	*運動やスポーツの技能と体力は、相互に関連していること。また、期待する成果に応じた技能や体力の高め方があること。さらに、過度な負荷や長期的な酷使は、けがや疾病の原因となる可能性があることについて自己の考えを深めることができる。*	ワークシート	行動観察 ワークシート	行動観察
		期末考査実施予定なし				
2 学期	9	体づくり運動 (実生活に生かす運動の計画)	*健康に生活するための体力、及び運動を行うための体力向上を図る運動の計画と実践ができる。 *自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。			
	10	選 択 競 技 ② (ソフトボール(ベースボール型)・ハンドボール(ゴール型)・ソフトテニス(ネット型))	【ソフトボール】 *各種目の技術や戦術には名称があり、それらをゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることが理解できる。 *相手側のコートの空いているところや狙ったところにボールを打つことができる。 *選択した運動について合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えることができる。 *選択した運動に自主的に取り組むとともに、作戦などについての話し合いに貢献しようしたり、互いに助け合い、教え合ったりできる。 【ハンドボール】 *各種目の技術や戦術には名称があり、それらをゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることが理解できる。 *安定したボール操作と空間を作り出すなどの連携した動きによってゴール前への侵入などから攻防を展開できる *選択した運動について合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えることができる。 *選択した運動に自主的に取り組むとともに、作戦などについての話し合いに貢献しようしたり、互いに助け合い、教え合ったりできる。 【ソフトテニス】 *各種目の技術や戦術には名称があり、それらをゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることが理解できる。 *相手側のコートの空いた場所をめぐる攻防をすることができる。 *選択した運動について合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えることができる。 *選択した運動に自主的に取り組むとともに、作戦などについての話し合いに貢献しようしたり、互いに	【ソフトボール・ハンドボール・ソフトテニス】 学習カード(知識) ボールコントロール(技能)	【ソフトボール・ハンドボール・ソフトテニス】 行動観察(仲間との連携)	【ソフトボール・ハンドボール・ソフトテニス】 行動観察

			助け合い、教え合ったりできる。			
	中間考査実施予定なし					
	11	選 択 競 技 ③ (サッカー(ゴール型)・バスケットボール(ゴール型)・バドミントン(ネット型))	【サッカー・バスケットボール】 *各種目の技術や戦術には名称があり、それらをゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることが理解できる。 *安定したボール操作と空間を作り出すなどの連携した動きによってゴール前への侵入などから攻防を展開できる *選択した運動について合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えることができる。 *選択した運動に自主的に取り組むとともに、作戦などについての話し合いに貢献しようとしたり、互いに助け合い、教え合ったりできる。 【バドミントン】 *各種目の技術や戦術には名称があり、それらをゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることが理解できる。 *相手側のコートの空いているところや狙ったところにボールを打つことができる。 *選択した運動について合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えることができる。 *選択した運動に自主的に取り組むとともに、作戦などについての話し合いに貢献しようとしたり、互いに助け合い、教え合ったりできる。	【 サ ッ カ ー ・ バ ス ケ ッ ト ボ ー ル ・ バ ド ミ ン ト ン 】 学 習 カ ー ド (知 識) 仲間との連携 プ レ イ (技能)	【サッカー・バスケットボール・バドミントン】 行動観察 (仲間との連携)	【サッカー・バスケットボール・バドミントン】 行動観察
	12					
	期末考査実施予定なし					
3 学期	1	体育理論② 「スポーツの技術と技能及びその変化」	*運動やスポーツの技術は、学習を通して技能として発揮されるようになること。また、技術の種類に応じた学習の仕方があること。現代のスポーツの技術や戦術、ルールは、用具の改良やメディアの発達に伴い変わり続けていることについて、自己の考えを深めることができる。	ワークシート	行動観察 ワークシート	行動観察
	2	選 択 競 技 ④ (バドミントン(ネット型)・バレーボール(ネット型)・卓球(ネット型))	【バドミントン】 上記選択競技③同様。 【バレーボール】 *各種目の技術や戦術には名称があり、それらをゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることが理解できる。 *ポジションの役割に応じたボール操作によって、仲間と連携した「拾う・つなぐ・打つ」などの一連の流れで攻撃を組み立てたりして、相手側のコートの空いた場所をめぐる攻防をすることができる。 *選択した運動について合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えることができる。 *選択した運動に自主的に取り組むとともに、作戦などについての話し合いに貢献しようとしたり、互いに助け合い、教え合ったりできる。 【卓球】 *各種目の技術や戦術には名称があり、それらをゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることが理解できる。 *相手側のコートの空いているところや狙ったところにボールを打つことができる。 *選択した運動について合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理	【バドミントン】 上 記 選 択 競 技 ③ 同 様 【バレーボール】 学 習 カ ー ド (知 識) 仲間との連携 プ レ イ (技能) 【卓球】 学 習 カ ー ド (知 識)	【バドミントン・バレーボール・卓球】 行動観察 (仲間との連携)	【バドミントン・バレーボール・卓球】 行動観察

			由を仲間に伝えることができる。 ＊選択した運動に自主的に取り組むとともに、作戦などについての話し合いに貢献しようとしたり、互いに助け合い、教え合ったりできる。			
		学年末考查実施予定なし				
	3	選択競技④	上記選択競技④同様。	上記選択競技④同様		
		体育理論③ 「運動やスポーツの技能の上達過程」 「運動やスポーツの活動時の健康・安全の確保の仕方」	＊運動やスポーツの技能の上達過程にはいくつかの段階があり、その学習の段階に応じた練習方法や運動観察の方法、課題の設定方法などがあること。また、これらの獲得には、一定の期間がかかることについて、自己の考えを深めることができる。 ＊運動やスポーツを行う際は、様々な危険を予見し、回避することについて、自己の考えを深めることができる。	ワークシート	行動観察 ワークシート	行動観察

担当者からのメッセージ(学習方法など)

選択競技においては、副教材を用いて各種目における知識(技術の名称等)を説明しながら、各種目の技能レベルの向上を目指し、仲間と協力して取り組むことができるよう指導します。

体育理論においては、教科書やプリントを用いて授業を進め、個人がスポーツ文化を創造する主体となっていることに気付くことができるよう指導します。

科目名	保健	学年	類型・コース	単位数
		2年	普通科、理数科	1
学習の目標	保健の見方、考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育成する。			
使用教材	教科書:『新高等保健体育』(大修館書店) 副教材:『図説 新高等保健』(大修館書店)			
評価	評価法	定期考査、小テスト(単元ごと)、授業ファイル、ワークシートで評価します。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに技能を身につけている。
		b	思考・判断・表現	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。
		c	主体的に学習に取り組む態度	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。			

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1学期	4	応急手当	「応急手当の意義と救急医療体制」「心肺蘇生法」 「日常的な応急手当」 *適切な応急手当は傷害や疾病の悪化を軽減することを理解したり、心肺蘇生法などの応急手当の正しい手順や方法を身につけたりできる。 *応急手当について習得した知識や技能を、事故や災害で生じる傷害や疾病に関連付けて、悪化防止のための適切な方法に应用することができる	期末考査	期末考査	授業 ファイル
	5	生涯の各段階における健康 「思春期と健康」 「性意識の変化と性行動の選択」 「結婚生活と健康」 「妊娠・出産と健康」 「家族計画」 「加齢と健康」 「高齢者に対応した取り組み」	*思春期における心身の発達や性的成熟についてや、思春期に起こりやすい健康課題について理解することができる。 *自分の行動への責任感や異性の理解と尊重の必要性や、性行動の選択には性情報への適切な対処が必要であることを理解することができる。 *結婚生活と健康との関係についてや、結婚生活における夫婦関係、親子関係による健康への影響について理解することができる。 *受精、妊娠、出産の過程と、それに伴う健康課題についてや、妊娠・出産期に活用できる母子保健サービスについて理解することができる。 *家族計画の意義についてや、人工妊娠中絶が心身へ与える影響について理解することができる。 *加齢による心身の変化や、高齢期の健康課題についてや、若年期の生活習慣が中高年期の健康に影響することを理解することができる。 *高齢社会における健康課題についてや、高齢者の暮らしや健康を支えるために必要な社会の取り組みについて理解することができる。		ワークシート	

	中間考査実施予定なし					
	6	「働くことと健康」	*働くことの意義と働き方の多様化についてや、働く人における健康問題について理解することができる。			
	7	「労働災害の防止」 「働く人の健康づくり」	*労働環境の変化に伴い、労働災害の要因も変化していることや、労働災害を防止するための様々な取り組みについて理解することができる。 *職場での心身両面にわたる積極的な健康づくり活動についてや、働く人の健康には余暇の活用など生活の質の向上も重要であることを理解することができる。			
2 学期	期末考査					
	9	健康を支える環境づくり 「環境と健康」 「水質汚濁・土壌汚染と健康」 「健康被害を防ぐための環境対策」	*大気汚染による健康への影響についてや、地球規模で起きている大気環境の問題について理解することができる。 *水質汚濁による健康への影響についてや、土壌汚染による健康への影響について理解することができる。 *環境汚染による健康への影響を防ぐために行われている対策についてや、産業廃棄物の処理や新たな環境汚染の課題について理解することができる。	期末考査	期末考査 ワークシート	授業 ファイル
	10	「環境衛生に関わる活動」	*安全な水の確保のために必要な上下水道の整備の現状と課題についてや、生活環境を保全するためのごみ処理の現状と、今後の課題について理解することができる。			
	中間考査実施予定なし					
	11	「食品の安全性と健康」 「食品の安全性を確保する取り組み」	*食品の安全性が損なわれると健康被害が生じる可能性があることや、人々の健康を支えるためには食品の安全性の確保が重要であることを理解することができる。 *食品の安全性を確保するための行政や生産・製造者の役割についてや、食品による健康被害を防ぐために私たち消費者が果たす役割について理解することができる。	期末考査	期末考査 ワークシート	授業 ファイル
	12	「保険制度とその活用」 「医療制度とその活用」 「医薬品の精度とその活用」	*保健行政の役割についてや、健康の保持・増進には保健サービスの適切な活用が必要であることを理解することができる。 *医療保険の仕組みについてや、医療サービスの適切な活用方法について理解することができる。 *医薬品には承認制度や販売に関する規制が設けられていることについてや、医薬品は、使用法に関する注意を守り、正しく使う必要があることを理解することができる。			
3 学期	期末考査					
	1	「様々な保健活動や社会的対策」	*日本や世界では健康課題に対応した保健活動や対策が行われていることや、国際機関や民間機関などにより行われている様々な保健活動や対策について理解することができる。	期末考査	期末考査 ワークシート	授業 ファイル
	2					
	学年末考査					
	3	「誰もが健康に過ごせる社会に向けた環境づくり」	*自他の健康の保持・増進には健康を支える環境づくりが重要であることや、健康を支える環境づくりへの積極的な参加が自他の健康につながることを理解することができる。			

担当者からのメッセージ(学習方法など)

上記教材の他にプリントを使用しながら授業を進め、各単元において自己や社会の課題を発見し、その解決を図る主体的・協働的な学習過程を通して、生涯を通じて心身の健康を保持増進するための資質・能力を育成することを目指します。

科目名	英語コミュニケーションⅡ		学年	類型・コース	単位数
			2年	普通科・理数科	4
学習の目標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、以下の5つの領域において言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。 具体的な活動・領域は以下の通り。 (1) 聞くこと 日常的・社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図、概要や要点、詳細を目的に応じて把握することができるようにする。 (2) 読むこと 日常的・社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図、概要や要点、詳細を目的に応じて把握することができるようにする。 (3) 話すこと[やり取り] 日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。 (4) 話すこと[発表] 日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝えることができるようにする。 (5) 書くこと 日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、聞いたり読んだりしたことを基に、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。				
使用教材	ELEMENT English CommunicationⅡ, ワークブック, サブノート、必携英単語 LEAP				
評価	評価法	a. 活動観察 / b. パフォーマンステスト / c. 課題の提出 / d. ペーパーテスト			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	[聞くこと] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について話された文等を聞いて、その内容を捉える技能を身に付けている。 [読むこと] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について書かれた文等を読んで、その内容を捉える技能を身に付けている。 [話すこと【やり取り】]	

			英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 コミュニケーションを行う目的や場面, 状況などに応じて, 日常的な話題や社会的な話題について, 情報や考え, 気持ちなどを, 論理性に注意して伝え合う技能を身に付けている。 [話すこと【発表】] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 コミュニケーションを行う目的や場面, 状況などに応じて, 日常的な話題や社会的な話題などについて, 情報や考え, 気持ちなどを, 論理性に注意して話して伝える技能を身に付けている。 [書くこと] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 コミュニケーションを行う目的や場面, 状況などに応じて, 日常的な話題や社会的な話題などについて, 情報や考え, 気持ちなどを, 論理性に注意して書いて伝える技能を身に付けている。
	b	思考・判断・表現	[聞くこと] コミュニケーションを行う目的や場面, 状況などに応じて, 日常的な話題や社会的な話題について, 必要な情報を聞き取り, 話し手の意図や概要, 要点を捉えている。 [読むこと] コミュニケーションを行う目的や場面, 状況などに応じて, 日常的な話題や社会的な話題について, 必要な情報を読み取り, 書き手の意図や概要, 要点を捉えている。 [話すこと【やり取り】] コミュニケーションを行う目的や場面, 状況などに応じて, 日常的な話題や社会的な話題について, 情報や考え, 気持ちなどを, 話して伝え合うやり取りを続けたり, 論理性に注意して話して伝え合ったりしている。 [話すこと【発表】] コミュニケーションを行う目的や場面, 状況などに応じて, 日常的な話題や社会的な話題について, 情報や考え, 気持ちなどを, 論理性に注意して話して伝えている。 [書くこと] コミュニケーションを行う目的や場面, 状況などに応じて, 日常的な話題や社会的な話題などについて, 情報や考え, 気持ちなどを, 論理性に注意して書いて伝えている。
	c	主体的に学習に取り組む態度	[聞くこと] 外国語の背景にある文化に対する理解を深め, 話し手に配慮しながら, 主体的, 自律的に英語で話されることを聞こうとしている。 [読むこと] 外国語の背景にある文化に対する理解を深め, 書き手に配慮しながら, 主体的, 自律的に英語で書かれたことを読もうとしている。 [話すこと【やり取り】] 外国語の背景にある文化に対する理解を深め, 聞き手, 話し手に配慮しながら, 主体的, 自律的に英語を用いて伝え合おうとしている。

			【話すこと【発表】】 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて話そうとしている。 【書くこと】 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、読み手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて書こうとしている。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。			

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1 学期	4	Lesson 1 Cultures around the World	〈聞くこと〉 - 異なる文化を持つ人同士の会話を聞いて、概要や詳細を聞き取る。 〈読むこと〉 - The Culture Mapを読んで概要や詳細を理解し、情報を事実と意見に整理する。 - 形式目的語のit, 対応する能動態を持たない受動態を用いた文の構造を理解する。 〈話すこと【発表】〉 - 文化の違いについての説明文を読み、その内容についてリテリングを行う。 〈話すこと【やり取り】〉 - 日本の習慣について質問したり、答えたりする。 〈書くこと〉 - 日本への海外留学生との異文化交流について書く。	活動観察・パフォーマンス・ステスト・課題の提出・ペーパーテスト	活動観察・パフォーマンス・ステスト・課題の提出・ペーパーテスト	活動観察・パフォーマンス・ステスト・課題の提出・ペーパーテスト
	5	Lesson 2 Power of Words	〈聞くこと〉 - 将来なりたい職業などについての会話を聞いて、概要や詳細を聞き取る。 〈読むこと〉 - Stay Hungry, Stay Foolishを読んで概要や詳細を理解し、行間を読む。 - 複合関係代名詞, be動詞+to不定詞を用いた文の構造を理解する。 〈話すこと【発表】〉 - 生き方についてのスピーチを読み、その内容についてリテリングを行う。 〈話すこと【やり取り】〉 - 困っている友人を、英語のことわざなどを使って励ます。 〈書くこと〉 - スピーチを読んで、これまでに心に残ったことば・励みになったことばについて書く。			
			中間考査			
	6	Lesson 3 Preconception	〈聞くこと〉 - 思い込みについての会話を聞いて、概要や詳細を聞き取る。 〈読むこと〉 - How Did Pink Become a “Girl’s Color” in			

			America?を読んで概要や詳細を理解し、情報を事実と意見に整理する。 ・付帯状況のwith, the+比較級~, the+比較級…を用いた文の構造を理解する。 〈話すこと[発表]〉 ・ジェンダーについての説明文を読み、その内容についてリテリングを行う。 〈話すこと[やり取り]〉 ・ジェンダーに対する先入観について話し合う。 〈書くこと〉 ・文化祭に関するルールについて書く。			
	7	Further Reading 1 The True Story of the Bear behind Winnie-the-Pooh	〈読むこと〉 ・子グマと軍人のふれあいを描いた物語を読み、概要や詳細を理解する。			
	期末考査					
2 学期	9	Lesson 4 The Century of War	〈聞くこと〉 ・戦時中の曾祖父についての会話を聞いて、概要や詳細を聞き取る。 〈読むこと〉 ・Life in a Jarを読んで概要や詳細を理解し、行間を読む。 ・さまざまな分詞構文、完了形の分詞構文を用いた文の構造を理解する。 〈話すこと[発表]〉 ・戦争中の出来事についての物語文を読み、その内容についてリテリングを行う。 ・世界の紛争と子どもたちについて発表する。 〈話すこと[やり取り]〉 ・世界の紛争について、グラフや図表を読み取りながら質問したり、答えたりする。 〈書くこと〉 ・物語文を読んで、それをもとに演劇の台本を書く。	活動観察・パフォーマンステスト・課題の提出・ペーパーテスト	活動観察・パフォーマンステスト・課題の提出・ペーパーテスト	活動観察・パフォーマンステスト・課題の提出・ペーパーテスト
	10	Lesson 5 How Our Minds Work	〈聞くこと〉 ・私たちの心理がどのように働くのかについての会話を聞いて、概要や詳細を聞き取る。 〈読むこと〉 ・Predictably Irrationalを読んで概要や詳細を理解し、情報を事実と意見に整理する。 ・itを用いた強調構文、助動詞+have+過去分詞を用いた文の構造を理解する。 〈話すこと[発表]〉 ・人間の心理と行動についての説明文を読み、その内容についてリテリングを行う。 ・心理学的事象について、例を示しながら説明する。 〈話すこと[やり取り]〉 ・経験のある心理学的事象について伝え合う。 〈書くこと〉 ・説明文を読んで、それをもとに自分の考えを書く。			
	中間考査					

	11	Lesson 6 IT and Life	〈聞くこと〉 ・バス停や空港での会話やアナウンスを聞いて、必要な情報や概要を聞き取る。 〈読むこと〉 ・A Long Way Homeを読んで概要や詳細を理解し、行間を読む。 ・倒置、関係副詞の非限定用法を用いた文の構造を理解する。 〈話すこと[発表]〉 ・ITの発展が1人の青年の人生にもたらした影響についての物語文を読み、その内容についてリテリングを行う。 〈話すこと[やり取り]〉 ・将来就きたい職業について伝え合う。 〈書くこと〉 ・オンライン授業の是非について、自分の考えを書く。			
	12	Lesson 7 Advances in Medical Technology	〈聞くこと〉 ・体調不良の際の、病院や医師との会話を聞いて、必要な情報を聞き取る。 〈読むこと〉 ・Putting iPS Cells into Practiceを読んで概要や詳細を理解し、情報を事実と意見に整理する。 ・that節をとる名詞、未来進行形を用いた文の構造を理解する。 〈話すこと[発表]〉 ・医療技術の進歩と発展についての説明文を読み、その内容についてリテリングを行う。 〈話すこと[やり取り]〉 ・病気の症状やその対処法について話し合う。 〈書くこと〉 ・満たされた人生のためにすべきこと、必要なことについて、自分の考えを書く。			
			期末考査			
3 学期	1	Lesson 8 A Tiny Step, a Big Impact	〈聞くこと〉 ・オンライン上での友人との会話を聞いて、出来事の順番を理解する。 〈読むこと〉 ・How We Got to Now with Glassを読んで概要や詳細を理解し、情報を事実と意見に整理する。 ・whatを用いた強調、複合関係副詞を用いた文の構造を理解する。 〈話すこと[発表]〉 ・技術革新のつながりについての説明文を読み、その内容についてリテリングを行う。 〈話すこと[やり取り]〉 ・携帯電話の機能や問題点について説明したり、答えたりする。 〈書くこと〉 ・自分を変えた経験について書く。	活動観察・ パフォーマンス・ ステスト・ 課題の提出・ ペーパーテスト	活動観察・ パフォーマンス・ ステスト・ 課題の提出・ ペーパーテスト	活動観察・ パフォーマンス・ ステスト・ 課題の提出・ ペーパーテスト
	2	Further Reading 3 Moufflon— The Dog of Florence	〈読むこと〉 ・少年と犬の絆と家族の愛情についての物語文を読み、概要や詳細を理解する。			

学年末考査						
	3	Communication in Practice 3	〈聞くこと〉 ・宇宙センターの説明を聞き, 必要な情報を理解する。 〈読むこと〉 ・ワークショップの説明文を読み, 状況を理解する。 〈話すこと[発表]〉 ・宇宙でのサバイバルに必要な道具について, 優先順位を発表する。 〈話すこと[やり取り]〉 ・ワークショップで, 宇宙でのサバイバルに必要な道具の優先順位についてチームで話し合う。			

担当者からのメッセージ(学習方法など)
英語学習をスムーズに進めるために・・・ ① テーマや題材に関心を持つ。 ② 語いや表現を増やすために、INPUT→INTAKE→OUTPUT のサイクルを意識する。 ③ 同じことを繰り返し練習して、英語の技能をブラッシュアップする。 ④ できるだけ毎日少しずつ読んだり、聞いたり、書いたり、話したりする。 ⑤ 英文が複雑なときは、しっかり「構造分析」する。 ⑥ 自分が「わかる」と「わからない」ことを明確に分別して、「わからない」ことを解消していく。 ⑦ 調べる手間を省かない。特に辞書をしっかり活用する。

科目名	論理・表現Ⅱ		学年	類型・コース	単位数
			2 年	普通科・理数科	2
学習の 目標	「論理・表現Ⅰ」の学習内容を踏まえ、「話すこと(やり取り)」「話すこと(発表)」「書くこと」を中心とした統合的な言語活動を通して、発信能力を強化するための発展的な活動に行うとともに、論理の構成や展開を工夫して詳しく伝えたり、伝え合ったりすることができる能力を養う。				
使用教材	教科書:『Vision Quest English Logic and Expression Ⅱ Hope』(啓林館) 副教材: 『Vision Quest English Logic and Expression Ⅱ Hope WORKBOOK』(啓林館) 『Vision Quest New English Grammar』(啓林館) 『Vision Quest New English Grammar WORKBOOK』(啓林館) 『Vision Quest 総合英語 Ultimate 2 nd Edition(啓林館)』				
評価	評価法	定期考査、小テスト、パフォーマンス課題、提出物			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項及びその働きや役割を理解している。 [技能] 目的や場面、状況に応じて、自分の意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して、詳しく話したり書いたりして伝え合うことができる技能を身に付けている。	
		b	思考・判断・表現	目的や場面、状況に応じて、自分の意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して、詳しく話したり書いたりして伝え合っている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手・読み手など他者に配慮しながら、主体的・自律的に表現しようとしている。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, C の 3 段階)及び評定(1～5の 5 段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1 学期	4	Lesson 1	将来の目標: 子供の理想の仕事について書かれた文章を読んで、適切な主語の使い方を理解する。	小テスト 定期考査	小テスト パフォーマンス課題 定期考査	パフォーマンス課題 課題への取り組み
	5	Lesson 2 Activity 1	学校生活: 学校で新しい友達を作る方法について書かれた文書を読んで、適切な動詞の使い分けについて理解する。 インタビュー[話すこと(やり取り)]: 設定された目的・場面・状況と、会話に必要な語句や表現を理解し、即興のインタビューで質問したり、答えたりする。			
			中間考査			
	6	Build Up 1	名詞と冠詞: 数えられる名詞と数えられない名詞の違いを理解し、単数と複数を用いて適切に表現する。また、冠詞を適切に使用し、正しい英文で表現する。表現を学ぶ会話を組み立てる			
	7	Lesson 3 Lesson 4	スポーツ: スポーツの歴史について書かれた文章を読んで、時を表す表現の概念を理解する。 情報化時代: ソーシャルメディアの使用で気を付けるべき点について書かれた文章を読んで、様々な助動詞の概念と文の構造を理解する。			

		Assistant 2	交渉[話すこと(やり取り)]:設定された異なる立場の意見や主張を理解し、会話に必要な語句や表現を用いて、お互いに交渉しながら会話を進める。			
		期末考査				
2 学期	9	Build Up 2 Lesson 5 Lesson 6	主語と動詞の呼応・時制の一致:様々な主語が単数と複数のどちらを導くかを判断し、表現する。時制の一致を行うかどうか適切に判断し表現する。不定詞 / 友人同士の自然な会話は会話のやり取りから、感情を表す様々な表現を学ぶ 環境問題:エネルギーの使い過ぎについて書かれた文章を読んで、名詞を修飾して情報を追加する様々な文の構造を理解する。 文化:異文化理解の重要性について書かれた文章を読んで、関係詞によって情報が追加された文の構造を理解する。	小テスト 定期考査	小テスト パフォー マンス課 題 定期考査	パフォー マンス課 題 課題への 取り組み
	10	Activity 3 Build Up 3 Lesson 7	事実と意見 [話すこと(発表)]:地理の授業で地球規模問題について発表するために、事実と意見の違いを理解して正確に説明し、話して伝える。 英語の情報構造:英語特有の情報の流れを学び、自然な英文を意識して表現する。 言語教育:第二か国語や外国語としての英語について書かれた文章を読んで、語句や文を修飾して情報を追加する様々な文の構造を理解する。			
	中間考査					
	11	Lesson 8 Activity 4 Build Up 4	社会:日本の社会の問題点について書かれた文章を読んで、直接話法と間接話法を用いて表した文の構造を理解する。 妥協 [話すこと(やり取り)]:設定された異なる労働条件に対する意見や主張を理解し、会話に必要な語句や表現を用いて、それぞれの条件や特徴を伝え説得したり、妥協したりして話して伝え合う。 前置詞:前置詞の使い方を学び、間違えやすい前置詞を意識して、適切に使用する。			
	12	Lesson 9 Lesson 10 Activity 5	願望:もし億万長者になったら、何をするかについて書かれた文章を読んで、仮定の概念と文の構造を理解する。 科学技術:AIと共存する方法について書かれた文章を読んで、数量を表す表現の概念と文の構造を理解する リサーチ:歴史の授業で、技術の進歩について発表するために、自分の意見や主張の適切な根拠や具体例を調べる。			
	期末考査					
3 学期	1	Build Up 5 Lesson 11	ポライトネス:英語の語句や文法の形式で表した丁寧な表現を学び、相手や立場に応じて表現する。 健康:健康とストレスについて書かれた文章を読んで、比較を表す表現を用いた文の構造を理解する。 ビジネス:商品の販売について書かれた文章を読んで、否定を表す表現を用いた文の構造を理解する。 企画:食品会社の社員であるという設定をもとに、スーパーで販売する新しい健康食品を検討し、様々な観点から集めた情報をまとめ、クラスに提案を話して伝える。	小テスト 定期考査	小テスト パフォー マンス課 題 定期考査	パフォー マンス課 題 課題への 取り組み
	2	Lesson 12 Activity 6				
	学年末考査					
	3	Build up 6	コミュニケーションのためのストラテジー:会話をスムーズに進行するための技能や表現を学び、話し手との情報のやり取りを円滑に進める。			

担当者からのメッセージ(学習方法など)

論理・表現Ⅱでは、1 年生次で身につけた文法事項を復習・強化しながら、英語の 4 技能 5 領域のうち、主に話すこと、書くことを中心に発展させます。身につけた知識を実際の会話や作文に活用し、自分の考えを正確に相手に伝え、理解してもらえるような発信力を身に付けてほしいと思っています。誰から見ても分かりやすい意見を表現できるように頑張りましょう。反復練習は必須です、また Ultimate を常に携帯し、教員の指示がなくても適宜参照できるようにしておきましょう。

科目名	実践コミュニケーションⅡ		学年	類型・コース	単位数
			2 年	普通科英語コース	1
学習の目標	地域社会、外国の諸問題、芸術・文化、価値観など幅広い話題について情報を収集・整理し、英語を用いたより高度なコミュニケーション能力および意欲・態度を身に付ける。ディベート、ディスカッション、スピーチ、プレゼンテーションの技術を身につける。				
使用教材	自主教材				
評価	評価法	スピーキングテスト(2 回) ・ 定期考査(3 回)			
		授業での活動状況、発表内容・課題の提出 夏季休業中に(8 月末)に校内スピーチコンテストを行う。 3月中旬にプレゼンテーション大会を行う。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深め、知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	
		b	思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている	
		c	主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, C の 3 段階)及び評定(1～5の 5 段階)にまとめます。					

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1 学期	4	英語ディベート スピーチ作成	ディベートにおけるサマリーの仕方 スピーチ案作成	英作文 課題	英作文 課題	英作文 課題
	5	英語ディベート スピーチ作成	論題に対するディベート Paragraph Writing	スピーキング テスト	スピー キング テスト	
	中間考査					
	6	英語ディベート スピーチ作成	立論の作成と、チームディベート Summary speech の方法の習得	期 末 考 査	期 末 考 査	
	7	英語ディベート スピーチ作成	クラス内ディベートトーナメント ・スピーチ原稿の校正 ・スピーチデリバリー			
	期末考査					
2 学期	9	英語ディベート Discussion	トピックについて理解する。 個々に必要な情報を収集する。	パフォー マンス	パ フ ォ ー マ ン ス	パ フ ォ ー マ ン ス
	10	英語ディベート Discussion	メリット・デメリットまとめ、情報交換する。			
	中間考査			英作文	英作文	英作文

	11	英語ディベート Presentation	反駁やディフェンスを考え、ディベートをする。 見本となるプレゼンテーションを鑑賞し、 presentation skills を学ぶ	スピーキングテスト	スピーキングテスト	
	12	Discussion & Presentation	世界規模の問題について学び、話し合う。 presentation 鑑賞&presentation skills	期末考査	期末考査	
	期末考査					
3 学期	1	Discussion & Presentation	テーマについて、必要な情報を収集する。	パフォーマンス	パフォーマンス	パフォーマンス
	2	Discussion & Presentation	学んだ情報を他人にわかりやすくまとめ、英語で発表する練習をする。	英作文	英作文	英作文
	学年末考査					
	3	Discussion & Presentation	プレゼンテーション大会リハーサル② プレゼンテーション大会	学年末考査	学年末考査	

担当者からのメッセージ(学習方法など)

1年生の時よりも難しい取り組みになってきます。普段から関心を持ち、情報や語彙を自ら取り入れ、議論するのに十分な調査ができるようになると、論理的な立論を作成する力に繋がっていきます。

スピーチコンテストでは、全英語科教員が指導に当たってくださいます。早め早めの行動を心がけ、失礼のないよう、本番に向け準備を進めてください。

プレゼンテーション大会では社会的な問題について調べたことをまとめ、わかりやすく発表する能力が問われます。自分主体の一方通行のコミュニケーションではなく、全体のよりよいパフォーマンスを求めて他人の発表した内容に関して質問したり意見を述べたりする姿勢も大切になってきます。

いろいろなことに取り組むため忙しい 1 年にはなりますが、その忙しさの中で、1 年生で培った英語力がぐっと伸びる時期です。一緒に頑張っていきましょう。

科目名	情報Ⅰ	学年	類型・コース	単位数
		2 年	普通科・理数科	2
学習の目標	(1)情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題を発見・解決する力を習得する。 (2)問題の発見・解決に向けて、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を習得する。 (3)情報社会の発展に主体的に寄与する能力と態度を身につける。			
使用教材	教科書:『高等学校 情報Ⅰ』(数研出版) 副教材:『高等学校 情報Ⅰ サポートノート』(数研出版) 『パーフェクトガイド情報(Office2019 対応)』(実教出版) 大学入試共通テスト対策 情報Ⅰ 徹底演習(数研出版)			
評価	評価法	定期考査、学習ノート、実習課題(ワード、エクセル、パワーポイント、プレゼンテーショングループ発表等)で評価します。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な知識を身に付け、社会における情報及び情報技術の意義や役割を理解している。
		b	思考・判断・表現	情報や情報社会における身のまわりの問題を解決するために、情報に関する科学的な見方や考え方を活かすとともに情報モラルを踏まえて、思考を深め、適切に判断し表現している。
		c	主体的に学習に取り組む態度	情報や情報社会に関心をもち、身のまわりの問題を解決するために、自ら進んで情報及び情報技術を活用し、社会の情報化の進展に主体的に対応しようとする。
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。			

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1 学期	4	第1編 社会の問題解決 第1章 情報とメディア 実習	＊情報の重要性について理解する。 ＊様々なメディアの特徴や、情報の適切な表現形式について理解する。 ＊文書処理(Word)	実習課題	サポートノート 実習課題	実習課題 サポートノート
	5	第2章 情報社会における法とセキュリティ 実習	＊セキュリティ侵害とその対応について理解する。 ＊SNS を使うことの利点と、使うことによって生じる問題点を知る。 ＊情報モラルについて理解する。 ＊知的財産権と著作権, 不正アクセス禁止法, 個人情報やプライバシーの権利について知る。 ＊文書処理(Word)			
		中間考査		期末考査 実習課題	期末考査 サポートノート 実習課題	実習課題 サポートノート
	6	第3章 情報技術が社会に及ぼす影響 第2編 コミュニケーションと情報デザイン 第1章 情報のデジタル表現 実習	＊情報や情報技術の適切かつ効果的な活用と望ましい情報社会の構築について考える。 ＊情報のデジタル化の基礎的な知識として、アナログとデジタルのちがいとデジタル情報の特徴を理解する。 ＊情報のデジタル化の基礎的な知識と技術として、ビットの概念, 2 進法による表現, 文字, 音, 画像, 動画のデジタル化の原理と表現方法を理解する。 ＊デジタル情報のデータ圧縮の原理と具体例について			

			て理解する。 *プレゼンテーション(PowerPoint)			
	7	実習	*プレゼンテーション(PowerPoint)			
	期末考査					
2 学期	9	第2章 コミュニケーション手段の発展と特徴 第3章 情報デザイン 第4章 プレゼンテーション 実習	*古代からの技術的な進歩やコンピュータを使った通信の歴史を概観し、コミュニケーション手段の発展について理解する。 *情報デザインが人や社会に果たしている役割を理解する。 *効果的なコミュニケーションを行うために、プレゼンテーションの注意点、ソフトウェアの上手な使い方を身に付けさせるとともに、プレゼンテーションを実施し、評価し改善する活動を行わせる。 *プレゼンテーション(PowerPoint)	パフォーマンス課題（プレゼンテーション） 期末考査 実習課題	パフォーマンス課題（プレゼンテーション） サポートノート	パフォーマンス課題（プレゼンテーション） サポートノート
	10	第4編 情報通信ネットワークとデータの活用 第1章 ネットワークのしくみ 第2章 データベース 第3章 データの分析 実習	*情報通信ネットワークの基本的な方式やプロトコルの役割について理解する。 *データベースの概念及びデータベース管理システムの機能やデータの損失を防ぐしくみについて理解する。 *データを表現・蓄積するためのデータの形式に関する知識と、データの収集、整理、分析する方法について理解させる。 *表計算ソフト(Excel)			
	中間考査					
	11	第3編 コンピュータとプログラミング 第1章 コンピュータのしくみ 実習	*コンピュータや外部装置の基本的なしくみや特徴を理解させる。 *表計算ソフト(Excel)			
	12	実習	*表計算ソフト(Excel)			
	期末考査					
	3 学期	1	第2章 プログラミング 実習			
	2	第3章 モデル化とシミュレーション実習 実習	*モデル化とシミュレーションの考え方や方法を理解させるとともに、社会や自然などにおける事象をモデル化する方法や、シミュレーションを通してモデルを評価し改善する方法について理解させる。 *			
学年末考査						
	3	実習	*プログラミング			

担当者からのメッセージ(学習方法など)

「教科書」を用いた座学と「パーフェクトガイド情報」を用いた実習を中心にを行います。但し、教科書や学習ノートを用いた実習も学習進度に合わせて実施します。2学期にはグループ活動としてのプレゼンテーションとそのプレゼンテーションのための創作活動を行います。実習では継続して1つの課題を仕上げていくので、授業を欠席すると学習進度に大きく影響します。座学、実習を問わず、授業の欠席はできる限り避けて下さい。定期考査ごとに授業プリント、学習ノートを提出して貰います。これらの提出物と定期考査、実習課題を用いて成績評価をします。

科目名	理数数学Ⅱ		学年	類型・コース	単位数
			2 年	理数科	5
学習の目標	数学における基本的な概念や原理・法則の理解を深め、事象を数学的に考察し処理する能力を高め、数学的活動を通して創造性の基礎を培うとともに、数学的な見方や考え方の良さを認識し、それらを積極的に活用する態度を育てる。				
使用教材	教科書：『新編数学Ⅱ』『新編数学Ⅲ』『新編数学B』『新編数学C』（数研出版） 副教材：『新課程 4プロセス数学Ⅱ + B + C、4プロセス数学Ⅲ + C』				
評価	評価法	各定期考査による成績。 ◎単元ごとの小テストや、定期考査ごとの課題（ノート）等を参考にして評価する。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	
		b	思考・判断・表現	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価（A, B, C の 3 段階）及び評定（1～5 の 5 段階）にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1 学期	4	<数学Ⅱ> 第3章 図形と方程式 第3節 軌跡と領域	軌跡と方程式 * 点を満たす条件から得られた方程式を、図形として考察することができる。 * 軌跡の定義を理解し、与えられた条件を満たす点の軌跡を求めることができる。 * 媒介変数処理が必要な軌跡の求め方を理解している。 不等式の表す領域 * 不等式の表す領域を図示することができる。 * 領域を利用する1次式の最大値・最小値の求め方を理解している。	中間考査 小テスト	中間考査 課題 ノート	ノート プリント
	5	第6章 微分法と積分法	微分係数 * 極限値を計算して微分係数を求めるとき、分母の h			

		第 1 節 微分係数と導関数 は 0 でないことを理解している。 * 平均変化率, 微分係数の定義を理解し, それらを求めることができる。 * 微分係数の図形的意味を理解している。 導関数とその計算 * 定義に基づいて導関数を求める方法を理解している。 * 導関数の性質を利用して, 種々の導関数の計算ができる。 * 導関数を利用して微分係数が求められることを理解している。 * 変数が x, y 以外の関数について, 導関数が求められる。 接線の方程式 * 接点の x 座標が与えられたとき, 接線の方程式を求めることができる。 * 接線の方程式の公式を利用して, 接線の方程式を求めることができる。 * 曲線外の点から曲線に引いた接線の方程式の求め方を理解している。			
--	--	--	--	--	--

中間考査			期末考査 小テスト	期末考査 課題 ノート	ノート プリント
6	第 2 節 関数の値の変化 関数の増減と極大・極小 * 導関数を利用して関数の増減を調べることができる。 * 関数の増減や極値を調べるのに, 増減表を書いて考察している。 * 導関数を利用して, 関数の極値を求めたり, グラフをかくことができる。 * 関数の極値が与えられたとき, 関数を決定することができる。 関数の増減・グラフの応用 * 導関数を利用して, 関数の最大値・最小値を求めることができる。 * 最大・最小の応用問題では, 変数のとり方, 定義域に注意して解くことができる。 * 導関数を利用して, 方程式の実数解の個数問題, 不等式の証明問題を解くことができる。 * 不等式 $f(x) \geq 0$ を, 関数 $y=f(x)$ の最小値が 0 以上と読み替えることができる。				
7	第 3 節 積分法 不定積分 * 不定積分の計算では, 積分定数を書き漏らさずに示すことができる。				

			*不定積分の定義や性質を理解し, それを利用する不定積分の計算方法を理解している。 *与えられた条件を満たす関数を, 不定積分を利用して求めることができる。 定積分 *定積分の定義や性質を理解し, それを利用する定積分の計算方法を理解している。 *上端が変数 x である定積分で表された関数を微分して処理することができる。 定積分と面積 *直線や曲線で囲まれた部分の面積を, 定積分で表して求めることができる。			
		期末考査				
2 学期	9	<数学B> 第1章 数列 第1節 等差数列と等比数列 第2節 いろいろな数列	数列と一般項 *数列の定義, 表記について理解している。 等差数列 *等差数列の公差, 一般項などを理解している。 等差数列の和 *等差数列の和の公式を適切に利用して, 数列の和が求められる。 等比数列 *等比数列の公比, 一般項などを理解している。 和の記号 Σ *記号Σの意味と性質を理解し, 数列の和が求められる。 *第 k 項を k の式で表して, 初項から第 n 項までの和が求められる。 階差数列 *階差数列を利用して, もとの数列の一般項が求められる。 *数列の和 S_n と第 n 項 a_n の関係を理解し, 数列の一般項が求められる。 いろいろな数列の和 *和の求め方の工夫をして, 数列の和が求められる。	中間考査 小テスト	中間考査 課題 ノート	ノート プリント
	10	第3節 漸化式と数学的帰納法	漸化式 *漸化式の意味を理解し, 具体的に項が求められる。 *漸化式を適切に変形して, その数列の特徴を考察することができる。 *初項と漸化式から数列の一般項が求められる。 数学的帰納法 *数学的帰納法を用いて等式, 不等式, 自然数に関する			

		命題を証明できる。 * $n \geq k$ の場合に成り立つ不等式を, 数学的帰納法を用いて証明できる。 * ある整数の倍数であることを, 文字を用いて表現できる。			
	中間考査				
11	<数学C> 第3章 複素数平面	複素数平面 * 1つの複素数が複素数平面上で1つの点を表すことを理解し, 点を複素数平面上に表すことができる。 * 共役複素数の図形的意味を理解し, z が実数であるための必要十分条件, z が純虚数であるための必要十分条件を理解している。 複素数の極形式 * 素数の極形式について理解し, 複素数を極形式で表すことができる。 * 複素数の積, 商の絶対値, 偏角の性質を理解し, それらを求めることができる。 ド・モアブルの公式 * ド・モアブルの定理を理解し, 複素数の n 乗を求めることができる。 * 1の n 乗根を求めることができる。 複素数と図形 * 線分の内分点や外分点を表す複素数を求めることができる。 * 複素数の方程式について, その意味を考えたり計算したりすることで, 表す図形を求めることができる。 * 原点以外の点を中心として回転した点を表す複素数を求めることができる。 * 複素数平面上で3点が一直線上にある条件や2直線が垂直に交わる条件を理解し, 利用することができる。	期末考査 小テスト	期末考査 課題 ノート	ノート プリント
12	第4章 式と曲線 第1節 2次曲線	放物線 * 放物線が, 焦点と準線からの距離が等しい点の軌跡であることを理解している。 * 放物線の標準形について理解し, 放物線の概形をかいたり焦点や準線を求めたりできる。また, 条件から放物線の方程式を求めることができる。 * y 軸が軸となる放物線の概形をかくことができる。 楕円 * 楕円が, 2つの焦点からの距離の和が一定である点の軌跡であることを理解している。 * 楕円の標準形について理解し, 楕円の概形をかいたり			

		焦点や長軸, 短軸の長さを求めたりできる。 * 焦点の座標などから, 楕円の方程式を求めることができる。 * 焦点が y 軸上にある楕円の概形をかいたり, 焦点や長軸, 短軸の長さを求めたりできる。 * 楕円が, 円を拡大, 縮小した曲線であることを理解している。 双曲線 * 双曲線が, 2 つの焦点からの距離の差が一定である点の軌跡であることを理解している。 * 双曲線の標準形について理解し, 双曲線の概形をかいたり焦点や頂点, 漸近線を求めたりできる。 * 焦点の座標などから, 双曲線の方程式を求めることができる。 直角双曲線の定義や方程式について理解している。 * 焦点が y 軸上にある双曲線の概形をかいたり, 焦点や頂点, 漸近線を求めたりできる。 2 次曲線の平行移動 * x, y の 2 次式を変形して, 2 次曲線の概形を考えることができる。 2 次曲線と直線 * 2 次曲線の接線や接点を 2 次方程式の実数解を利用して求めることができる。 * 2 次曲線の接線の方程式の一般形について理解し, 接点を与えられたときに接線を求めることができる。			
		期末考査			

3 学期	1	第2節 媒介変数表示と極座標	曲線の媒介変数表示 * 曲線が媒介変数を用いて表される仕組みを理解している。 * 媒介変数表示された曲線の方程式を求めることができる。 * 放物線の頂点の軌跡を、媒介変数を利用して求めることができる。 * 円や楕円を媒介変数表示できる。 極座標と極方程式 * 極座標による表示について理解し、点の極座標を求めたり、極座標が与えられた点の位置を求めたりできる。 * 点の座標について、直交座標と極座標を相互に変換できる。 * 円や直線を極方程式で表すことができる。また、極方程式で表される曲線を図示することができる。 * 平面上の曲線について、x, y の方程式と極方程式を相互に変換できる。 コンピュータの利用 * 媒介変数表示された曲線や極方程式で表される曲線を、コンピュータを用いて描くことができる。	学年末 考查 小テスト	学年末 考查 課題 ノート	ノート プリント
	2	<数学Ⅲ> 第2章 第1節 数列の極限	数列の極限 * 数列の極限値の定義を理解している。 * 簡単な数列の収束、発散を調べ、極限を求めることができる。 * 収束する数列の極限値の性質を理解し、それを用いて、数列の極限が求められる。 無限等比数列 * 無限等比数列の収束・発散を利用して、様々な数列の極限を求めることができる。 * 無限等比数列の収束条件を理解し、それを利用できる。 * 漸化式で表された数列の一般項を求め、数列の極限を求めることができる。 無限級数 * 無限級数の表記について理解している。 * 無限級数の和とは、部分和の作る数列の極限であることを理解し、無限級数の収束、発散を調べられる。 * 無限等比級数の収束、発散を、公比の値で調べられる。			
	学年末考查					

3	第2節 関数の極限	関数の極限 * 簡単な関数の $x \rightarrow a$ のときの極限を求めることができる。 * 不定形を解消するなど、関数の式を適切に変形することで、関数の極限を求めることができる。 * 関数の極限が、正・負の無限大に発散する場合を調べられる。 * 簡単な関数の $x \rightarrow \pm\infty$ のときの極限を求めることができる。 * 指数関数, 対数関数の極限が求められる。 三角関数と極限 * 簡単な三角関数の極限について考察できる。 * $\lim_{x \rightarrow 0} (\sin x / x) = 1$ を利用して、三角関数を含む様々な関数の極限值を求めることができる。 関数の連続性 * 定義に基づいて、様々な関数の連続性, 不連続性を判定することができる。	小テスト プリント	小テスト 課題 プリント	ノート プリント
---	--------------	---	------------------	----------------------------	-----------------

担当者からのメッセージ(学習方法など)

授業用ノート、4プロセス用ノートは分けてください。

毎日の復習が大切です。宿題と授業で習った範囲の4プロセスの問題を解きましょう。

科目名	理数数学特論		学年	類型・コース	単位数
			2 年	理数科	2
学習の 目標	ベクトルについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。				
使用教材	教科書:『新編 数学 C』『新編 数学 A』（数研出版） 副教材:『新課程 4プロセス数学Ⅱ + B+C』 『新課程 4プロセス数学Ⅰ + A』（数研出版）				
評価	評価法	定期考査、小テスト、課題考査、ノート、プリント、課題(宿題)評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	ベクトルについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	
		b	思考・判断・表現	大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1 学期	4	数学 A 第3章 数学と人間の活動	約数と倍数 *ある整数 a の倍数は ak と表せることを使って、簡単な命題を証明することができる。 *平方数になる条件を、素因数分解の結果から考察することができる。 *自然数の正の約数やその個数を求めるのに、素因数分解が利用できることを理解している *2次の不定方程式を解くことができる。 最大公約数・最小公倍数 *2 数の最小公倍数は 2 数の素因数のすべてを因数とするとことを理解し、それを利用して問題を考察することができる。	中間考査 小テスト	中間考査 課題 ノート	ノート プリント
	5		*最大公約数と最小公倍数に成り立つ性質を利用して、2 数の最大公約数と最小公倍数が既知のときにその 2 数を求めることができる。 整数の割り算と商・余り *2 つの整数 a, b を除数と余りを用いて表し、 $a + b$ などの余りを求めることができる。 *偶数、奇数の文字による表し方を理解し、それを利用して簡単な整数の性質を証明することができる。 *整数をある正の整数で割った余りで分類して、簡単な整数の性質を証明することができる。 ユークリッドの互除法 *互除法を利用して、 $ax + by = c$ を満たす整数 x, y の組を求めることができる。			

		1 次不定方程式 *係数が小さい場合の 1 次不定方程式の特殊解を求め、それによりすべての整数解を求めることができる。			
		中間考査			
	6	*係数が大きい場合の 1 次不定方程式の特殊解を求め、それによりすべての整数解を求めることができる。 *整数に関する問題を、1 次不定方程式に帰着させることができ、問題を解くことができる。 n 進法 * n 進法の整数を 10 進法で、10 進法の整数を n 進法で表すことができる。 * n 進法の小数を 10 進法で、10 進法の整数を n 進法で表すことができる。	期末考査	期末考査	ノート プリント
	7	数学 C 第 1 章 平面上のベクトル ベクトルの演算 *ベクトルの成分表示の仕組みを理解し、具体的なベクトルを成分表示できる。また、そのベクトルの大きさを求めることができる。			
		期末考査			
2 学期	9	ベクトルの成分 *ベクトルの垂直条件を活用して、与えられたベクトルに垂直なベクトルを求めることができる。 ベクトルの内積 *ベクトルの内積の定義を理解し、内積を求めることができる。 位置ベクトル *点の位置を、基準となる点と 1 つのベクトルを用いて表すことができることを理解している。 *位置ベクトルを活用して、図形の性質が考察できる。 ベクトルの図形への応用 *線分の内分点・外分点を位置ベクトルで表す公式を、実際の図形に適用できる。 図形のベクトルによる表示 *直線のベクトル方程式について、媒介変数を用いて表すことができる。	課題考査 中間考査 小テスト	課題考査 中間考査 課題 ノート	ノート プリント
	10	第 2 章 空間のベクトル 空間の点 *空間における点の表し方を理解し、座標平面や座標軸、原点に関して対称な点の座標を求めることができる 空間のベクトル *空間図形の中で、等しいベクトルや逆ベクトルを探することができる。 ベクトルの成分 *ベクトルの成分表示について、平面上のベクトルの拡張になっていることを理解し、ベクトルが等しくなるように成分を定めたり、成分表示されたベクトルの大きさを求めたりすることができる。 ベクトルの内積 *空間のベクトルの内積や、成分表示された 2 つのベクトルのなす角を求めることができる。 ベクトルの図形への応用 *位置ベクトルの定義や内分点などの位置ベクトルが平面上のベクトルの場合と同じであることを理解している。 座標空間における図形 *座標平面に平行な平面や、座標軸に垂直な平面の方程式が求められるようになる	期末考査	期末考査	

			*いろいろな球面の方程式が求められる。			
		中間考査				
	11	数学C 第5章 数学的な表現の工夫	データの表現方法の工夫 *データをパレート図に表現する方法を理解し、パレート図をかくことができる。 行列による表現 *行列の記法やそれに関する用語を理解している。			ノート
	12		*行列の和と差の計算ができる。 *行列の実数倍の計算ができる。			プリント
		期末考査				
3 学期	1		離散グラフによる表現 *どのようなものを表現したいときに離散グラフを用いるのか理解している。	課題考査 学年末考査	課題考査 学年末考査	ノート
	2		*離散グラフの奇点, 偶点の意味を理解している。 *ダイクストラのアルゴリズムを用いて最短経路を調べることができる。	小テスト		プリント
		学年末考査				
	3		離散グラフと行列の対応 *離散グラフの隣接行列について理解し、隣接行列を求めることができる。また、与えられた隣接行列をもつ離散グラフをかくことができる。			

担当者からのメッセージ(学習方法など)

授業用ノート、4プロセス用ノートは分けてください。毎日の復習が大切です。宿題と4プロセスの授業で習った問題を解きましょう。

科目名	理数物理		学年	類型・コース	単位数
			2年	理数科	2
学習の目標	物理的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しを持って観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を身につける。				
使用教材	教科書:『物理』(数研出版) 副教材:『リードα物理』(数研出版)				
評価	評価法	定期考査、実験レポート、問題集への取り組み、発表の内容などで評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができています。	
		b	思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して、課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、粘り強く学習に取り組んでいる。自ら学習を調整しようとしている。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1学期	4	平面運動の速度・加速度	* 平面上の合成速度、相対速度の意味と求め方を理解している * 加速度は速度の時間変化を表すものであり、ベクトル量であること、またその求め方を理解できている * 動く観測者から見た場合の、観測者と同じ平面上を動く物体の運動のようすを説明できる	中間考査	中間考査	授業態度 発表内容 実習態度 (通年)
	5	落体の運動	* 水平投射は鉛直方向には自由落下、水平方向には等速直線運動をしていることを理解し、適切に式を運用できる * 斜方投射は鉛直方向には鉛直投げ上げ、水平方向には等速直線運動をしていることを理解し、適切に式を運用できる			
	中間考査					
	6	剛体にはたらく力のつりあい 剛体にはたらく力の合力と重心	* 力のモーメントについて理解している * 剛体のつりあいでは、並進運動をしない条件と回転運動しない条件が必要なことを理解している * 力のモーメントの式を理解し、うでの長さが異なるときにはたらく力の大きさについて考察できる * 剛体にはたらく複数の力の合力を求めることができる * 偶力のモーメントを求めることができる * 剛体の転倒する条件を理解している * 直方体をどのように置いたときに転倒しやすいかを調べることができる * 剛体の転倒する条件を理解し、重心の位置と転倒のしやすさの関係を説明できる	レポート	レポート	問題集取組 レポート
	7	運動量と力積	* 運動量と力積について、求め方を理解している * 運動量の変化は、その間に物体が受けた力積に等しいことを理解している			

	期末考査			期末考査	期末考査	問題集取組
2 学期	9	運動量保存則 反発係数	* 運動量の変化と力積の関係の式から、物体が受ける力積と平均の力の大きさについて説明することができる * 運動量保存則が成り立つ条件を説明することができる * 反発係数の式を用いて、衝突する物体の運動を調べることができる * 運動量保存則と反発係数の式から物体の速さを求めることができる			
	10	等速円運動 慣性力	* 等速円運動をしている物体の回転の速度、角速度、周期、回転数の諸量の定義が理解できている * 一定の半径で等速円運動する物体の速さと物体にはたらく向心力の大きさの間の関係を説明できる * 慣性力とその他の力の違いについて理解し、説明できる			
	中間考査			中間考査	中間考査	問題集取組
	11	単振動	* 単振動の変位、速度、加速度の式、運動方程式を理解している * ばね振り子や単振り子の周期の式を用いて、周期と質量や周期と糸の長さの間の関係について説明できる * 糸の長さや小球の質量、振幅を変えていったときのばね振り子の周期を測定し、周期がどのように変化するか考えることができる	レポート	レポート	レポート
	12	万有引力	* ケプラーの法則を理解している * 万有引力の式を理解している * 万有引力の位置エネルギーの式を用いて、力学的エネルギー保存則の式を立てることができる			
	期末考査			期末考査	期末考査	問題集取組
3 学期	1	気体の法則	* 気体の圧力、体積、絶対温度の間の関係について理解している * ボイル・シャルルの法則を用いて、状態変化後の気体の圧力、体積、絶対温度を求めることができる * 理想気体の状態方程式を用いることができる	レポート	レポート	レポート
	2	気体分子の運動	* 気体が熱運動して壁などの面に力を及ぼすことから圧力の大きさを表す式を導くことができる * 平均運動エネルギーと絶対温度の関係を説明できる * 単原子分子理想気体の内部エネルギーについて理解できている			
	学年末考査			学年末考査	学年末考査	問題集取組
	3	気体の状態変化	* 気体の状態変化の、「定積変化」、「定圧変化」、「等温変化」、「断熱変化」を、それぞれ p-V 図や式で表すことができる * 気体の状態変化と気体がされた仕事について説明できる * 定積モル比熱と定圧モル比熱の違いを正しく理解し、2つの間に成り立つ関係について説明できる * 熱機関のモデルとして、サイクルの状態変化を理解し、熱効率を求めることができる			

担当者からのメッセージ(学習方法など)

自らの手で計算を行うことがなにより重要です。これを基礎として、現象を数式に落とし込み、式から現象を想像する能力が体得されます。そして、図を書く習慣を身につけて下さい。図を書くことで、与えられて状況を整理する能力が身につきます。図も式も、まずは手を動かして自分の手で書いてみてください。

科目名	理数化学		学年	類型・コース	単位数
			2 年	理数科	4
学習の 目標	化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しを持って観察、実験を行うことなどを通して、化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を身に付ける。				
使用教材	教科書:『化学基礎』『化学』(数研出版) 副教材:『新課程対応 サイエンスビュー新化学資料』(実教出版) 『2025新課程版セミナー化学基礎+化学』(数研出版)				
評価	評価法	定期考査、小テスト、実験レポート、発表、ワークシート、振り返りの記述等で評価します			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	化学の基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、化学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けている。	
		b	思考・判断・表現	化学的な事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど科学的に探究している。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	化学的な事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり、振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1 学期	4	序章 化学の特徴	* 『4 種類の水溶液』をテーマに探究の過程を意識して仮説を立て、実験を実施し、発表することができる。	中間考査	中間考査	
		第1編 第1章 純物質と混合物	* 物質の構成について疑問・興味を持つ。 * 物質を分離する操作がどのようなものであるか説明することができる。			
		物質とその成分	* 【実験】混合物の分離(教 p29 実2) * 【実験】成分元素の検出(教 p36)		レポート	レポート
		物質の三態と熱運動	* PhET を用いて物質の三態における粒子の熱運動をシミュレーションする。 * 物質を加熱した時の温度変化のグラフについて説明することができる。	小テスト (元素記号)		
		第2章 原子とその構造 イオン	* 原子の構成粒子から原子番号が何によって決定されているか見出し、同位体に興味を持つ。 * ニホニウムがどのように作られたか考え、放射線に興味を持つ。 * 原子の電子配置からどのようなイオンになりやすいか予測することができる。 イオンの大小について電子配置から予測することができる。	小テスト (イオン式)		
		周期表	* キーワードを用いて元素当てクイズを作成する。 * メンデレーエフの周期表から未知の元素を推測することができる。			

	5	第3章 イオン結合とイオン結 晶 共有結合と分子 配位結合 分子間にはたらく 力 共有結合結晶 金属結晶	* 【実験】イオンからなる物質を通して、イオン結晶の性質を構造から説明することができる。 * イオン結晶を組成式で表すことができる。 * 共有結合・共有電子対・非共有電子対について説明することができる。 * 分子を電子式・構造式を用いて書き表す。 * 分子模型を用いて分子の形が何で決まるのか理解し、未知の分子の構造を予測することができる。 * 塩化アンモニウムに含まれる3種類の結合について説明できる。 * 電気陰性度のデータをもとに、分子の極性の有無を判断することができる。 * 共有結合結晶の特徴について理解し、分子結晶との違いについて説明することができる。 * 金属の持つ性質を、金属結合をもとに説明することができる。	小テスト (組成式)	レポート	レポート
	中間考査			期末考査	期末考査	
	5	第2編 第1章 原子量・分子量・式 量 物質質量 溶液の濃度	* 相対質量を計算して求めることができる。 * 同位体の存在を思い出し、原子量が相対質量の平均値であることを見出すことができる。 * 小さな粒を数えるためにはまとまりで考えることが便利であることを見出し、物質質量の概念に興味を持つ。 * 【実習】米粒を早く正確に数えるには * 物質質量と質量・気体の体積との関係を見出す。 * 【実験】物質質量を体感する(教 p111) * モル濃度と質量パーセント濃度の違いに注意し、それぞれの濃度を求めることができる。 * 【実験】0.1mol/L の NaCl 水溶液を作成する方法を記述することができる。	小テスト (物質質量)		
	6	化学反応式と物質 量	* 化学反応式を作ることができる。 * 【実習】化学反応式の係数が物質質量に比例していることを見出す * 化学反応式を用いて量的な計算を行うことができる。 【実験】NaHCO₃ の熱分解 【実験】CaCO₃ と塩酸の反応	レポート レポート	レポート レポート	
	期末考査					
2 学 期	7	第2章 酸と塩基 水素イオン濃度と pH	* 塩化水素とアンモニアの反応から、アレニウスの定義を拡張して考えることができる。 * 同じ濃度の塩酸・硫酸・酢酸の pH を測定し、水素イオン濃度が違うことから、[H⁺]の濃度の求め方を見出す。	中間考査 小テスト (酸・塩基)	中間考査	
	9	中和反応と塩 中和滴定	* 中和反応を化学反応式で書き表すことができる。 * 【実習】生じた塩の水溶液の液性と、元の酸・塩基の強弱との関係を見出し、フローチャートで書き表すことができる。 * 【実験】中和の量的関係を用いて、濃度未知の食酢の酢酸の質量パーセント濃度を実験から求めることができる。	レポート	レポート	

		第3章 酸化還元	* 酸の強弱から滴定曲線の特徴を見出し、適切な指示薬を選択することができる。 * 身の回りにおける酸化還元反応の例を挙げ、教科書 p170-207 の質問づくりを行う * 酸化還元反応の3つの定義を学び、酸化還元反応には電子の移動が伴うことを見出す * 酸化数を求めることができるようになる。	小テスト (酸化数)		
	10	酸化剤と還元剤	* 酸化剤と還元剤のはたらきを示す反応式から酸化剤と還元剤のはたらきについて説明できる。 * はたらきを示す反応式から化学反応式を作ることができる。 * 【実験】酸化剤と還元剤の反応 * 酸化還元反応の化学反応式から、量的関係を見出し、過酸化水素の濃度を求めることができる。	小テスト (酸化剤還元剤)		
		金属の酸化還元反応	* 金属樹ができることに興味を持ち、金属の単体とイオンがどのような場合に金属樹が生じるのかを見出すことができる。 * イオン化傾向と酸との反応について、酸と酸化力の違いを明確にしながら説明できる。 * 【演習】金属の同定		ワークシート	
		中間考査				
	10	第2編 第2章 1 電池	* 金属のイオン化傾向とともに電池の仕組みについて復習し、ダニエル電池や鉛蓄電池、燃料電池などの電池の具体的な構造と正極および負極において起こる反応について理解する。 * 【実習】ダニエル電池の解説動画を作ろう	期末考査	期末考査	
	11	2 電気分解	* 外部から加えた電気エネルギーによって電気分解が起こることを、水溶液の電気分解を題材としながら、酸化還元反応と関連付けて理解する。 * 【実験】電解質水溶液の電気分解 * 電気分解の工業的利用、金属の精錬	小テスト (水溶液の電気分解)		
		第1編 第1章 固体の構造 1 結晶とアモルファス	* 結晶の特徴と単位格子、配位数について理解する。また、アモルファス(非晶質)においては通常の結晶との違いを理解し、アモルファスの構造をもつ物質について学ぶ。	レポート	レポート	
		2 金属結晶	* 金属結晶の構造について学び、それぞれの結晶格子の構造から、原子半径や充填率、密度を計算する方法を理解する。 * 【実習】金属の単位格子模型を作ろう			
		3 イオン結晶	* イオン結晶の構造について学び、結晶格子の種類や陽イオンと陰イオンの配列、イオン半径の比について理解する。	小テスト (結晶の分類)		
		4 分子間力と分子結晶	* ファンデルワールス力や水素結合などの分子間力について復習し、分子間力によってできる分子結晶の性質や具体的な物質についての理解を深める。			
		第2章 1 粒子の熱運動	* 気体分子の熱運動に運動エネルギーや温度が関係することを理解し、それらを関連付けながら物質の三態変化について復習する。 * 【実習】シミュレーションソフトを用いて分子の熱運動について復習する			
		2 三態変化とエネルギー	* 状態変化に伴う熱の出入りとその名称について理解する。また、物質を構成する粒子間にはたらく力の大小と融点や沸点の関係についても理解する。			
		3 気液平衡と蒸気	* 大気圧と気液平衡の概念を理解する。また、蒸気圧			振り返り

		圧	や蒸気圧と沸騰の関係性、物質の状態図についても理解する。			
		期末考査				
3 学期	12	1 気体の体積	* 理想気体の体積や圧力、絶対温度の関係についてボイルの法則、シャルルの法則、ボイル・シャルルの法則が成りたつことを理解し、これらの関係が式で表せることも理解する。	プレ 学年末 考査	プレ 学年末 考査	レポート
		2 気体の状態方程式	* ボイル・シャルルの法則から理想気体の状態方程式が導かれることを理解する。また、理想気体の状態方程式を利用することで、気体の分子量を求めることができることも理解する。 * 【実験】状態方程式を用いた分子量測定			
	1	3 混合気体の圧力	* 混合気体について、理想気体の状態方程式から導かれる分圧の法則について理解する。また、分圧と物質量や体積、モル分率の関係について理解し、モル分率を用いた平均分子量の考え方や水上置換で捕集した気体の分圧についても理解する。			
		4 実在気体	* 気体と理想気体との違いについて理解し、その違いを踏まえ、実在気体を理想気体とみなして扱える条件についても理解する。			
		第4章 1 溶解とそのしくみ	* イオン結晶や分子からなる物質の溶解について、溶質および溶媒の極性の有無などと関連付けながら、そのしくみや溶解性の違いを理解する。 * 【実験】分子の極性と溶解			
		2 溶解度	* 飽和溶液において成りたっている溶解平衡について理解する。さらに溶解平衡と関連付けながら固体の溶解度や再結晶について復習するとともに、新たに水和水をもつ物質の溶解量についても理解する。また、気体の溶解度と温度・圧力の関係について理解をし、ヘンリーの法則についても理解する。さらに溶液の濃度の表し方について、質量パーセント濃度とモル濃度について復習するとともに、新たに質量モル濃度についても理解する。			
		3 希薄溶液の性質	* 希薄溶液では溶質の数にのみ依存して成りたつ共通の性質(蒸気圧降下、沸点上昇、凝固点降下、浸透圧)があることを理解し、それぞれの現象についても理解する。また、凝固点降下や浸透圧を利用することで分子量の測定ができることなども理解する。 * 【実験】凝固点降下を利用した分子量測定	レポート 学年末 考査	レポート 学年末 考査	
	2	4 コロイド溶液	* コロイドとその分類について理解をし、コロイド溶液に特徴的な性質(チンダル現象、ブラウン運動、透析、電気泳動)を現象を交えて理解する。また、親水コロイドや疎水コロイド、保護コロイドに特徴的な現象についても理解する。 * 【実験】水酸化鉄(Ⅲ)のコロイド溶液を作る	レポート	レポート	レポート
		第2編物質の変化 1 化学反応と熱	* 化学反応に伴って放出・吸収する熱量をエンタルピー変化で表すことと、反応エンタルピーの種類とそれぞれの定義について理解する。また、実験により反応エンタルピーを測定できることも理解する。			
		2 ヘスの法則	* ヘスの法則を用いることで実験で測定が困難な反応エンタルピーを求めることができることを理解する。また生成エンタルピーや結合エネルギーなどについて、ヘスの法則を利用して反応エンタルピーを算出する方法について理解する。 * 【実験】ヘスの法則			

		3 化学反応と光	* 化学反応の前後における物質のもつ化学エネルギーの差が光の発生や吸収となって現れることを、光合成や光触媒などの身近な具体例を交えながら理解する。			
		学年末考査				
	3	第3章 1 化学反応の速さ 2 反応条件と反応速度 3 化学反応のしくみ	* 反応速度の表し方とその求め方を理解する。 * 速度定数を用いた反応速度式の表し方と実験データからの速度定数の求め方を理解する。また、反応速度に影響を与える要因については「濃度・温度・触媒の有無」があることを理解する。触媒の利用例についても理解する。 * 化学反応のしくみについて、反応速度に影響を与える要因などと反応の活性化エネルギーなどを関連付けながら理解する。			

担当者からのメッセージ(学習方法など)

理数化学では実験や協働学習の機会を大切にしてください。学校で化学を学ぶ意義は「実際に物質や実験器具に触れてみる」「クラスメイトと考え方や意見を共有するなかで、探究する力をつける」ことにあると思っています。理科はテスト前に必要事項を一生懸命暗記して、それをテスト用紙に書きつける教科だと思っていませんか？確かに化学の基本的な事項を頭に入れることは大切です。しかし、コンテンツとともに学びのプロセスも大切にしてほしいのです。学びのプロセスを身に着ければ、どんな場面にも対応できる力が付きます。化学を通して、学ぶ力をつけていきましょう。

科目名	理数生物		学年	類型・コース	単位数
			2 年	理数科	2
学習の 目標	生物に関する種々の現象や生物の構造等を学ぶ中で、生物学に関する知識を身につけると共に、科学的・論理的な思考力を養う。その結果、生物学を探究するために必要な資質・能力を育成する。				
使用教材	教科書:『生物』(数研出版) 副教材:『新課程二訂版スクエア最新図説生物』(第一学習社) 『リードα生物』(数研出版)				
評価	評価法	定期考査、実験レポート、授業ノートなどで評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができています。	
		b	思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して、課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、粘り強く学習に取り組んでいる。自ら学習を調整しようとしている。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1 学期	4	第 1 章 生物の進化 1. 生命の起源と生物の進化 2. 遺伝子の変化と多様性	* 生命の起源として、無機物から有機物が生じ、有機物の集まりから「細胞」が生じたと考えられていることを理解する。生物が代謝を通じて地球の環境を変化させてきたこと、地球の環境の影響を受けて生物が進化してきたことを理解する。 * 生物の形質の変化は、遺伝子の変化によって生じることを理解する。突然変異によって、遺伝的な多様性が生じることを理解する。	中間 考査	レポート 中間 考査	授業態度 実習態度 (通年)
	5	3. 遺伝子の組み合わせの変化	* 減数分裂の過程では、染色体の乗換えによって遺伝子の組換えが起こることを理解する。有性生殖においては、親から子へと遺伝子が受け継がれる過程で、遺伝子の組み合わせが変化することを理解する。			レポート
	中間考査					問題集課題 授業ノート
	6	4. 進化のしくみ 5. 生物の系統と進化	* 遺伝的浮動と自然選択によって遺伝子頻度が変化することを理解する。隔離によって種分化が生じやすくなることを理解する。 * DNA の塩基配列やタンパク質のアミノ酸配列から、生物の系統を推定できることを理解する。生物が、系統に基づいて 3 つのドメインに分類されることを理解する。			
	7	6. 人類の系統と進化	* 人類が、霊長類のうちの類人猿から進化したことを理解する。人類の特徴として、直立二足歩行をすることが重要であることを理解する。			
	期末考査			期末考査	期末考査	問題集課題 授業ノート

2 学期	9	第 2 章 細胞と分子 1. 生体物質と細胞 2. タンパク質の構造と性質	* PCR法・電気泳動法の実習 * 細胞を構成する代表的な物質とその特徴について理解する。生物の基本単位である細胞の構造とその機能について理解する。 * 細胞の生命活動を担うタンパク質の構造について理解する。タンパク質の構造と機能との密接な関係について理解する。	中間 考 査	中間 考 査	問題集課題 授業ノート			
	10	3. 化学反応にかかわるタンパク質 4. 膜輸送や情報伝達にかかわるタンパク質	* 酵素の基本的な性質と、酵素がはたらく反応条件について理解する。酵素反応を調節するしくみについて理解する。 * 生体膜を介した物質輸送と、それにかかわるタンパク質のはたらきについて理解する。情報伝達にかかわる受容体タンパク質のはたらきについて理解する。						
	中間 考 査								
	11	第 3 章 代謝 1. 代謝とエネルギー 2. 呼吸と発酵	* 生体内で起こる化学反応の一部は酸化還元反応であり、反応に際して大きなエネルギーの出入りを伴うことを理解する。 * 呼吸では、有機物が酸化されるのに伴う一連の酸化還元反応によってエネルギーが取り出され、ATP が合成されることを理解する。発酵では、酸素を用いずに有機物が分解され、ATP が合成されることを理解する。 * 細胞内ではたらく酵素による酸化還元反応実習 * アルコール発酵実習				レポ ー ト	レポ ー ト	レポ ー ト
	12	3. 光合成	* 光合成では、光エネルギーを用いて ATP と電子の運搬体が合成され、これらを用いて二酸化炭素が還元されて有機物が生じることを理解する。 * 植物の光合成色素の分離実習				レポ ー ト	レポ ー ト	レポ ー ト
	期 末 考 査						期 末 考 査	期 末 考 査	問題集課題 授業ノート
3 学期	1	第 4 章 遺伝情報の発現と発生 1. DNA の構造と複製	* DNA について、2 本のヌクレオチド鎖の方向性をふまえた詳しい構造を理解する。DNA が正確に複製される詳しいしくみを理解する。	学 年 末 考 査	学 年 末 考 査	問題集課題 授業ノート			
	2	2. 遺伝情報の発現 3. 遺伝子の発現調節 4. 発生と遺伝子発現	* DNA の遺伝情報を写し取って、RNA が合成されるしくみを理解する。転写された RNA から、タンパク質が合成されるしくみを理解する。 * 遺伝子の発現が、環境の変化などに応じて変化することを理解する。原核生物と真核生物において、それぞれの遺伝子発現が調節されるしくみを理解する。 * 発生の過程で、遺伝子の発現調節によって細胞が分化するしくみを理解する。細胞の分化を引き起こす遺伝子の発現調節は、細胞内の物質のはたらきや、他の細胞からののはたらきかけによって起こることを理解する。						
	学 年 末 考 査								
	3	5. 遺伝子を扱う技術	* 遺伝子を扱うさまざまな技術が、私たちの生活に与える影響を理解する。						

担当者からのメッセージ(学習方法など)

日々の授業は、その日の内容を理解できるよう、授業中および家庭で教科書を読みましょう。図説や問題集を利用しながら、復習をしましょう。考査前には、再度問題集を解き、授業中に行った問題演習の確認をしましょう。実験や実習においては、目的を理解し、取り組み、「考察」を大切にしたいレポートを作成し、必ず提出しましょう。

科目名	理数探究		学年	類型・コース	単位数
			2年	理数科	2
学習の目標	平常の授業で扱えない科学に関する研究課題について、継続的な観察・実験を行い、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに、創造性の基礎を培う。また、研究成果を論文などにまとめ、発表する力を養う。				
使用教材	教科書：なし 副教材：研究班毎に研究に必要な文献				
評価	評価法	研究への取り組み、制作ポスター、ポスターセッションでの発表内容、質疑応答に対する対応などで評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作や科学的作法、に関連する基本的な技術の習得ができています。	
		b	思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して、課題の解決や共有をすることができる思考力・判断力・表現力などを身に付けている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、粘り強く学習に取り組んでいる。自ら学習を調整しようとしている。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末と学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)及び評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
				a	b	c
1学期	4	探究を始める前に科学的とは探究するうえでの心構え テーマの設定 年間研究計画書の作成	* 科学とは何かについての根本的な理解を促し、科学の表現方法について理解する。 * 科学は多くの人と情報を共有できるように表現していることを理解する。 * 実験データのねつ造や改ざん、引用と盗用の違い、個人情報の取り扱い、生命倫理について考え、探究を始める前に、「やってはいけないこと」と「やらなければいけないこと」を理解する。 * テーマの設定が、探究において最も重要な要素であることを認識し、研究班の班分けを行う。	研究記録シート (通年)	研究記録シート (通年)	研究記録シート (通年) 研究への取組(通年)
	5	テーマについて調べる テーマを決める 仮説を立てる 実験・調査・アンケート等を行う	* 調べる際の着目点を確認し、図書館やインターネットで調べる方法やそのときの注意点について理解する。 * テーマを細分化し、分析し、その中でテーマにふさわしい切り口や視点を探して、テーマの焦点をしぼる。その際には、探究の対象は、できるだけ具体的・限定的にするとよいことを理解する。 * テーマは検証できるテーマであるかを確認する。			
	6	研究の続き	* 各研究班のテーマに基づき、実験等を行う * 研究プロセスの強化や効率化のための、生成 AI の利用方法を理解する。 * 実験等の結果を考察し、再度課題解決のためのテーマを設定し、研究を進める。			
	7	研究の続き	* 各研究班のテーマに基づき、実験等を行う。 * 研究プロセスの強化や効率化のための、生成 AI の利用方法を理解する。 * 実験等の結果を考察し、再度課題解決のためのテーマを設定し、研究を進める。			

2 学期	9	ポスターのつくり方	* ポスター発表用のポスターのつくり方を理解する。 * 学術用のポスターでの図やグラフの配置・参考文献の示し方等の約束事を確認する。 * データの特徴を知るための集計方法や可視化について検討し、研究の結果をまとめる。 * データの相関や擬似相関について理解し、誤差の検討を含む統計的処理や手法について習熟する。	ポスター 発表内容	ポスター 発表内容	ポスター 発表内容
	10	中間発表ポスターの作成	* A0 判のポスターを作成し研究についてまとめる。 * 発表原稿を作成し、中間発表時の役割分担を行う。			
	11	ポスターセッション 中間発表	* 作成したポスターを用いて中間発表を行い、決められた時間でプレゼンテーションを行なえる力をつける。 * 発表の後の質疑応答に答えられるような思考力・判断力・表現力を身につける。 * 発表の講評をもとに、テーマ設定を振り返り、本発表に向けての方針を立てる。			
	12	研究の続き	* 各研究班のテーマに基づき、実験等を行う。 * 実験等の結果を考察し、再度課題解決のためのテーマを設定し、研究を進める。			
3 学期	1	研究の続き 本発表ポスターの作成	* 各研究班のテーマに基づき、実験等を行う。 * 実験等の結果を考察し、再度課題解決のためのテーマを設定し、研究を進める。 * A0 判の本発表ポスターを作成する。 * 発表原稿を作成し、本発表時の役割分担を行う。	ポスター 発表内容	ポスター 発表内容	ポスター 発表内容
	2	ポスターセッション 本発表	* 作成したポスターを用いて本発表を行い、聴衆の前で決められた時間でプレゼンテーションを行う。 * 発表の後の質疑応答に答えられるような思考力・判断力・表現力を身につける。 * 発表の講評を踏まえて、最終的な論文作成を行う準備をする。			
	3	論文の作成	* 科学論文の書式を学び、論文を作成する。 * タイトルやアブストラクトの書き方から、実験方法、結果・考察、引用文献の書式まで論文を書く上での基本的な技術を身につける。	論文	論文	論文

担当者からのメッセージ(学習方法など)

自分たちでテーマを決め 4 人班で 1 年間かけて行う理数探究は、理数科の授業の中でも中心となる学習活動です。この授業ではテーマの設定から実験の実施、結果のまとめやポスターセッションでの発表、そして論文作成まで、教科書の枠を超えて自分たちで調べて学習に粘り強く取り組む必要があります。班活動で行いますから、お互いのコミュニケーションや役割分担も重要になってきます。発表する際のルールや方法、研究における生成 AI の活用方法等について知ること必要です。道のりは長いですが、自分たちの研究を進めていく中で、問題に立ち向かい、自ら進んで学習する大切さを学ぶことができるでしょう。